

日常生活圏域ニーズ調査
(一般高齢者／要支援・要介護認定者アンケート調査)
報告書

平成 26 年 12 月

みなかみ町

目次

I.調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象および調査の構成	1
3. 抽出方法	1
4. 調査方法	1
5. 調査期間	1
6. 回収状況	1
7. 回答者の属性	2
II.日常生活圏域ニーズ調査結果	6
1. 評価項目別の結果	6
(1) 生活機能（運動、身体）	6
1) 虚弱	6
2) 運動器	9
3) 栄養改善	11
4) 口腔機能	14
5) 閉じこもり予防	17
6) 認知症予防	20
7) うつ予防	23
8) 転倒	26
9) 認知症機能障害の程度（CPS）	29
10) 二次予防事業対象者	33
(2) 日常生活・社会参加	34
1) 日常生活動作（ADL）	34
2) 手段的自立度（IADL）－老研指標	38
3) 知的能動性－老研指標	41
4) 社会的役割－老研指標	44
5) 老研指標総合評価（IADL、知的能動性、社会的役割）	47
6) 趣味の有無	50
7) 生きがいの有無	52
8) グループ・クラブ・会・サークルへの参加	54
9) 地域活動や仕事	59
10) 助け合いの関係	63
11) 相談相手	65
12) 友人関係	66
2. 疾病・健康	68
(1) 主観的健康感	68
(2) 疾病（治療中・後遺症のある病気）	71
1) 高血圧	72

2) 筋骨格の病気.....	72
3) 心臓病.....	73
4) 糖尿病.....	73
5) 脳卒中.....	74
6) 認知症.....	74
(3) 飲酒.....	75
(4) 喫煙.....	77
3. 介護・介助.....	79
(1) 介護・介助の必要度.....	79
(2) 介護・介助が必要になった理由.....	81
(3) 主な介護者の属性.....	83
(4) 主な介護者の年齢.....	84
(5) 在宅サービスの利用状況.....	85
Ⅲ.高齢者実態調査結果.....	86
1. 「地域包括支援センター」について.....	86
(1) 「地域包括支援センター」の認知・利用経験.....	86
(2) 「地域包括支援センター」の利用目的.....	88
2. 現在の生活で不安を感じていること.....	89
3. 地域で生きがいを持って暮らしていくための希望.....	90
4. 希望する介護のあり方（在宅／施設）.....	91
5. 介護保険料について.....	94
(1) 介護保険料の負担感.....	94
(2) 介護保険料についての考え.....	97
6. 「町の登録サポーター支援事業」について.....	99
(1) 「町の登録サポーター支援事業」の認知・利用経験.....	99
(2) 「町の登録サポーター支援事業」の利用意向.....	101
7. 介護保険施設等への申込み状況.....	103
8. 認知症についての理解内容.....	104
9. 町の「介護予防事業」の参加経験・今後の参加意向.....	105
10. 介護保険・在宅サービスの認知および今後の利用意向.....	106
11. 高齢者福祉サービスの利用状況および今後の利用意向.....	108

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、以下を目的とし、平成 27 年度から 3 年間を実施期間とする「みなかみ町第 6 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定の基礎資料とするために実施した。

- ① 高齢者の健康状態や保健・福祉サービスに関するニーズ等の把握
- ② 既存サービス及び介護保険法の改正に伴う新規サービスの事業量の把握、サービスの質の向上、サービスの定着へ向けた周知の促進
- ③ 介護サービスに対する利用者ニーズや今後の利用意向、将来的な利用ニーズ等の把握

2. 調査対象および調査の構成

みなかみ町内在住の 65 歳以上の高齢者を対象に、共通設問項目を備えた以下の 2 種の調査を実施した。

- 認定を受けていない者 1,000 名
⇒ [一般高齢者アンケート調査]として実施……[一般高齢者]として集計・分析
- 介護・要支援の認定を受けた者 500 名
⇒ [要支援・要介護認定者アンケート調査]として実施
……………[認定者]として集計・分析

なお、分析においては、設問項目ごとに、日常生活圏域ニーズ調査結果および（町独自の調査項目に相当する）高齢者実態調査結果に編成してまとめている。

3. 抽出方法

住民基本台帳、介護・要支援認定者リストから無作為抽出

4. 調査方法

郵送配布・郵送回収

5. 調査期間

平成 26 年 10 月

発送 : 平成 26 年 10 月 9 日

回収（投函）締切：平成 26 年 10 月 24 日（10 月 31 日到着分まで集計対象）

6. 回収状況

有効回収数： [一般高齢者] …… 797 件（有効回収率：79.7%）
[認定者] …………… 317 件（有効回収率：63.4%）

7. 回答者の属性

1. 分析に用いた属性について

[一般高齢者]のうち、「基本チェックリスト」（日常生活圏域ニーズ調査の25問）の結果で「二次予防事業対象者」に該当する回答者は、一般にあたる非認定者と分けて、分析の属性に用いた。

	一般高齢者 (N=797)			
	非認定		認定を申請中	認定者・わからない・無回答
	二次予防	非認定者	(二次予防対象者には、非該当)	
n	209	546	2	40

□基本チェックリスト

No.	問番号	設問	配点と選択肢
1	問 6-Q1	バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）	「2.できるけどしていない」または「3.できない」
2	問 6-Q2	日用品の買物をしていますか	「2.できるけどしていない」または「3.できない」
3	問 6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか	「2.できるけどしていない」または「3.できない」
4	問 7-Q5	友人の家を訪ねていますか	「2.いいえ」
5	問 7-Q6	家族や友人の相談にのっていますか	「2.いいえ」
6	問 2-Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2.いいえ」
7	問 2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2.いいえ」
8	問 2-Q3	15分位続けて歩いていますか	「2.いいえ」
9	問 3-Q1	この1年間に転んだことがありますか	「1.はい」
10	問 3-Q2	転倒に対する不安は大きいですか	「1.はい」
11	問 4-Q1	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1.はい」
12	問 4-Q2	身長・体重 [BMI=体重(kg)/(身長(m)×身長(m))] <18.5	BMI<18.5
13	問 4-Q3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1.はい」
14	問 4-Q4	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1.はい」
15	問 4-Q5	口の渇きが気になりますか	「1.はい」
16	問 2-Q5	週に1回以上は外出していますか	「2.いいえ」
17	問 2-Q6	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1.はい」
18	問 5-Q1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると 言われますか	「1.はい」
19	問 5-Q2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2.いいえ」
20	問 5-Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1.はい」
21	問 8-Q7-1	（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない	「1.はい」
22	問 8-Q7-2	（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめ なくなった	「1.はい」
23	問 8-Q7-3	（ここ2週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっく うに感じられる	「1.はい」
24	問 8-Q7-4	（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない	「1.はい」
25	問 8-Q7-5	（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする	「1.はい」

基本チェックリストの結果が以下の i～iv までのいずれかに該当する場合、二次予防事業対象者とする。

- i No.1 からNo.20 までの 20 問のうち、10 問以上該当する選択肢が回答された場合（虚弱）
- ii No.6 からNo.10 までの 5 問のうち、3 問以上該当する選択肢が回答された場合（運動器）
- iii No.11、No.12 の 2 問すべてで該当する選択肢が回答された場合（栄養改善）
- iv No.13 からNo.15 までの 3 問のうち、2 問以上該当する選択肢が回答された場合（口腔機能）

2.回答者

	上段:件数/下段:%				
	調査数	本人	家族が記入	その他	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	643 80.7	74 9.3	3 0.4	77 9.7
[認定者]	317 100.0	79 24.9	197 62.1	10 3.2	31 9.8

3.性別

	上段:件数/下段:%			
	調査数	男	女	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	337 42.3	443 55.6	17 2.1
[認定者]	317 100.0	96 30.3	215 67.8	6 1.9

4.年齢

	上段:件数/下段:%						
	調査数	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	212 26.6	178 22.3	162 20.3	139 17.4	96 12.0	10 1.3
[認定者]	317 100.0	18 5.7	14 4.4	35 11.0	78 24.6	164 51.7	8 2.5

5.家族構成

	上段:件数/下段:%				
	調査数	一人暮らし	家族など同居	その他(施設入居など)	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	120 15.1	659 82.7	10 1.3	8 1.0
[認定者]	317 100.0	58 18.3	202 63.7	56 17.7	1 0.3

6.居住地域

	上段:件数/下段:%				
	調査数	月夜野地	水上地区	新治地区	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	336 42.2	188 23.6	265 33.2	8 1.0
[認定者]	317 100.0	145 45.7	77 24.3	91 28.7	4 1.3

7.居住地区

上段:件数/下段:%

	調査数	古馬牧小 学校区	桃野小学 校区	月夜野北 小学校区	旧水上小 学校区	旧幸知小 学校区
[一般高齢者]	797 100.0	162 20.3	119 14.9	41 5.1	127 15.9	23 2.9
[認定者]	317 100.0	56 17.7	51 16.1	28 8.8	48 15.1	13 4.1
	藤原小学 校区	旧新巻小 学校区	旧須川小 学校区	旧猿ヶ京 小学校区	わからない	無回答
[一般高齢者]	22 2.8	117 14.7	70 8.8	61 7.7	11 1.4	44 5.5
[認定者]	8 2.5	36 11.4	32 10.1	18 5.7	5 1.6	22 6.9

8.介護度の認定状況

上段:件数/下段:%

	調査数	認定は受 けていない	認定を申 請中	要支援1	要支援2		
[一般高齢者]	797 100.0	755 94.7	2 0.3	4 0.5	2 0.3		
[認定者]	317 100.0	9 2.8	5 1.6	63 19.9	50 15.8		
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	わからない	無回答
[一般高齢者]	- -	- -	2 0.3	- -	- -	8 1.0	24 3.0
[認定者]	43 13.6	35 11.0	37 11.7	30 9.5	26 8.2	3 0.9	16 5.0

9.同居人数

上段:件数/下段:%

	調査数	2人	3人	4人	5人	6人	7人	無回答
[一般高齢者]	659 100.0	285 43.2	144 21.9	81 12.3	55 8.3	38 5.8	20 3.0	36 5.5
[認定者]	202 100.0	73 36.1	62 30.7	29 14.4	18 8.9	10 5.0	6 3.0	4 2.0

10.同居の家族

上段:件数/下段:%

	調査数	配偶者	息子	娘	子の配偶	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
[一般高齢者]	659 100.0	467 70.9	224 34.0	118 17.9	94 14.3	120 18.2	14 2.1	33 5.0	32 4.9
[認定者]	202 100.0	96 47.5	90 44.6	48 23.8	56 27.7	39 19.3	5 2.5	12 5.9	3 1.5

11.日中一人になることは

	調査数	上段:件数/下段:%			
		よくある	たまにある	ない	無回答
[一般高齢者]	659 100.0	210 31.9	252 38.2	159 24.1	38 5.8
[認定者]	202 100.0	58 28.7	87 43.1	48 23.8	9 4.5

12.年金の種類

	調査数	上段:件数/下段:%						
		国民年金	厚生年金 (企業年金 あり)	厚生年金 (企業年金 なし)	共済年金	無年金	その他	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	337 42.3	165 20.7	126 15.8	72 9.0	2 0.3	6 0.8	89 11.2
[認定者]	317 100.0	182 57.4	43 13.6	41 12.9	22 6.9	2 0.6	9 2.8	18 5.7

13.現在の住居の状況

	調査数	上段:件数/下段:%		
		一戸建て	集合住宅	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	694 87.1	22 2.8	81 10.2
[認定者]	317 100.0	274 86.4	17 5.4	26 8.2

14.現在の住居の種類

	調査数	上段:件数/下段:%					
		持家	民間賃貸 住宅	町営住宅	借間	その他	無回答
[一般高齢者]	797 100.0	677 84.9	7 0.9	17 2.1	5 0.6	8 1.0	83 10.4
[認定者]	317 100.0	267 84.2	7 2.2	5 1.6	2 0.6	16 5.0	20 6.3

Ⅱ. 日常生活圏域ニーズ調査結果

1. 評価項目別の結果

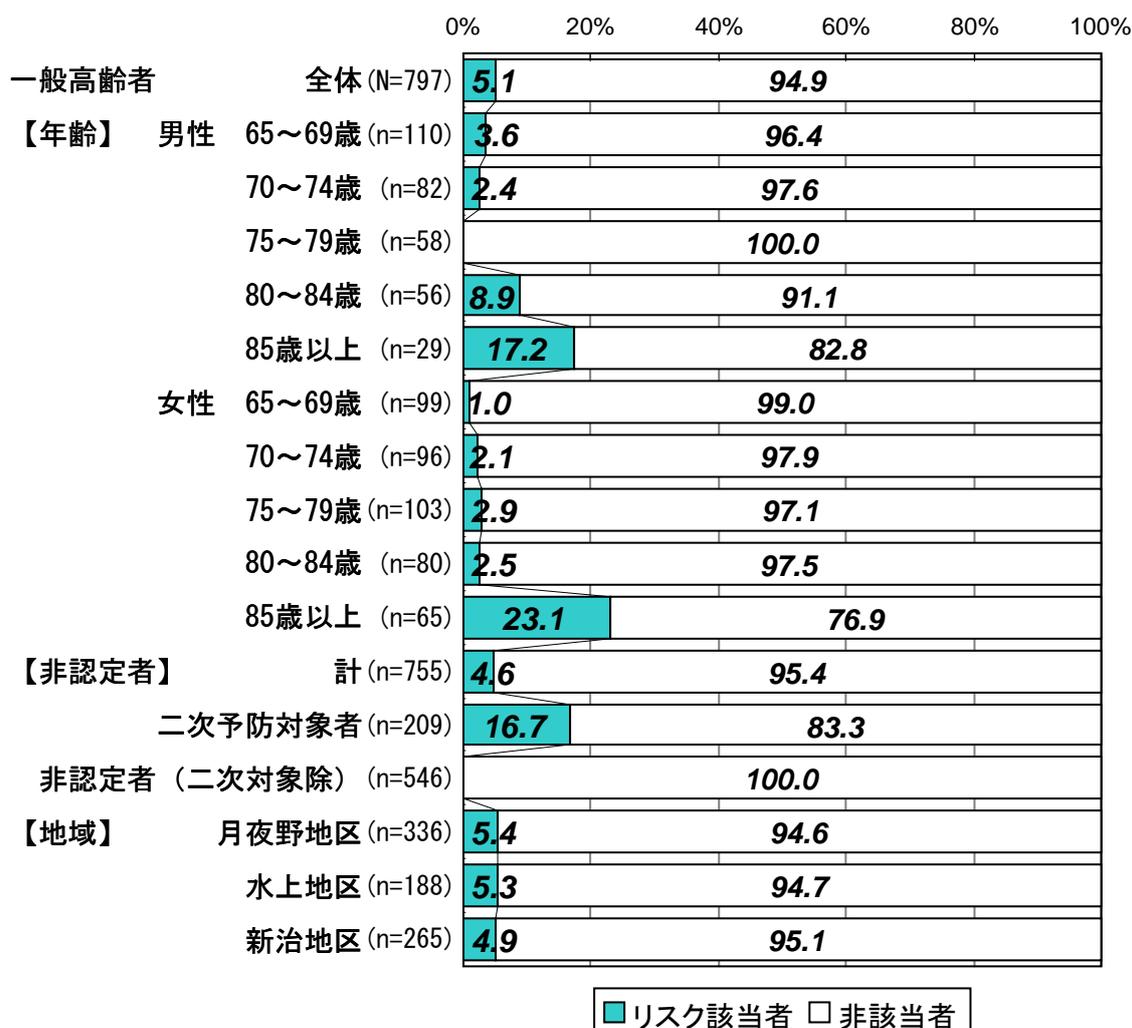
(1) 生活機能（運動、身体）

1) 虚弱

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 5.1%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、女性の 85 歳以上で 23.1%と最も高く、男性の 85 歳以上（17.2%）、男性の 80～84 歳（8.9%）の順に高い。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 16.7%。
- 地域別でリスク該当者を見ると、3 地区で 5%前後と差はない。

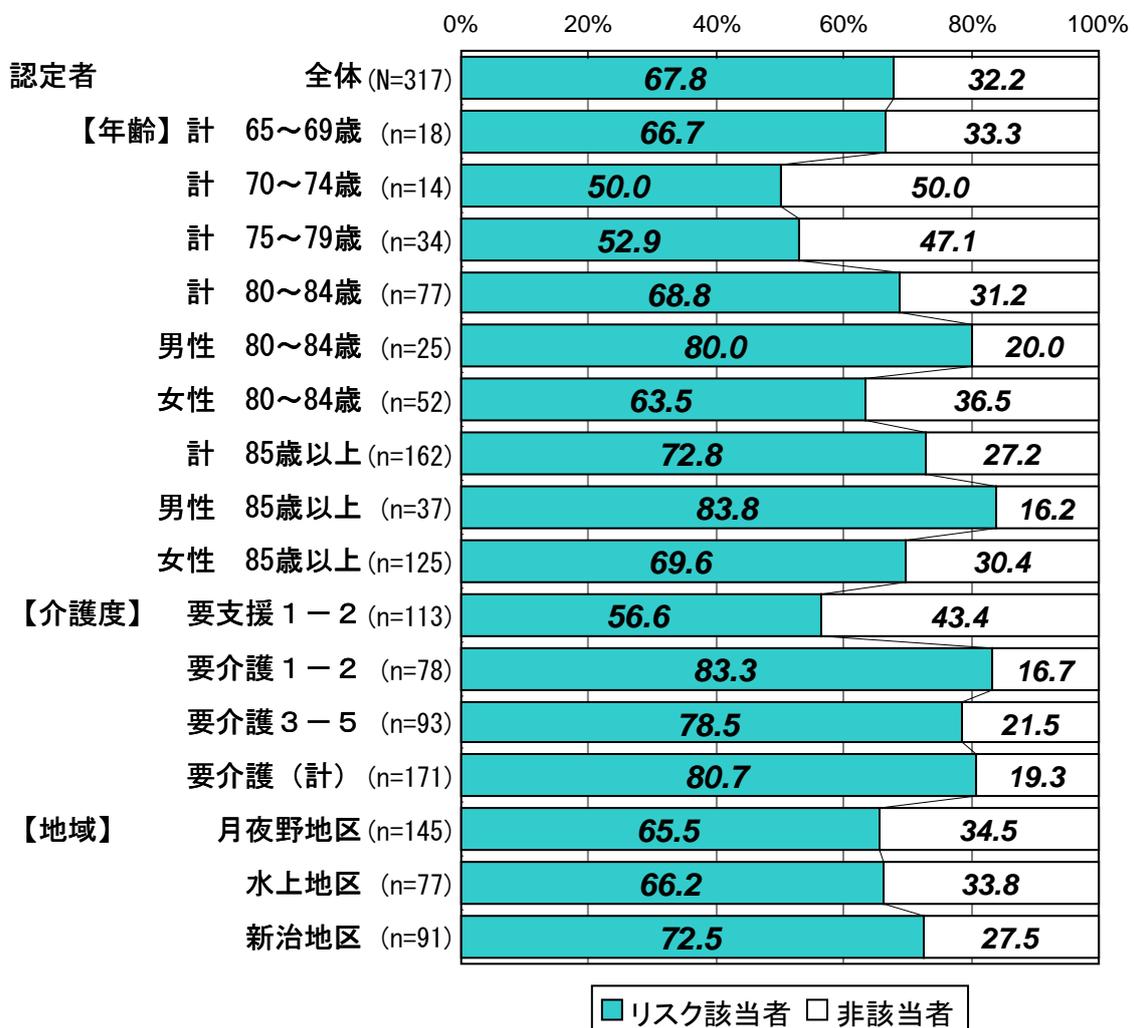
「虚弱」の評価の基礎となる設問 20 問中 10 問以上が該当する場合、リスク該当者として判定する（評価の基礎となる設問は、後述の「回答結果」を参照）。

□ 「虚弱」のリスク該当者の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 67.8%。
- 認定者のリスク該当者は 80～84 歳で 68.8%、85 歳以上で 72.8%となり、いずれも男性のほうが高い傾向になる。なお、回答者数 (n) が少ないため参考となるが、65～69 歳 (66.7%) は 70 代 (50%～52%台) よりも「虚弱」のリスク該当者が多い。
- 介護度別のリスク該当者は、要支援の 56.6%に対して、要介護では 80.7% (要介護 3-5 よりも要介護 1-2 のほうがやや高い)。
- 地域別では、新治地区の 72.5%が、他の 2 地区 (65.5%、66.2%) に比べてリスク該当者が高い。

□ 「虚弱」のリスク該当者の割合 [認定者]



□回答結果（該当者：20問中10問以上該当する選択肢を回答）

（単位：%）

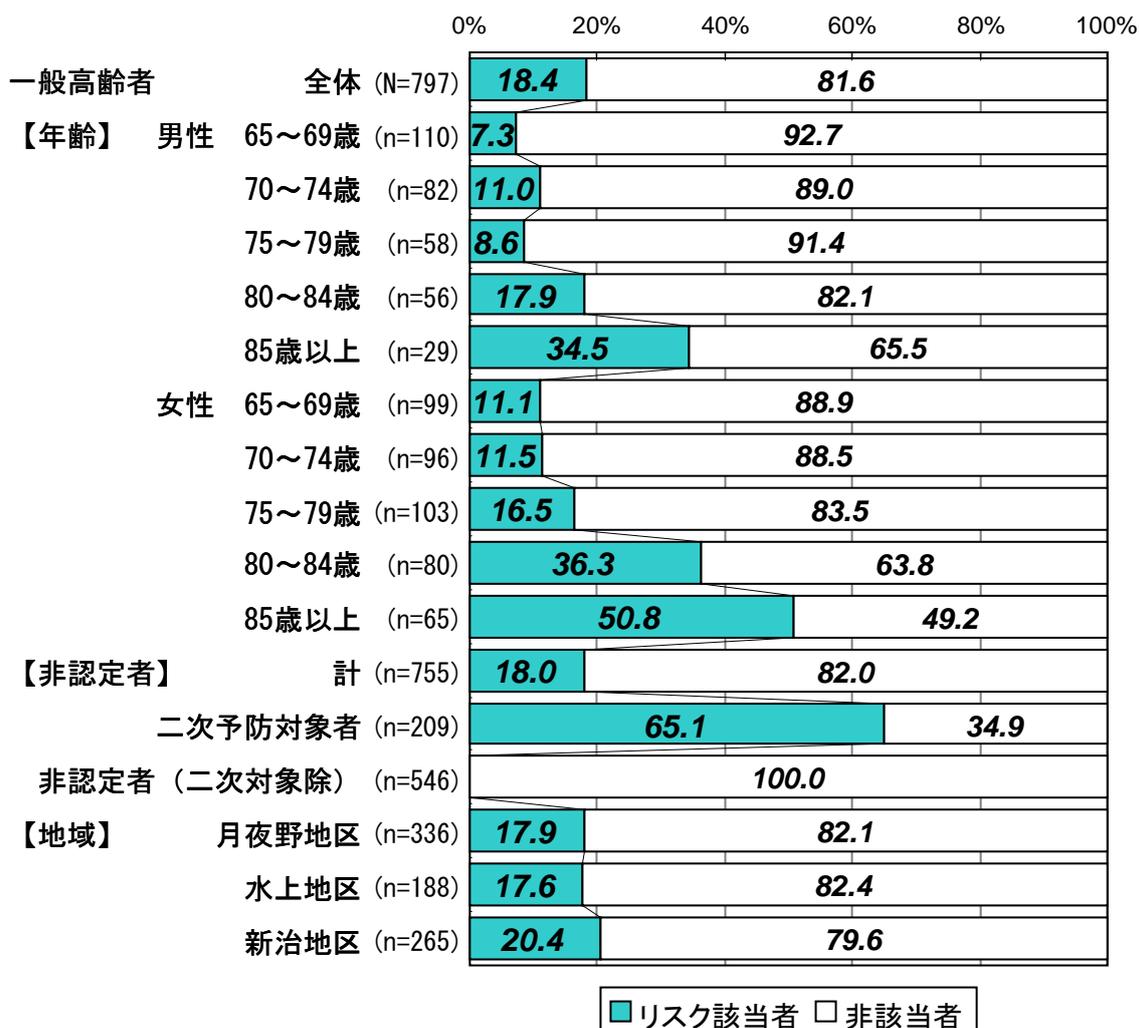
設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 2-Q1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（いいえ）	33.8		81.1		
	20.7	68.9	83.2	87.2	83.9
問 2-Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（いいえ）	18.8		73.5		
	6.2	49.8	71.7	76.9	80.6
問 2-Q3 15分位続けて歩いていますか（いいえ）	15.9		64.7		
	8.2	34.9	53.1	70.5	80.6
問 2-Q5 週に1回以上は外出していますか（いいえ）	7.9		38.8		
	4.4	16.3	36.3	28.2	53.8
問 2-Q6 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（はい）	23.8		56.2		
	15.4	45.0	58.4	60.3	52.7
問 3-Q1 この1年間に転んだことがありますか（はい）	18.8		47.6		
	10.3	40.2	46.9	60.3	41.9
問 3-Q2 転倒に対する不安は大きいですか（はい）	33.6		74.8		
	19.2	72.7	78.8	83.3	65.6
問 4-Q1 6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか（はい）	10.8		23.3		
	7.3	18.7	23.9	26.9	17.2
問 4-Q2 身長・体重 [BMI=体重(kg)/(身長(m)×身長(m))] <18.5	7.3		11.0		
	5.5	11.0	8.0	15.4	14.0
問 4-Q3 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（はい）	23.7		51.7		
	12.6	53.6	52.2	56.4	45.2
問 4-Q4 お茶や汁物等でむせることがありますか（はい）	17.2		36.9		
	7.5	42.6	34.5	41.0	39.8
問 4-Q5 口の渇きが気になりますか（はい）	21.1		33.1		
	11.4	46.4	38.1	34.6	25.8
問 5-Q1 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると云われますか（はい）	12.7		42.6		
	8.4	22.5	24.8	66.7	50.5
問 5-Q2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（いいえ）	5.9		44.2		
	4.6	6.7	17.7	62.8	67.7
問 5-Q3 今日が何月何日かわからない時がありますか（はい）	21.2		53.9		
	15.6	33.5	41.6	73.1	55.9
問 6-Q1 バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）（「できるだけしていない」または「できない」）	16.7		77.6		
	9.9	31.1	70.8	93.6	82.8
問 6-Q2 日用品の買物をしていますか（「できるだけしていない」または「できない」）	15.3		74.1		
	9.5	28.2	62.8	89.7	82.8
問 6-Q5 預貯金の出し入れをしていますか（「できるだけしていない」または「できない」）	16.9		71.0		
	14.5	21.0	57.5	88.5	82.8
問 7-Q5 友人の家を訪ねていますか（いいえ）	20.5		71.3		
	16.5	28.7	60.2	76.9	83.9
問 7-Q6 家族や友人の相談にのっていますか（いいえ）	12.0		62.5		
	9.2	18.2	45.1	79.5	72.0

2) 運動器

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 18.4%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、女性の 85 歳以上で 50.8%と半数を超えて最も高く、次いで女性の 80～84 歳 (36.3%)、男性の 85 歳以上 (34.5%) の順に高い。特に、高齢になるほど、男性に比べて女性のほうがリスク該当者の割合が高くなる傾向。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 65.1%。
- 地域別でリスク該当者を見ると、新治地区で 20.4%と他の 2 地区 (17%台) よりもやや高い。

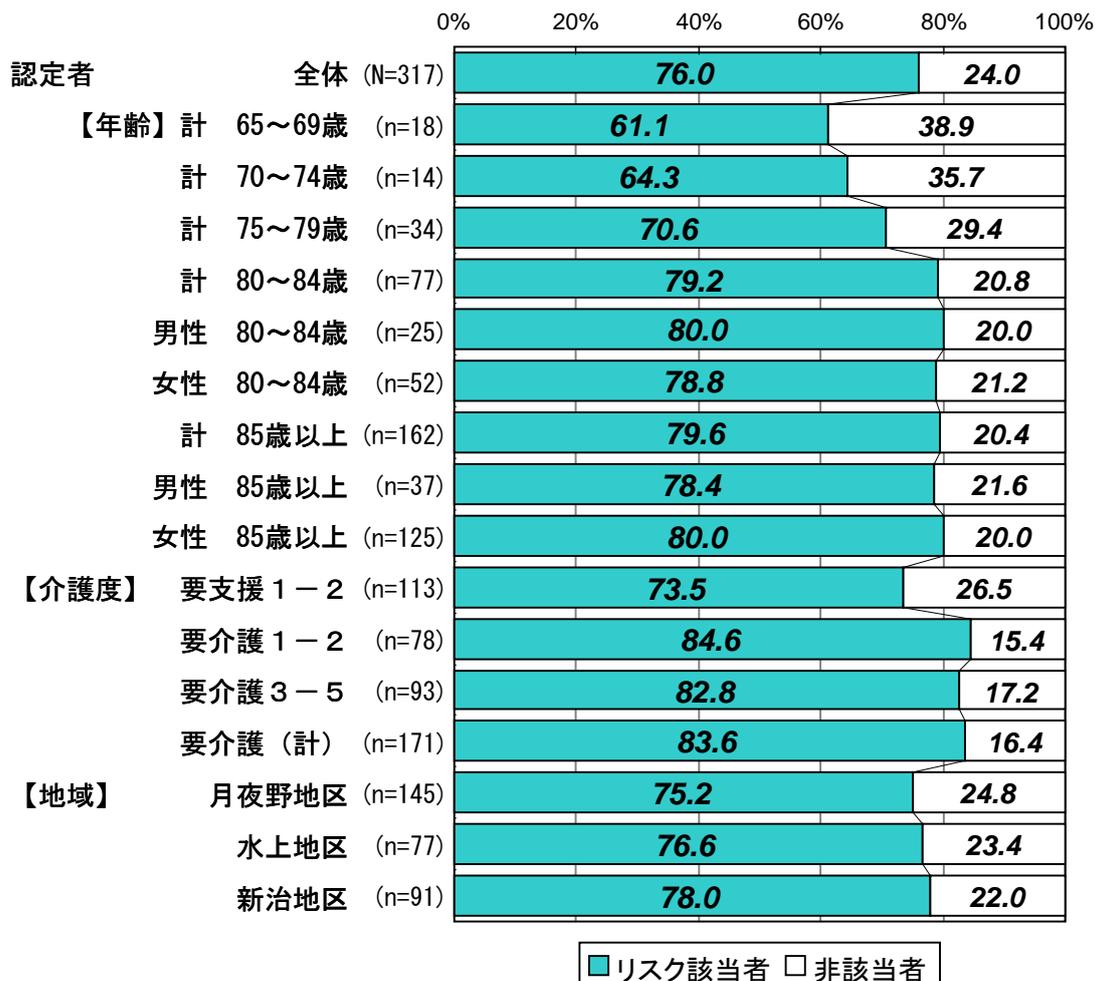
「運動器」の評価の基礎となる設問 5 問中 3 問以上が該当する場合、リスク該当者として判定する（評価の基礎となる設問は、後述の「回答結果」を参照）。

□ 「運動器」のリスク該当者の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 76.0%。
- 認定者のリスク該当者は高年齢層ほど高い傾向で、80～84 歳 (79.2%)、85 歳以上 (79.6%) では約 8 割に達する。
- 介護度別のリスク該当者は、要支援の 73.5%に対して、要介護では 83.6%。
- 地域別では、3 地区ともに 75～78%台で際立って大きな差はない。

□ 「運動器」のリスク該当者の割合 [認定者]



□ 回答結果 (該当者: 5 問中 3 問以上該当する選択肢を回答)

(単位:%)

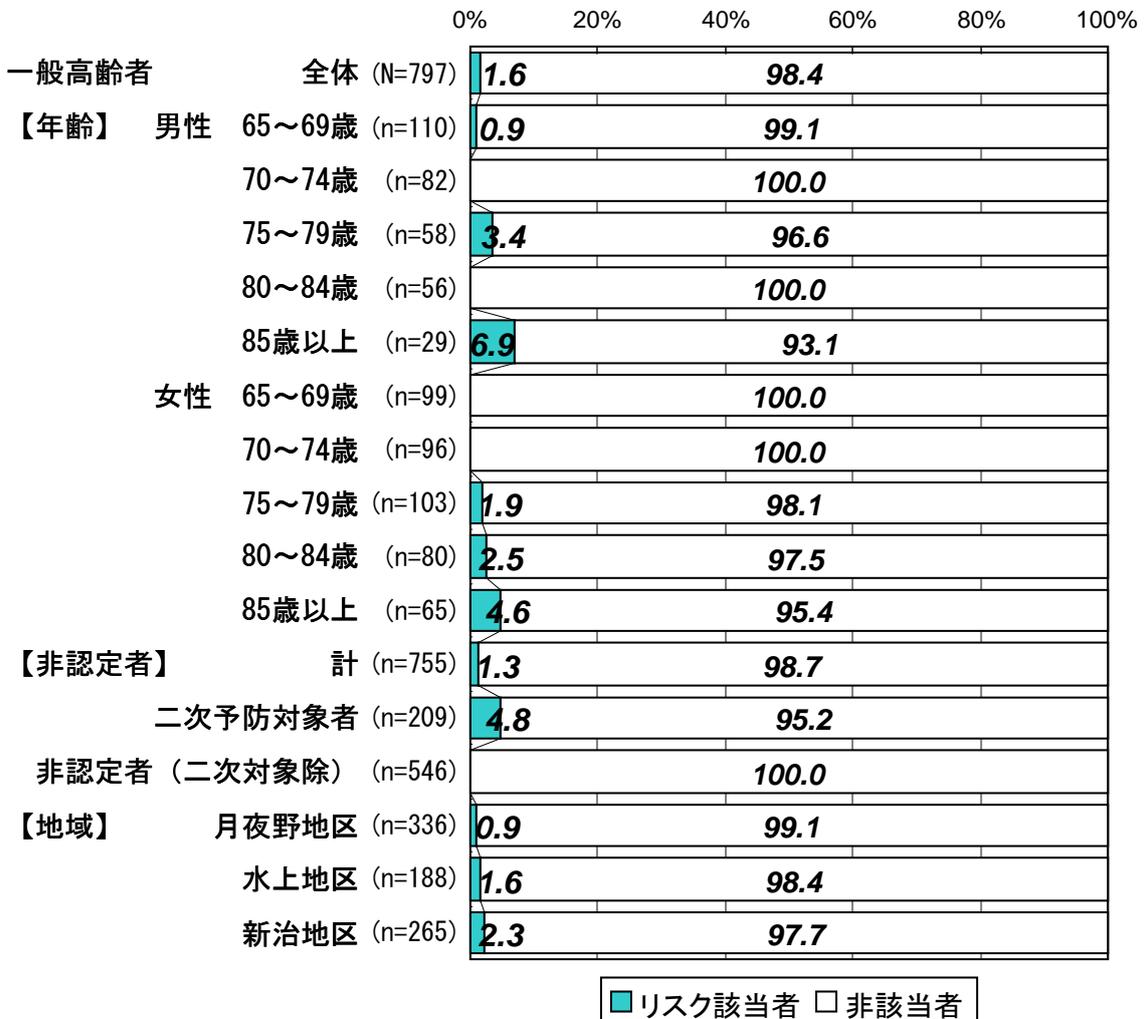
設問 (該当する回答)	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 2-Q1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (いいえ)	33.8		81.1		
	20.7	68.9	83.2	87.2	83.9
問 2-Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (いいえ)	18.8		73.5		
	6.2	49.8	71.7	76.9	80.6
問 2-Q3 15 分位続けて歩いていますか (いいえ)	15.9		64.7		
	8.2	34.9	53.1	70.5	80.6
問 3-Q1 この 1 年間に転んだことがありますか (はい)	18.8		47.6		
	10.3	40.2	46.9	60.3	41.9
問 3-Q2 転倒に対する不安は大きいですか (はい)	33.6		74.8		
	19.2	72.7	78.8	83.3	65.6

3) 栄養改善

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 1.6%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、男性の 85 歳以上で 6.9%と最も高く、女性の 85 歳以上の 4.6%、男性の 75～79 歳の 3.4%が、他に目立つ。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 4.8%。
- 地域別でリスク該当者を見ると、3 地区のうち最も高いのは新治地区の 2.3%で、際立った差はない。

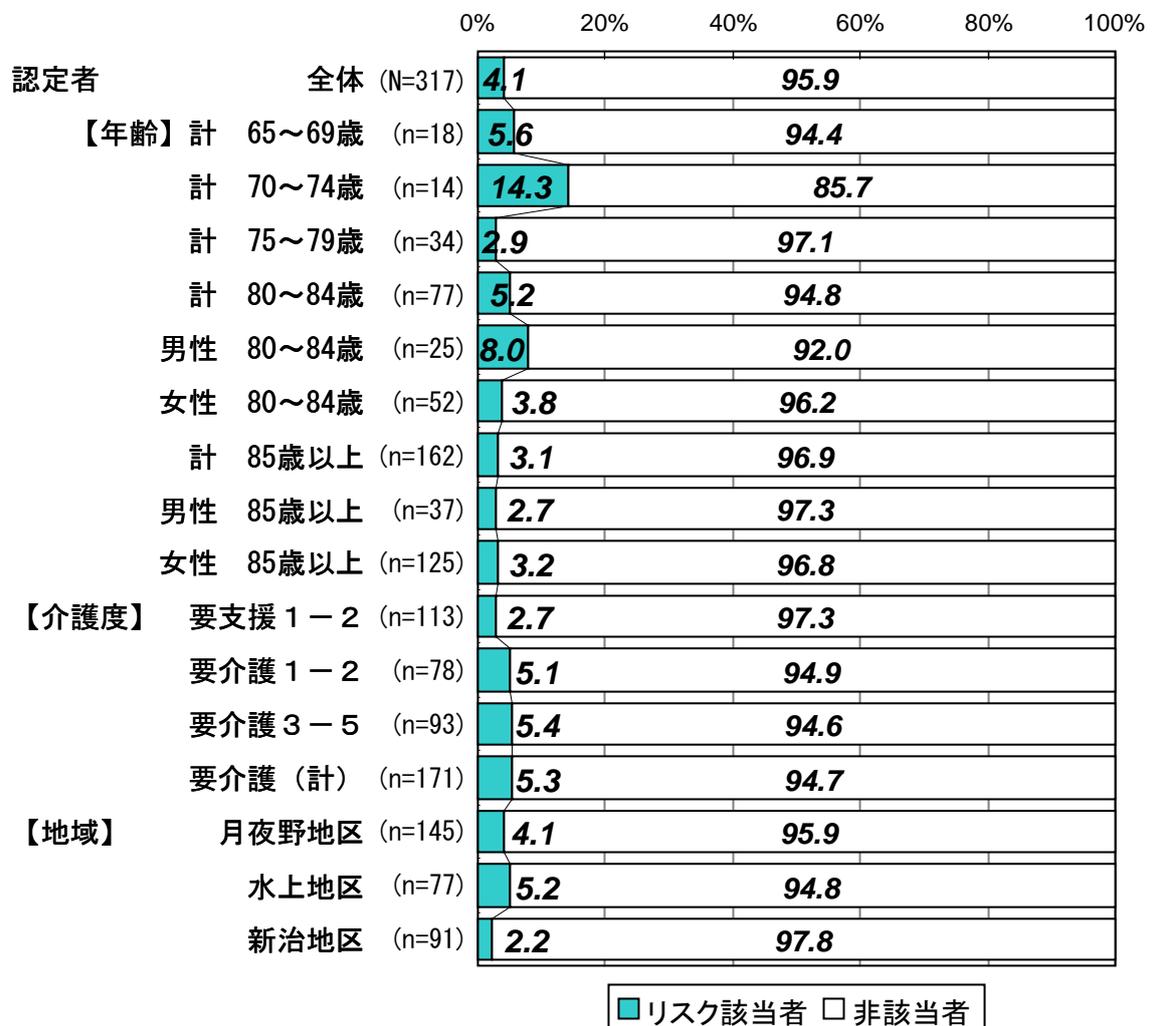
「栄養改善」の評価の基礎となる設問 2 問中すべてに該当する場合、リスク該当者として判定する（評価の基礎となる設問は、後述の「回答結果」を参照）。

□「栄養改善」のリスク該当者の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 4.1%。
- 認定者のリスク該当者は、回答者数 (n) が少ないため参考となるが、70～74 歳で 14.3% と最も高く、男性 80～84 歳でも 8.0% と比較的目立つ。
- 介護度別のリスク該当者は、要支援の 2.7% に対して、要介護では 5.3%。
- 地域別では、新治地区の 2.2% に比べて、水上地区 (5.2%)、月夜野地区 (4.1%) がやや高くなっている。
- 関連設問を見ると、「食事は自分で食べられない (「一部介助 (おかずを切ってもらふなど) があればできる」含む)」は、二次予防対象者で 1.4%、要支援で 5.3% であるのに対し、要介護 1-2 で 23.1%、要介護 3-5 では 40.9% にのぼる。

□ 「栄養改善」のリスク該当者の割合 [認定者]



□回答結果（該当者：2問すべてに該当する選択肢を回答）

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 4-Q1 6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか（はい）	10.8		23.3		
	7.3	18.7	23.9	26.9	17.2
問 4-Q2 身長・体重 [BMI=体重(kg)/(身長(m)×身長(m))] <18.5	7.3		11.0		
	5.5	11.0	8.0	15.4	14.0

□関連設問回答結果

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 6-Q6 食事は自分で食べられますか（「一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる」・「できない」）	0.5		21.4		
	-	1.4	5.3	23.1	40.9

設問（該当する回答）	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 4-Q9 1日の食事の回数は何回ですか	朝昼晩の3食	90.1	93.3	83.2	93.6	82.8
	朝晩の2食	1.8	2.9	2.7	2.6	2.2
	朝昼の2食	1.5	-	0.9	-	-
	昼晩の2食	2.0	1.9	5.3	-	-
	1食	0.2	-	-	1.3	-
	その他	0.2	-	-	2.6	2.2
問 4-Q10 食事を抜くことがありますか	毎日ある	0.5	2.9	2.7	1.3	1.1
	週に何度かある	3.3	3.3	7.1	3.8	4.3
	月に何度かある	3.5	8.6	6.2	7.7	5.4
	ほとんどない	88.1	82.8	74.3	82.1	74.2
問 4-Q11 自分一人ではなく、どなたかと食事をとる機会がありますか	毎日ある	63.4	57.9	43.4	66.7	68.8
	週に何度かある	6.6	8.1	16.8	12.8	3.2
	月に何度かある	12.5	12.4	10.6	3.8	2.2
	ほとんどない	7.7	11.0	8.0	2.6	-
	毎日ある	4.6	6.7	10.6	11.5	9.7

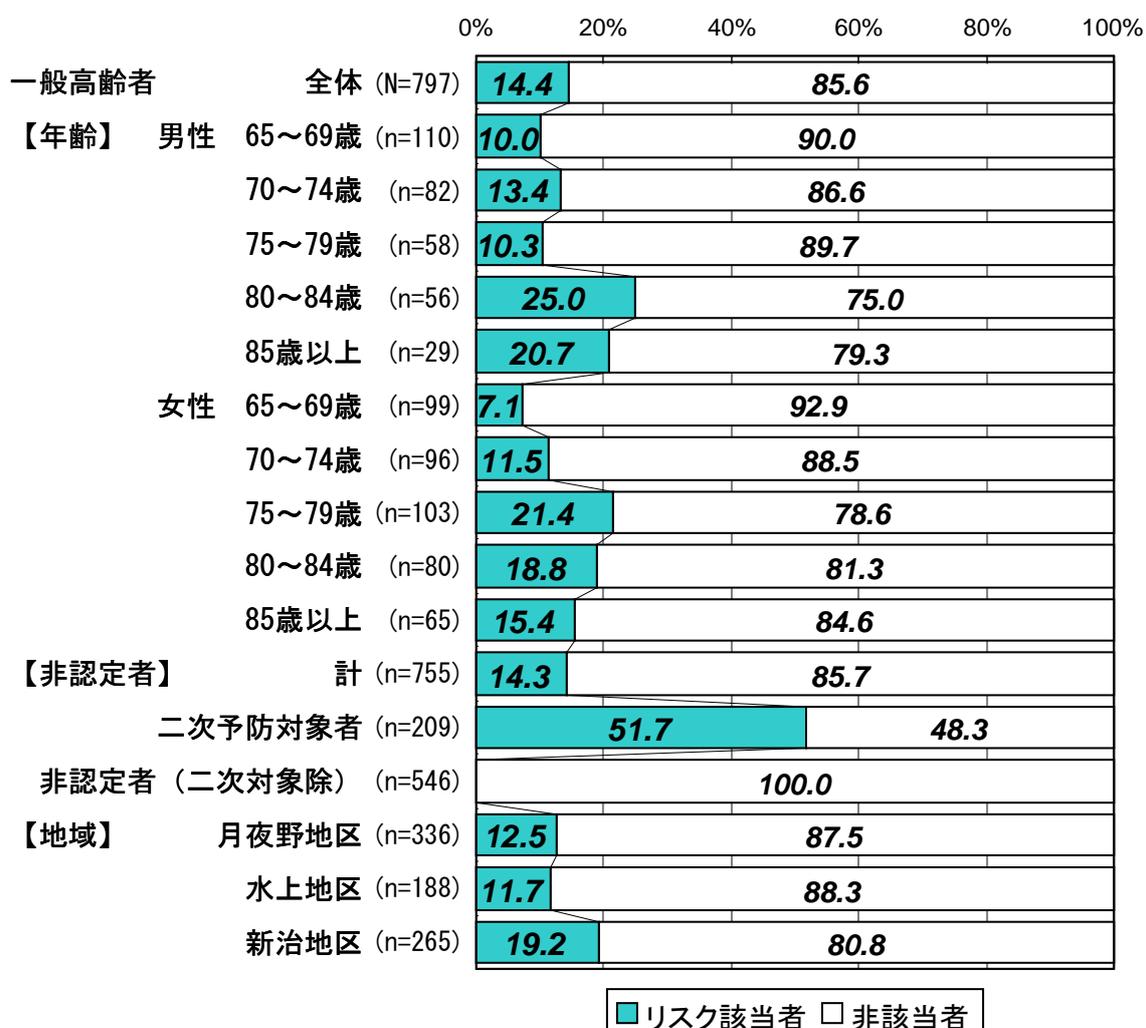
設問（該当する回答）	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=492)	二次予防 (n=187)	要支援 (n=89)	要介護 1-2 (n=67)	要介護 3-5 (n=69)
問 4-Q11-1（どなたかと食事をとる機会がある人のみ） 食事をとる人はどなたですか（いくつでも）	家族	83.3	86.1	84.3	74.6	59.4
	近所の人や友人	14.8	12.3	5.6	1.5	1.4
	デイサービスの仲間	-	1.1	18.0	34.3	31.9
	その他	7.7	7.0	6.7	11.9	27.5

4) 口腔機能

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 14.4%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、男性では 80～84 歳で 25.0%と最も高く、女性では 75～79 歳の 21.4%が、それぞれ最も高くなる。また、男性の 85 歳以上も 20.7%と 2 割に達している。女性の 80 歳以上では 2 割未満である。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 51.7%と、半数を超える。
- 地域別でリスク該当者を見ると、新治地区の 19.2%が、他の 2 地区（11～12%台）を上回る。

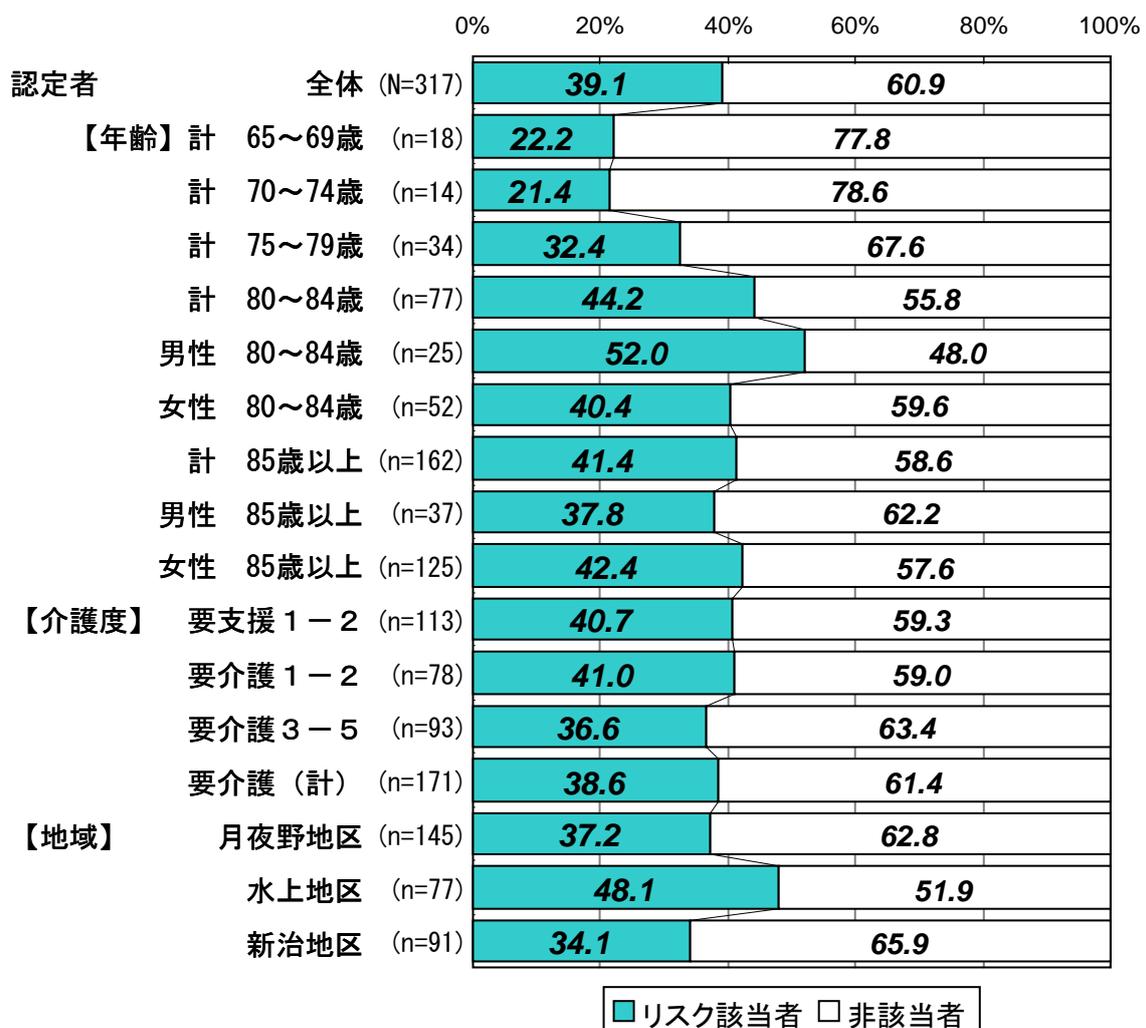
「口腔機能」の評価の基礎となる設問 3 問中 2 問以上が該当する場合、リスク該当者として判定する（評価の基礎となる設問は、後述の「回答結果」を参照）。

□ 「口腔機能」のリスク該当者の割合 【一般高齢者】



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 39.1%。
- 認定者のリスク該当者は 80～84 歳まで高年齢層ほど高くなり、80～84 歳では 44.2% (男性では回答者数 (n) が少ないものの半数を超える)。85 歳以上になると男女ともにリスク対象者の率はやや低くなる。
- 介護度別のリスク該当者は、要支援の 40.7%、要介護 1-2 の 41.0%のほうか、要介護 3-5 の 36.6%よりも高くなっている。
- 地域別では、水上地区の 48.1%が、他の 2 地区 (月夜野地区の 37.2%、新治地区の 34.1%) を大きく上回っている。
- 関連設問を見ると、「歯磨きを毎日していない」「定期的に歯科受診 (健診を含む) をしていない」との率は、要支援や要介護 3-5 に比べて、要介護 1-2 で最も高くなっている。また、「定期的に歯科受診 (健診を含む) をしていない」は、二次予防対象者では 64.6%と認定者並みの高さ (要支援の 67.3%、要介護 3-5 の 61.3%) である。

□ 「口腔機能」のリスク該当者の割合 [認定者]



□回答結果（該当者：3 問中 2 問以上該当する選択肢を回答）

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 4-Q3 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（はい）	23.7		51.7		
	12.6	53.6	52.2	56.4	45.2
問 4-Q4 お茶や汁物等でむせることがありますか（はい）	17.2		36.9		
	7.5	42.6	34.5	41.0	39.8
問 4-Q5 口の渇きが気になりますか（はい）	21.1		33.1		
	11.4	46.4	38.1	34.6	25.8

□関連設問回答結果

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 4-Q6 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（いいえ）	13.6		20.8		
	12.5	12.9	19.5	26.9	20.4
問 4-Q7 定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか（いいえ）	52.8		69.1		
	48.4	64.6	67.3	80.8	61.3
問 4-Q8 入れ歯を使用していますか（はい）	67.6		75.4		
	62.8	79.4	84.1	78.2	61.3

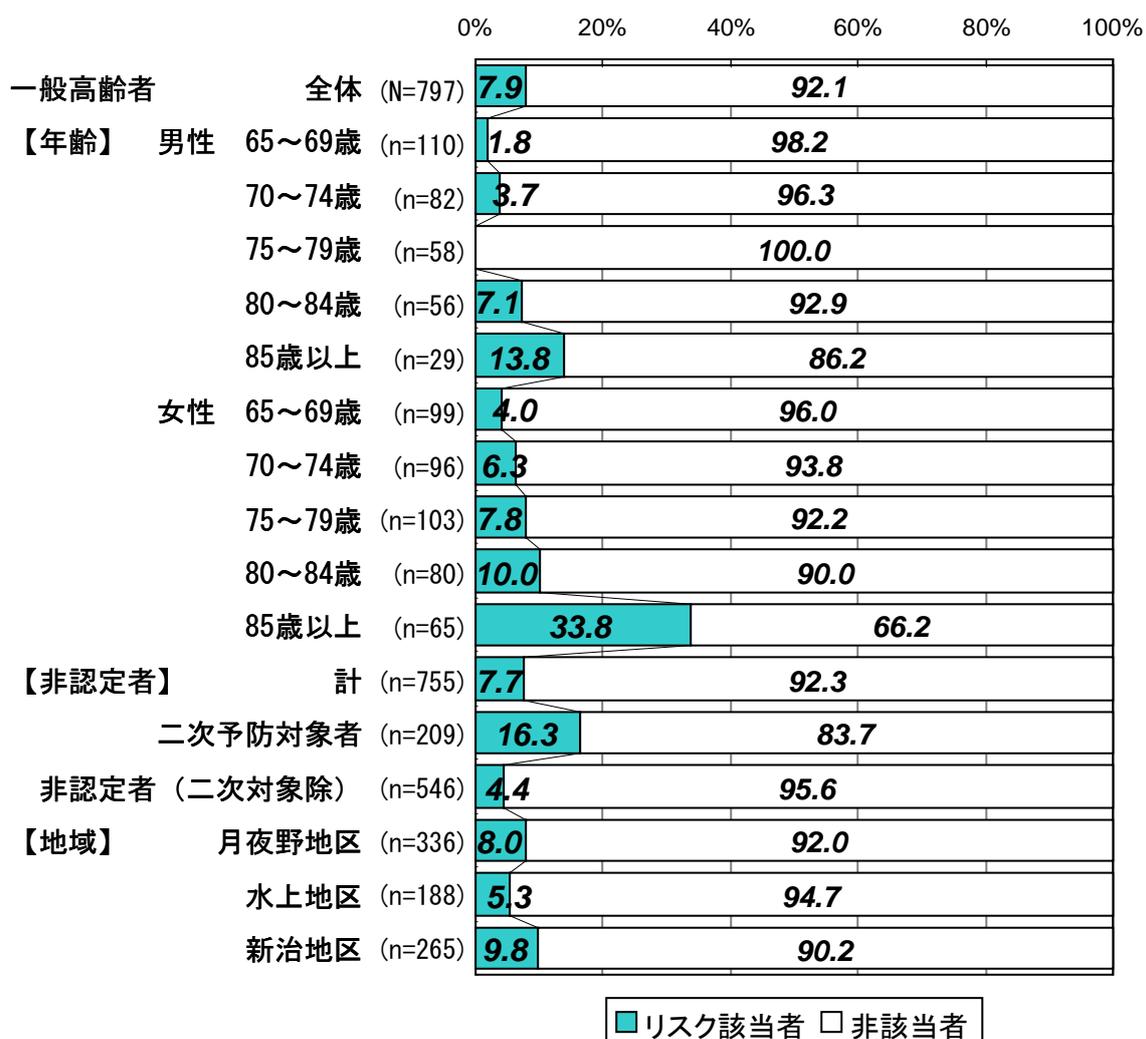
設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=343)	二次予防 (n=166)	要支援 (n=95)	要介護 1-2 (n=61)	要介護 3-5 (n=57)
問 4-Q8-1（入れ歯のある人のみ）噛み合わせは良いですか（いいえ）	9.5		20.5		
	7.3	13.3	16.8	27.9	19.3
問 4-Q8-2（入れ歯のある人のみ）毎日入れ歯の手入れをしていますか（いいえ）	5.9		10.5		
	3.2	11.4	8.4	18.0	10.5

5) 閉じこもり予防

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 7.9%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、女性の 85 歳以上で 33.8%と最も高く、男性の 85 歳以上 (13.8%)、女性の 80~84 歳 (10.0%) の順に高い。傾向としては、男性よりも女性のほうがリスク該当者が目立つといえる。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 16.3%。一般にあたる非認定者では 4.4%。
- 地域別でリスク該当者を見ると、新治地区 (9.8%) 月夜野地区 (8.0%) に比べて水上地区では 5.3%と低めである。

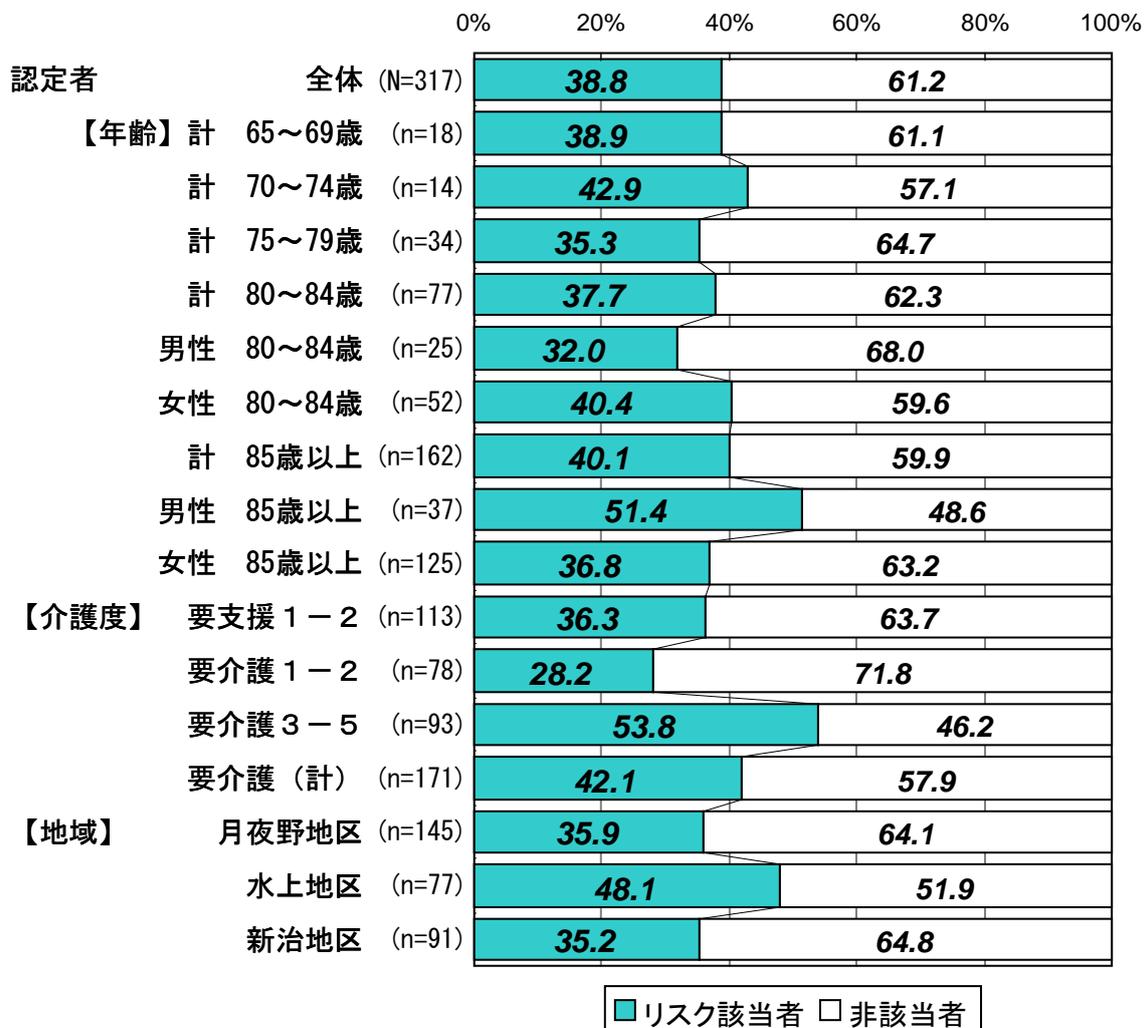
「閉じこもり予防」の評価の基礎となる設問 1 問に該当する場合、リスク該当者として判定する（評価の基礎となる設問は、後述の「回答結果」を参照）。

□「閉じこもり予防」のリスク該当者の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 38.8%。
- 認定者のリスク該当者は、回答者数 (n) が少ないため参考である 74 歳以下を除くと、高年齢層になるにつれて徐々に高くなっていき、85 歳以上で 40.1%。目立つのは男性 85 歳以上の 51.4%。
- 介護度別のリスク該当者は、要介護 3-5 で 53.8%と最も高く、次いで要支援 1-2 の 36.3%。要介護 1-2 の 28.2%よりも要支援 1-2 のリスク該当者の率のほうが高い。
- 地域別では、水上地区の 48.1%が突出して高く、他の 2 地区 (35.9%、35.2%) を大きく上回る。
- 関連設問を見ると、「昨年と比べて外出の回数が減っている」や「買い物の外出頻度が週 1 回未満」「散歩の外出頻度が週 1 回未満」は、要介護 1-2 で、要支援や要介護 3-5 よりも該当者の率が高くなっている。

□「閉じこもり予防」のリスク該当者の割合 [認定者]



□回答結果（該当者：1問の該当する選択肢を回答）

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 2-Q5 週に1回以上は外出していますか（いいえ）	7.9		38.8		
	4.4	16.3	36.3	28.2	53.8

□関連設問回答結果

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 2-Q4 5m以上歩けますか（いいえ）	2.0		28.4		
	0.5	3.8	14.2	21.8	55.9
問 2-Q6 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（はい）	23.8		56.2		
	15.4	45.0	58.4	60.3	52.7
問 2-Q7 外出を控えていますか（はい）	16.6		61.8		
	8.2	34.0	62.8	60.3	62.4
問 2-Q8 買物で外出する頻度はどのくらいですか（週1回未満）	13.3		40.7		
	9.9	22.5	46.9	52.6	32.3
問 2-Q9 散歩で外出する頻度はどのくらいですか（週1回未満）	14.9		31.5		
	14.7	16.7	31.9	41.0	31.2

□関連設問回答結果

（単位：%）

設問（該当する回答）	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=45)	二次予防 (n=71)	要支援 (n=71)	要介護 1-2 (n=47)	要介護 3-5 (n=58)
問 2-Q7-1（外出を控えている人のみ）外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）	足腰などの痛み	24.4	56.3	53.5	61.7	29.3
	トイレの心配(失禁など)	6.7	15.5	19.7	19.1	25.9
	交通手段がない	8.9	14.1	22.5	17.0	12.1
	耳の障害(聞こえの問題など)	6.7	9.9	7.0	17.0	1.7
	外での楽しみがない	4.4	11.3	9.9	8.5	3.4
	経済的に出られない	8.9	4.2	7.0	-	-
	病気	2.2	5.6	22.5	14.9	22.4
	目の障害	-	5.6	8.5	10.6	3.4
	障害(脳卒中の後遺症など)	-	1.4	4.2	12.8	22.4
	その他	6.7	8.5	11.3	10.6	12.1

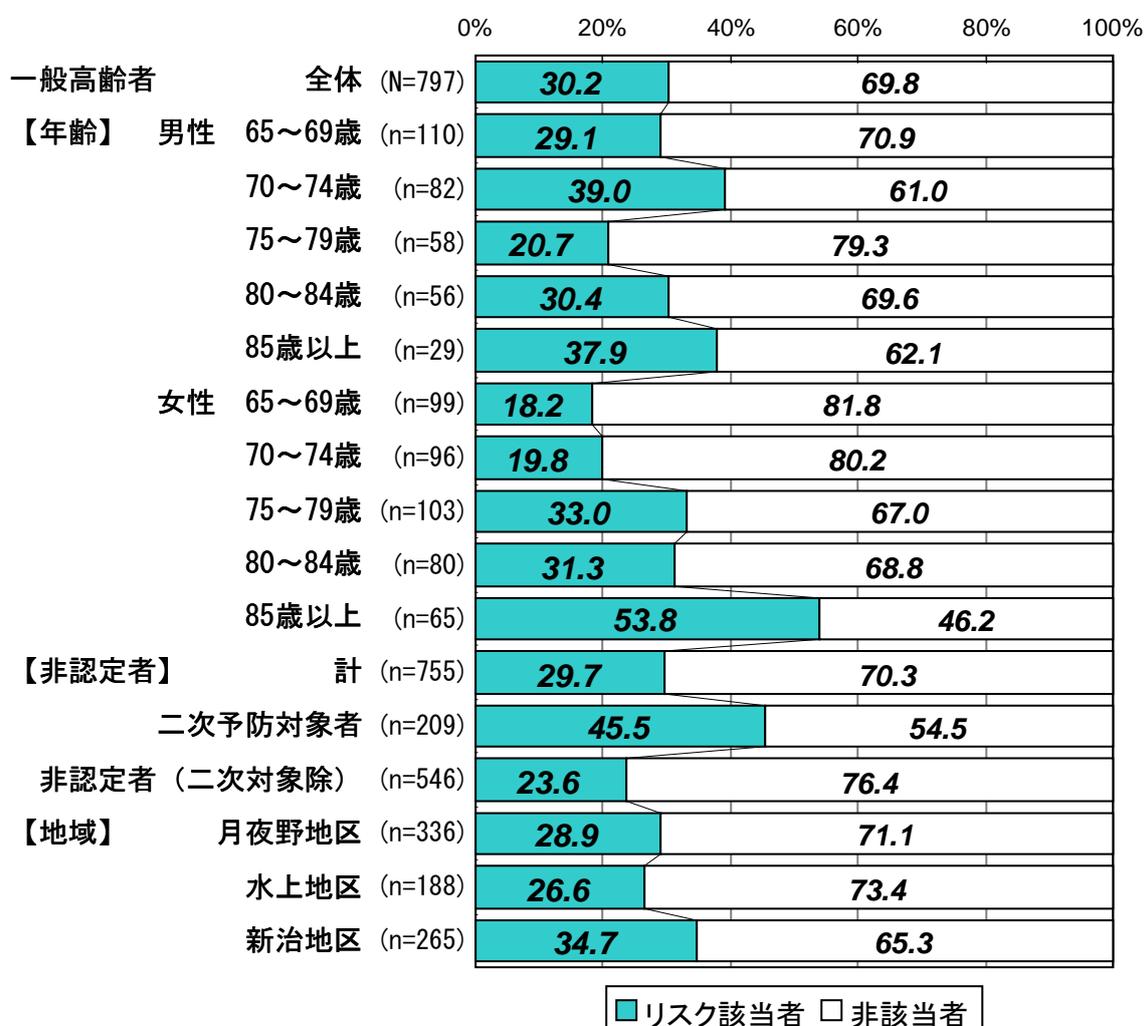
設問（該当する回答）	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 2-Q10 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）	自動車（自分で運転）	56.8	35.9	8.0	2.6	-
	徒歩	35.3	35.9	25.7	15.4	5.4
	自動車（乗せてもらう）	18.3	36.4	54.9	48.7	34.4
	電車	5.3	2.9	2.7	-	-
	病院や施設のバス	2.6	7.7	15.0	11.5	7.5
	自転車	4.2	3.3	0.9	-	-
	循環バス	2.4	3.8	1.8	-	1.1
	バイク	1.8	3.8	0.9	-	-
	歩行器・シルバーカー	0.9	1.4	18.6	6.4	3.2
	タクシー	0.7	1.4	1.8	1.3	4.3
	電動車いす（カート）	0.7	1.4	1.8	1.3	1.1
	車いす	-	-	2.7	9.0	22.6
	その他	0.5	-	0.9	3.8	1.1

6) 認知症予防

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 30.2%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、男性では 70～74 歳（39.0%）、85 歳以上（37.9%）で他の年齢層より高い。また、女性では 85 歳以上で 53.8%と半数を超えて最も高い。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 45.5%。一般にあたる非認定者でも 23.6%存在する。
- 地域別でリスク該当者を見ると、新治地区で 34.7%と、月夜野地区（28.9%）、水上地区（26.6%）に比べて高い。

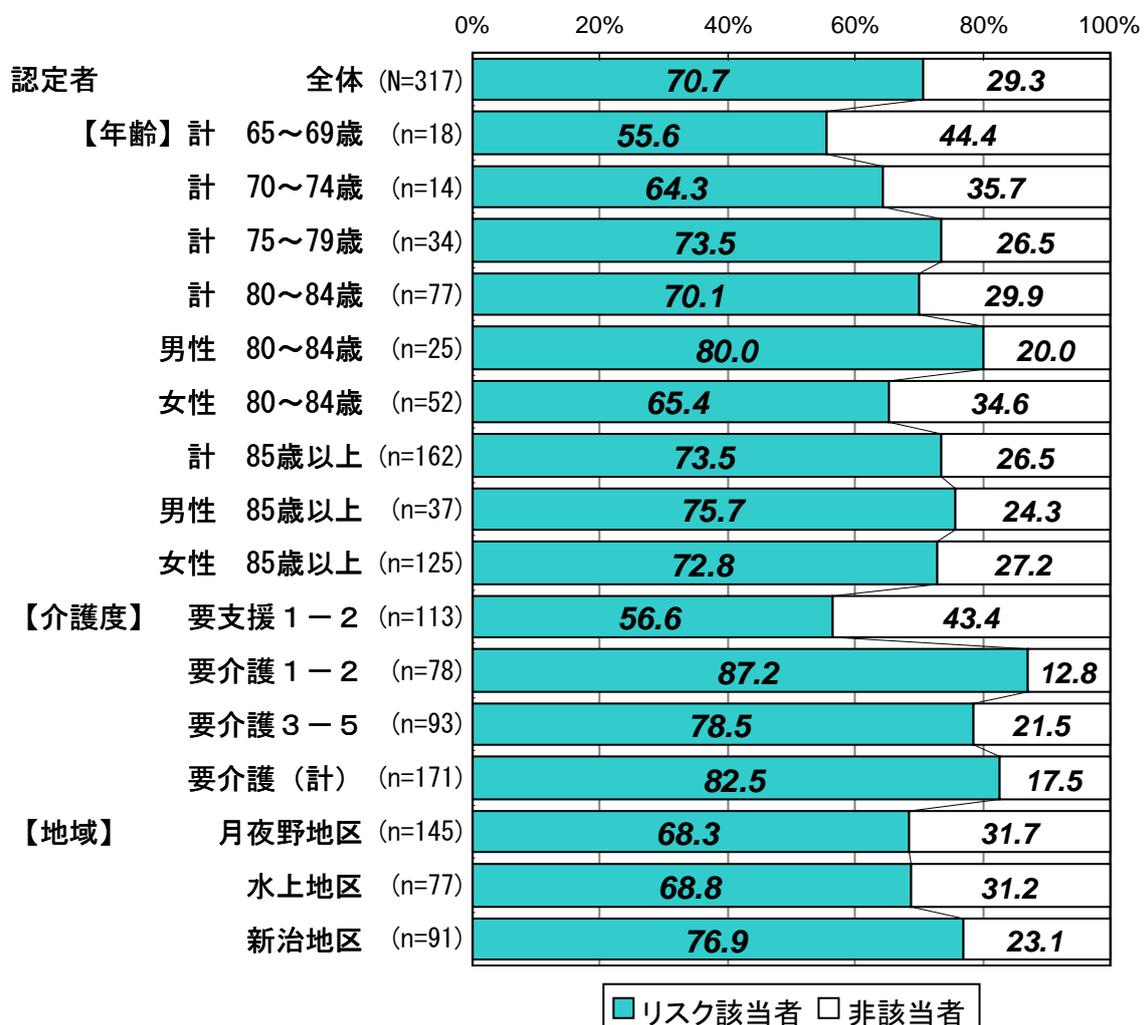
「認知症予防」の評価の基礎となる設問 3 問中 1 問以上が該当する場合、リスク該当者として判定する（評価の基礎となる設問は、後述の「回答結果」を参照）。

□ 「認知症予防」のリスク該当者の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 70.7%。
- 認定者のリスク該当者は、概ね高年齢層になるにつれて高くなる傾向で、85 歳以上で 73.5%。目立つのは回答者数 (n) が少ないため参考だが、男性 80~84 歳の 80.0%。
- 介護度別のリスク該当者は、要介護 1-2 で 87.2%と最も高く、次いで要介護 3-5 の 78.5%。要支援 1-2 のリスク該当者の率は、これら二者より下がるが、56.6%となっている。
- 地域別では、新治地区で 76.9%と他の 2 地区 (68%台) を大きく上回る。
- 関連設問を見ると、「現在治療中、または後遺症のある病気」として「認知症」を上げている人は、要介護 1-2 (33.3%)、要介護 3-5 (35.5%) で 3 割台。

□ 「認知症予防」のリスク該当者の割合 [認定者]



□回答結果（該当者：3問中1問以上該当する選択肢を回答）

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 5-Q1 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか（はい）	12.7		42.6		
	8.4	22.5	24.8	66.7	50.5
問 5-Q2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（いいえ）	5.9		44.2		
	4.6	6.7	17.7	62.8	67.7
問 5-Q3 今日が何月何日かわからない時がありますか（はい）	21.2		53.9		
	15.6	33.5	41.6	73.1	55.9

□関連設問回答結果

（単位：%）

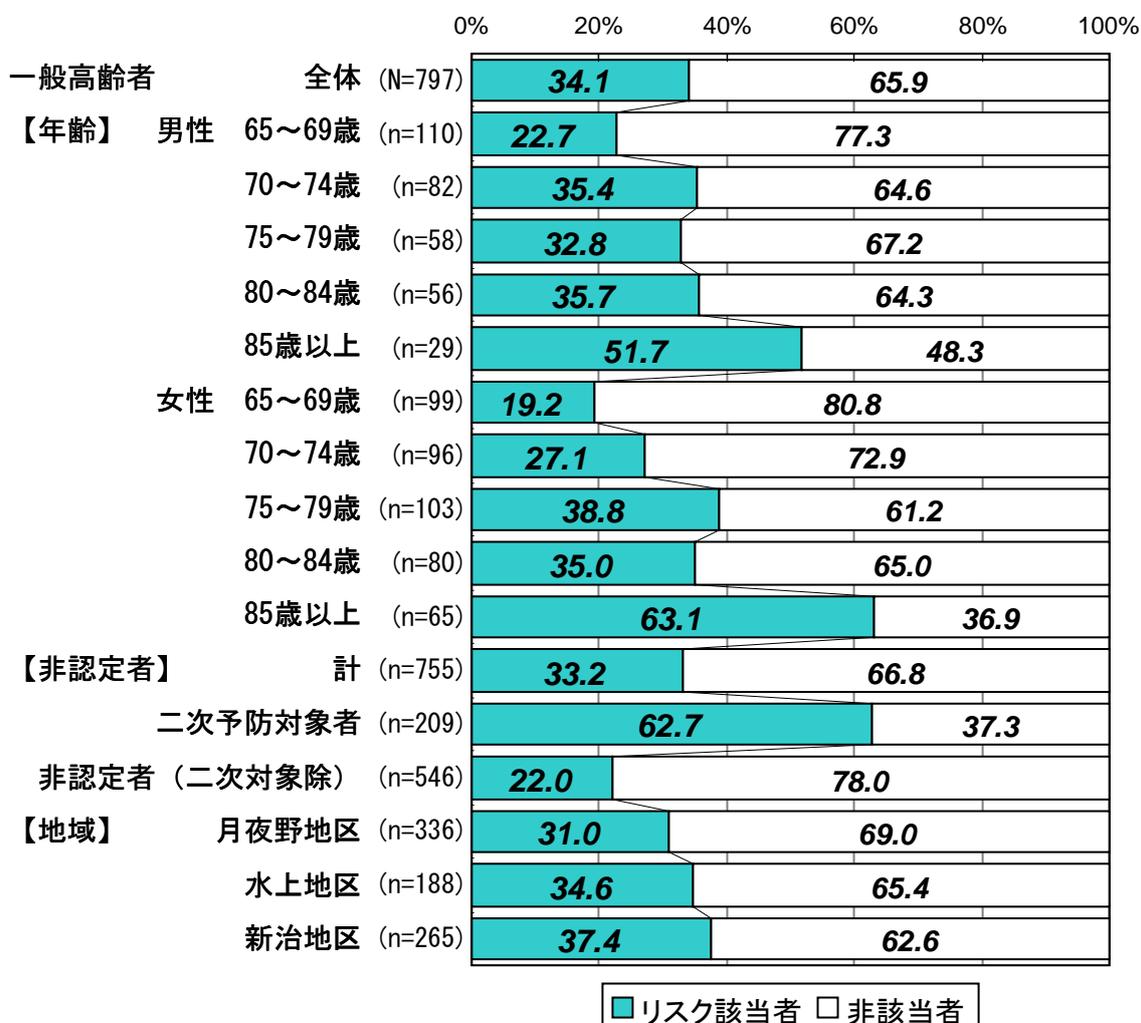
設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 8-Q2 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）（認知症）	1.1		20.8		
	0.4	1.9	4.4	33.3	35.5

7) うつ予防

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 34.1%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、85歳以上で他の年齢層に比べて目立って高く、女性で 63.1%、男性で 51.7%と半数を超える。他の年齢層は 4 割未満。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 62.7%。一般にあたる非認定者では 22.0%。
- 地域別でリスク該当者を見ると、新治地区（37.4%）、水上地区（34.6%）、月夜野地区（31.0%）の順に高い。

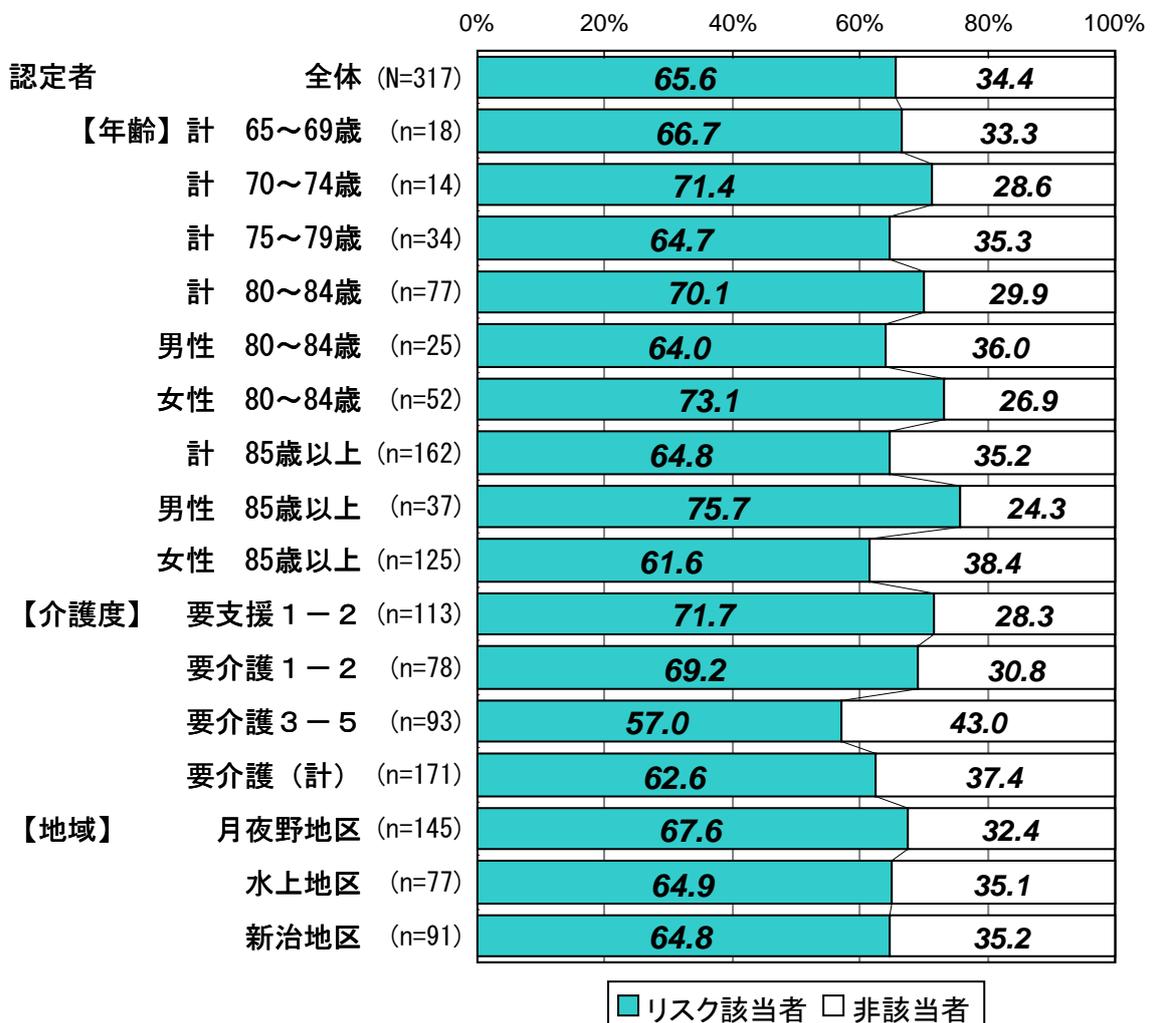
「うつ予防」の評価の基礎となる設問 5 問中 2 問以上が該当する場合、リスク該当者として判定する（評価の基礎となる設問は、後述の「回答結果」を参照）。

□「うつ予防」のリスク該当者の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 65.6%。
- 認定者のリスク該当者は、回答者数 (n) が少ないため参考である 70～74 歳 (71.4%) と 80～84 歳 (70.1%) で 7 割台と高い。85 歳以上では男性で 75.7%と高いが女性では 61.6%と相対的に低め、80～84 歳では女性で 73.1%と高いが、男性では 64.0%と低い、といった差異が見られる。
- 介護度別のリスク該当者は、介護度が低いほど「うつ予防」のリスク該当者が多くなる傾向。
- 地域別では、月夜野地区で 67.6%と他の 2 地区 (64%台) をやや上回る。

□ 「うつ予防」のリスク該当者の割合 [認定者]



□回答結果（該当者：5問中2問以上該当する選択肢を回答）

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 8-Q7-1（ここ 2 週間）毎日の生活に充実感がない（はい）	20.3		38.2		
	14.5	34.9	38.9	48.7	32.3
問 8-Q7-2（ここ 2 週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった（はい）	14.8		49.8		
	7.9	31.1	45.1	62.8	48.4
問 8-Q7-3（ここ 2 週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる（はい）	42.0		69.7		
	30.8	70.3	71.7	75.6	62.4
問 8-Q7-4（ここ 2 週間）自分が役に立つ人間だと思えない（はい）	20.6		42.0		
	14.1	34.0	45.1	48.7	35.5
問 8-Q7-5（ここ 2 週間）わけもなく疲れたような感じがする（はい）	27.6		50.8		
	18.1	50.2	50.4	61.5	39.8

□関連設問回答結果

（単位：%）

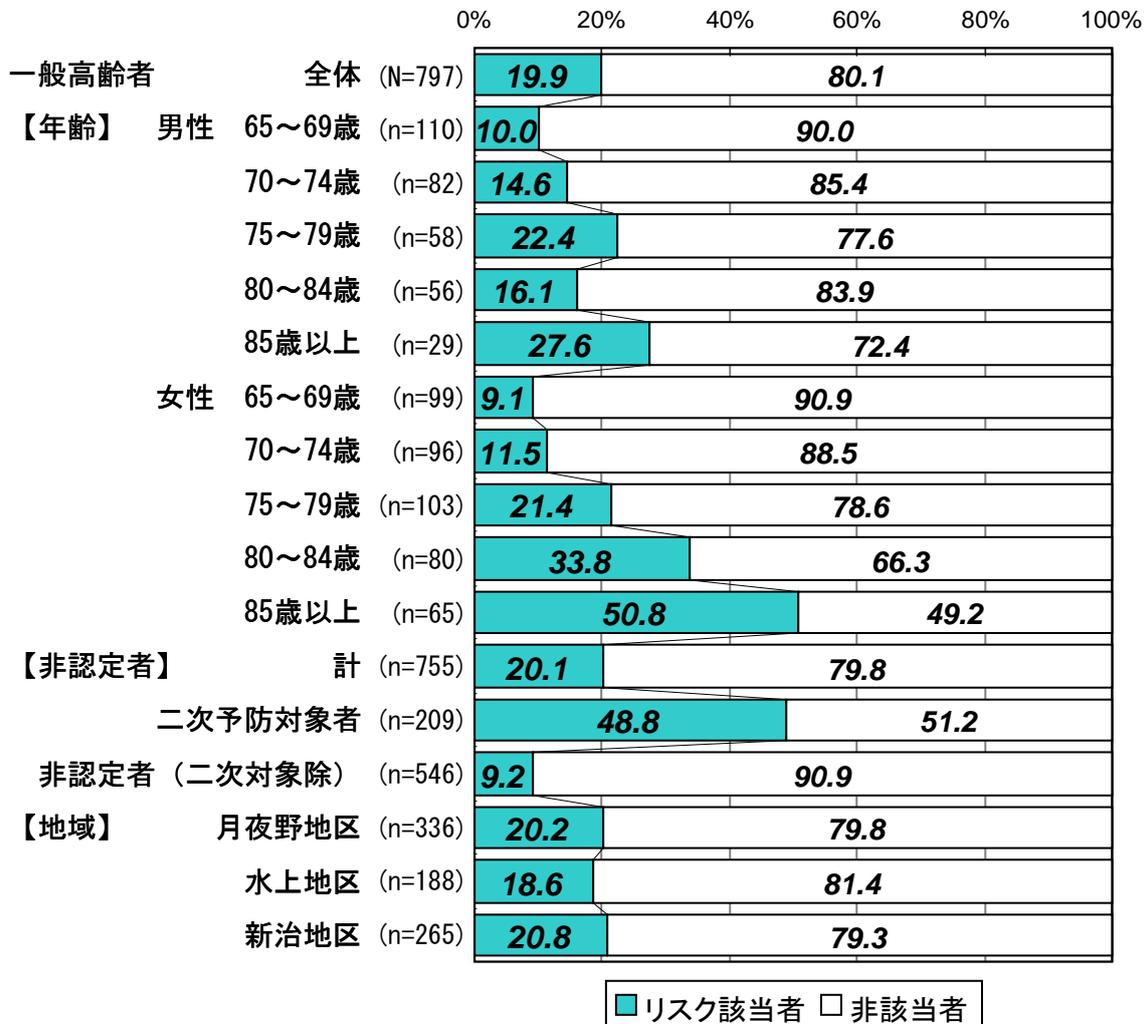
設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 8-Q1 普段、ご自分で健康だと思いますか（「あまり健康でない」・「健康でない」）	15.6		49.5		
	9.9	28.7	43.4	56.4	50.5

8) 転倒

- 一般高齢者の全体では、リスク該当者の割合は 19.9%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、男性では 85 歳以上 (27.6%)、75～79 歳 (22.4%) で他の年齢層より高い。女性では年齢層が高くなるにつれて高くなり、85 歳以上で 50.8% と半数を超える。
- 二次予防対象者のリスク該当者は 48.8%。一般にあたる非認定者では 9.2%。
- 地域別でリスク該当者を見ると、3 地区ともに 18～20% 台で大きな差はない。

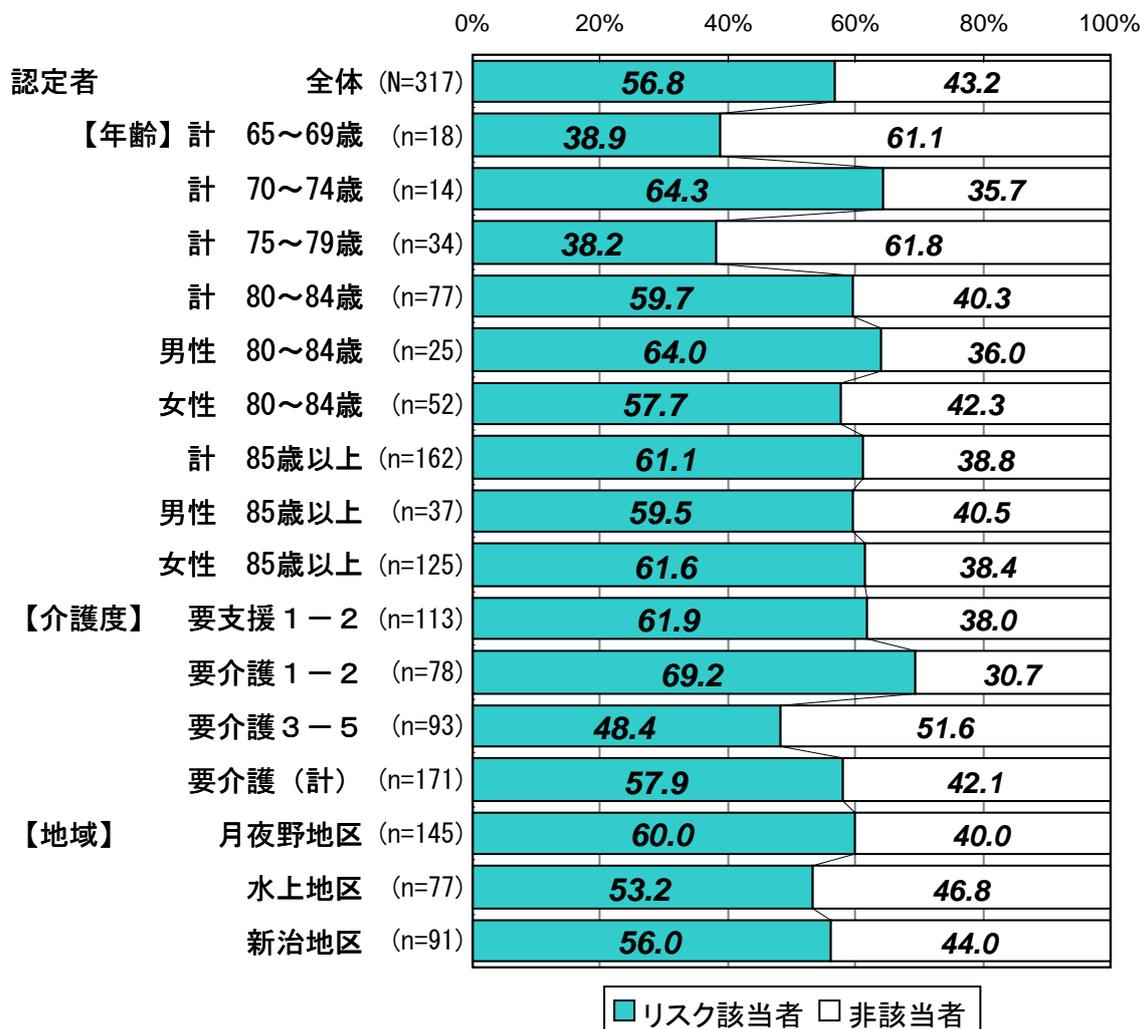
「転倒」のリスクの評価方法における (回答選択肢ごとに配点された) 5 つの設問について、合計得点が 6 点以上の場合、リスク該当者として判定する (後述の「評価方法」を参照)。

□ 「転倒」のリスク該当者の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、リスク該当者の割合は 56.8%。
- 認定者のリスク該当者は、80～84 歳で 59.7%、85 歳以上で 61.1%と大きな差はないが、79 歳以下の 3 割台とは大きく隔たっている（回答者数（n）が少ないため、70～74 歳の 64.3%は除外）。
- 介護度別のリスク該当者は、要介護 1-2 で 69.2%と最も高く、次いで要支援 1-2 の 61.9%。要介護 3-5 が 48.4%で相対的に最も低い。
- 地域別では、月夜野地区の 60.0%が最も高く、順に新治地区（56.0%）、水上地区（53.2%）。

□ 「転倒」のリスク該当者の割合 [認定者]



□「転倒」のリスクの評価方法（該当者:6点以上）

問番号	設問	配点と選択肢
問 3-Q1	この1年間に転んだことがありますか	5:「1.はい」 0:「2.いいえ」
問 3-Q3	背中が丸くなってきましたか	2:「1.はい」 0:「2.いいえ」
問 3-Q4	以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか	2:「1.はい」 0:「2.いいえ」
問 3-Q5	杖を使っていますか	2:「1.はい」 0:「2.いいえ」
問 8-Q3	現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか	2:「5.5種類以上」 0:「1~4 または 6」

□回答結果

(単位:%)

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 3-Q1 この1年間に転んだことがありますか（はい）	18.8		47.6		
	10.3	40.2	46.9	60.3	41.9
問 3-Q3 背中が丸くなってきましたか（はい）	31.7		57.1		
	22.9	55.5	63.7	62.8	48.4
問 3-Q4 以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか（はい）	54.1		76.3		
	43.4	82.8	86.7	78.2	61.3
問 3-Q5 杖を使っていますか（はい）	11.0		55.5		
	4.8	26.3	67.3	59.0	39.8
問 8-Q3 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか（「5種類以上」）	17.8		41.0		
	13.2	28.2	44.2	44.9	36.6

□関連設問回答結果

(単位:%)

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 1-Q7 お住まい(主に生活する部屋)は2階以上にありますか（はい）	22.3		24.9		
	22.9	23.0	25.7	14.1	30.1

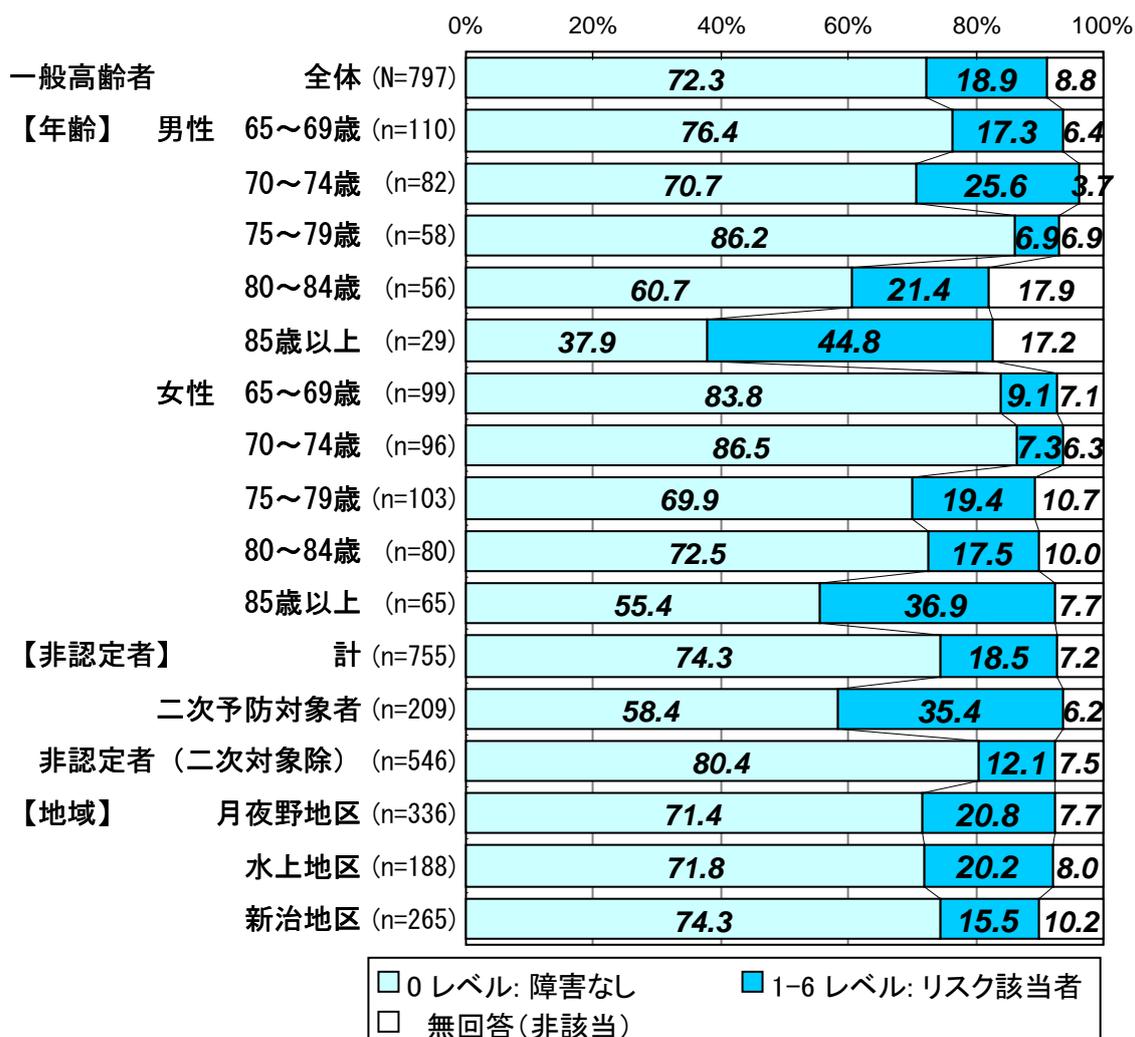
設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=125)	二次予防 (n=48)	要支援 (n=29)	要介護 1-2 (n=11)	要介護 3-5 (n=28)
問 1-Q7-1 (2階以上の方のみ)お住まいにエレベーターは設置されていますか（いいえ）	82.6		72.2		
	81.6	85.4	72.4	81.8	71.4

9) 認知症機能障害の程度 (CPS)

- 一般高齢者の全体では、「0レベル」が72.3%を占め、リスク該当者となる「1-6レベル」は18.9%。
- リスク該当者を年齢別で見ると、男性の85歳以上で44.8%と最も高く、女性の85歳以上(36.9%)が続く。以下、男性の70~74歳(25.6%)、男性の80~84歳(21.4%)の順。
- 二次予防対象者のリスク該当者は35.4%。一般にあたる非認定者では12.1%。
- 地域別でリスク該当者を見ると、月夜野地区、水上地区で20%台であり、新治地区は15.5%と、前2地区よりも低めである。

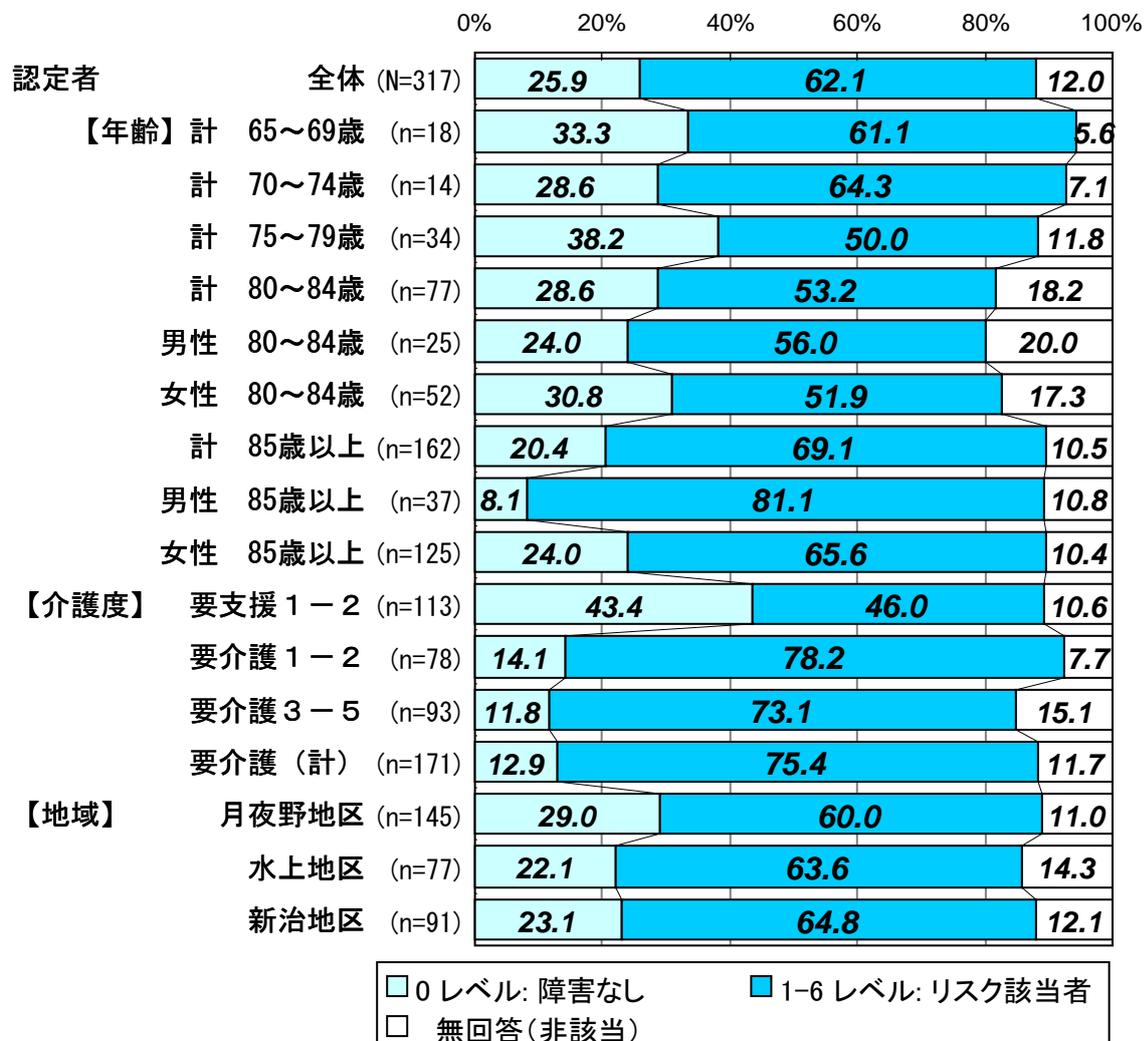
「認知症機能障害の程度 (CPS)」の評価方法において、評価された認知レベルが1以上(「1レベル(境界的)」~「6レベル(最重要度の障害)」)の場合、リスク該当者として判定する(後述の「評価方法」を参照)。

□ 「認知症機能障害の程度 (CPS)」の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「0レベル」が25.9%にとどまり、リスク該当者となる「1-6レベル」が62.1%を占める。
- 認定者のリスク該当者は、75歳以上では概ね高年齢層になるほど高くなり、80～84歳で53.2%、85歳以上では69.1%。また、85歳以上では女性（65.6%）に比べて男性（81.1%）のほうが大きく上回っている。
- 介護度別のリスク該当者は、要支援の46.0%に対して、要介護では75.4%（要介護1-2が78.2%、要介護3-5が73.1%）。
- 地域別では、新治地区（64.8%）、水上地区（63.6%）に比べ、月夜野地区では60.0%とやや低め（月夜野地区の「0レベル」は約3割）である。

□ 「認知症機能障害の程度（CPS）」の割合 [認定者]



□回答結果

(単位:%)

設問 (該当する回答)	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
0 レベル (障害なし)	72.3		25.9		
	80.4	58.4	43.4	14.1	11.8
1 レベル (境界的)	13.8		15.8		
	11.2	20.6	23.0	12.8	6.5
2 レベル (軽度の障害)	3.6		17.4		
	0.5	11.5	13.3	29.5	14.0
3 レベル (中等度の障害)	1.1		9.1		
	0.2	2.9	4.4	17.9	8.6
4 レベル (やや重度の障害)	0.1		4.7		
	-	0.5	0.9	5.1	9.7
5 レベル (重度の障害)	0.3		10.1		
	0.2	-	2.7	12.8	19.4
6 レベル (最重度の障害)	-		5.0		
	-	-	1.8	-	15.1

□ 「認知症機能障害の程度（CPS）」の評価方法（該当者:以下の1-6レベル）

今回の調査には、「認知機能障害の程度」の指標として有用とされるCPS（Cognitive Performance Scale）に準じた設問（「問5-Q4」「問5-Q5」「問5-Q6」「問6-Q6」）が含まれている。以下に示すように、これらの設問に対する回答内容により、「0レベル（障害なし）」から「6レベル（最重度の障害）」までの評価が可能となる。



□ 回答結果

（単位：%）

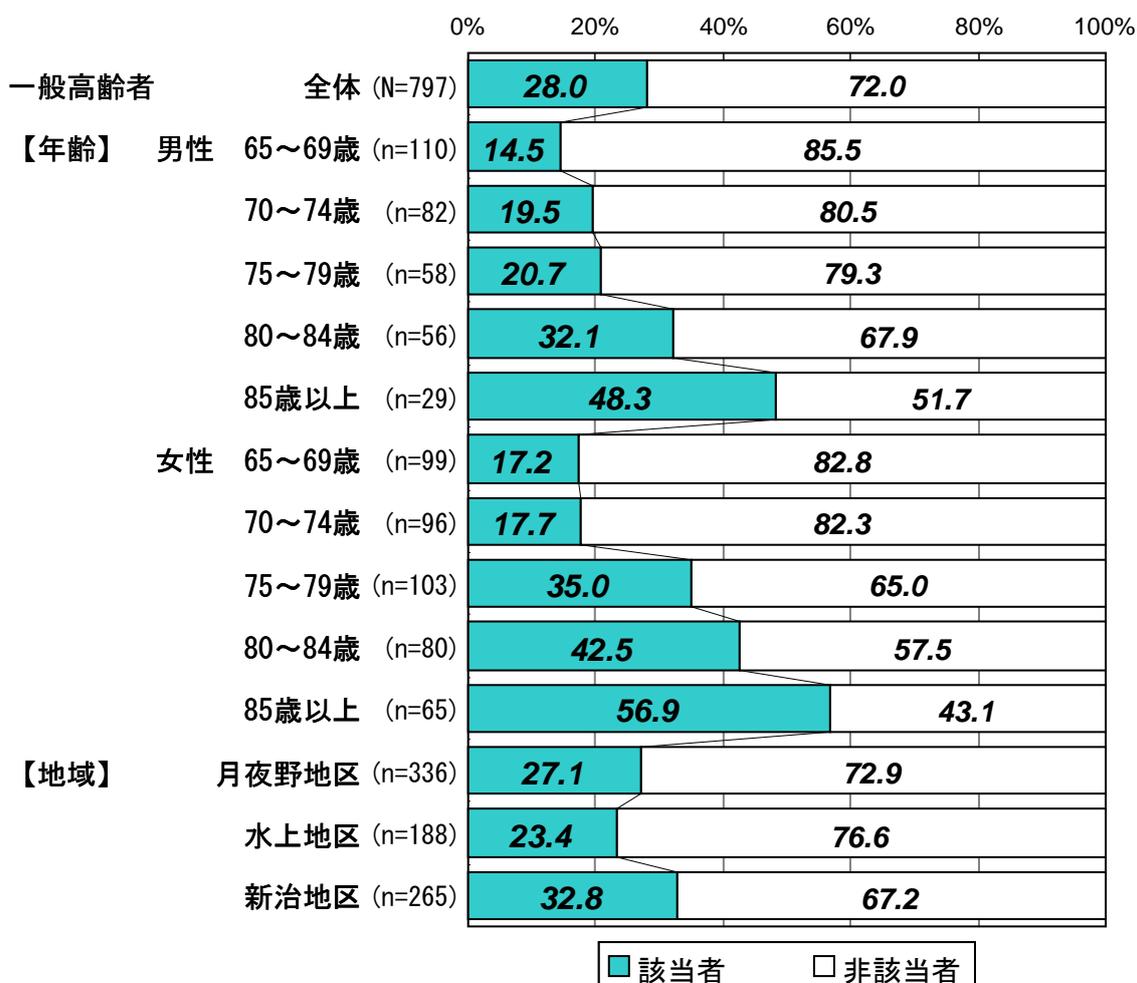
設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護1-2 (n=78)	要介護3-5 (n=93)
問5-Q4 5分前のことが思い出せますか（いいえ）	9.9		31.5		
	7.7	13.4	12.4	46.2	46.2
問5-Q5 その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか（「いくらか困難であるが、できる」～「ほとんど判断できない」）	7.6		55.2		
	1.7	20.5	36.2	73.0	71.0
問5-Q6 人に自分の考えをうまく伝えられますか（「いくらか困難であるが、伝えられる」～「ほとんど伝えられない」）	9.9		51.4		
	4.6	20.6	31.0	65.3	66.7
問6-Q6 食事は自分で食べられますか（「一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる」・「できない」）	0.5		21.4		
	-	1.4	5.3	23.1	40.9

10) 二次予防事業対象者

- 一般高齢者のうち、二次予防事業対象者に相当するのは 28.0%。
- 男女ともに、年齢層が高くなるほど二次予防事業対象者の割合は増加する。また、特に 75 歳以上では、男性よりも女性の方が高い傾向となっている。85 歳以上は男性で 48.3%、女性で 56.9%にのぼる。
- 地域別で二次予防事業対象者を見ると、新治地区が 32.8%と最も高く、月夜野地区 (27.1%)、水上地区 (23.4%) の順。

二次予防事業対象者は、一般高齢者の集計結果のみを提示する。
 前述の「虚弱」「運動器」「栄養改善」「口腔機能」のいずれかでリスク該当者となる場合、二次予防事業対象者として判定する (2 ページを参照)。

□ 「二次予防事業対象者」の割合 [一般高齢者]



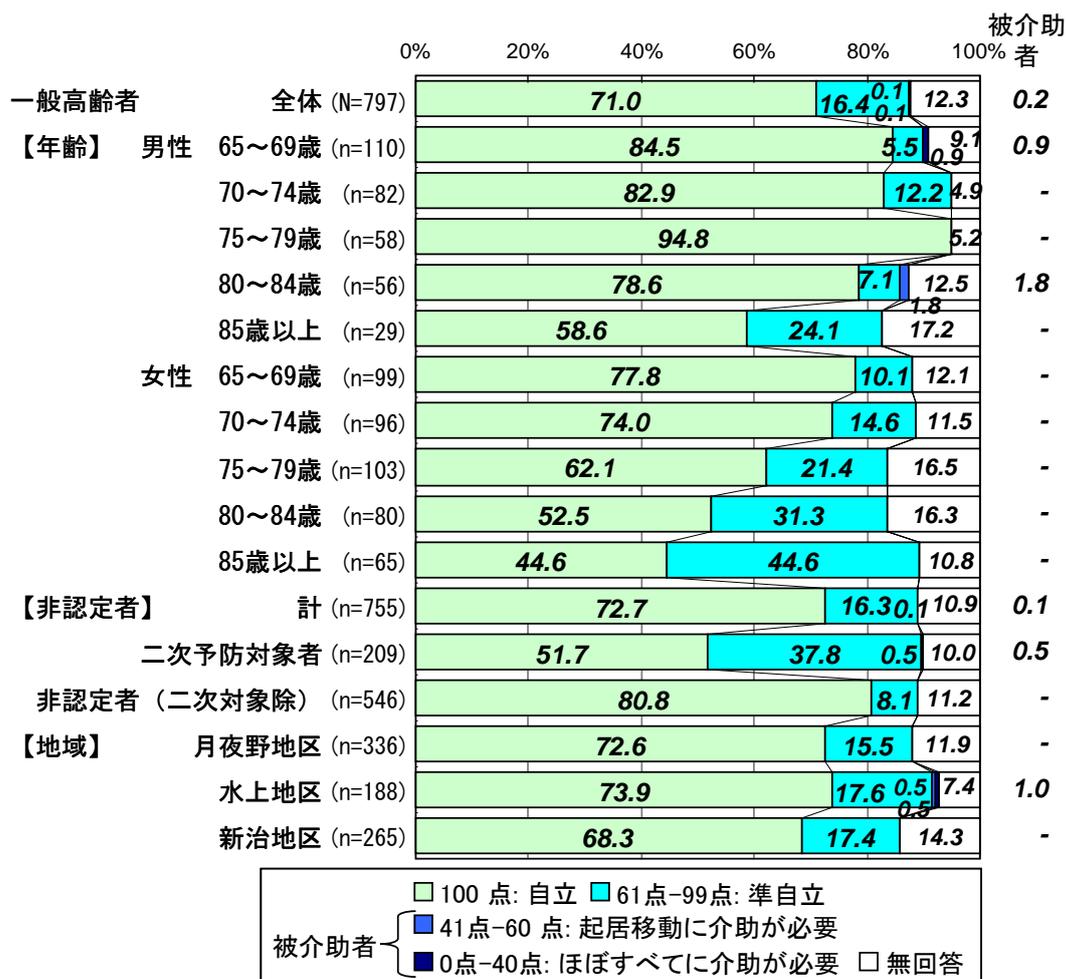
(2) 日常生活・社会参加

1) 日常生活動作 (ADL)

- 一般高齢者の全体では、日常生活動作に何らかの介助が必要な被介助者（「起居移動に介助が必要」「ほぼすべてに介助が必要」の割合は0.2%。「自立」（100点）が71.0%、「準自立」（61点-99点）が16.4%となっている。
- 年齢別に見ると、「自立」（100点）の率は80歳以上では低下してくるが、被介助者が増加するとの傾向は見えない。
- 二次予防対象者では、「自立」（100点）が51.7%、「準自立」（61点-99点）が37.8%、非介助者は0.5%。
- 地域別では、自立度で特に目立った差はない。

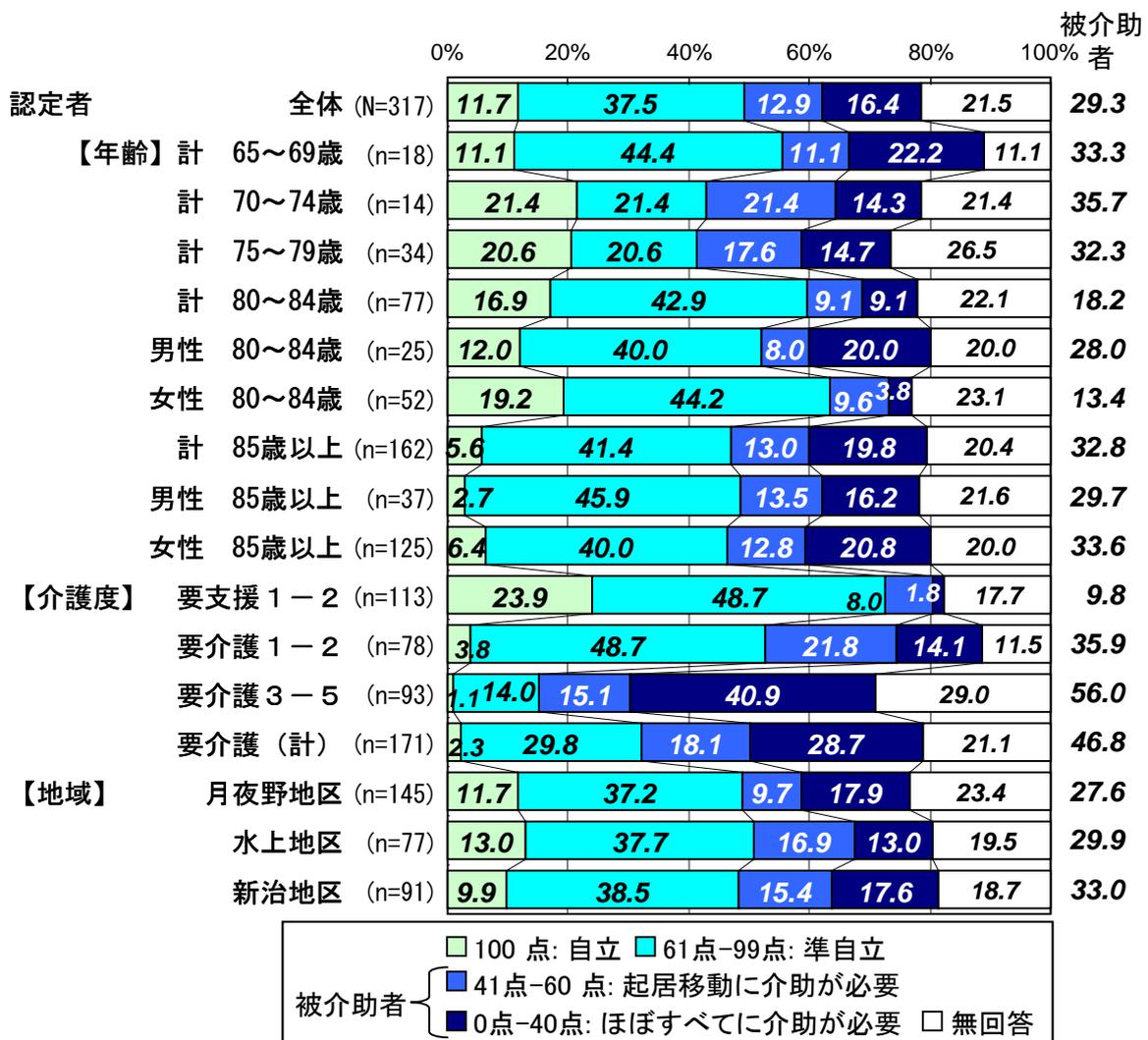
「日常生活動作 (ADL: Activities of Daily Living)」を評価するバーセルインデックス方法に従って、(回答選択肢ごとに配点された) 各設問で自立を5~15点とし10項目の合計が100点満点となるように評価。合計が60点以下の場合、なんらかの「介助」が必要な「被介助者」として判定する。(後述の「評価方法」を参照)。

□ADLの「被介助者」の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、被介助者の割合が 29.3%。そのうち、「起居移動に介助が必要」は 12.9%、「ほぼすべてに介助が必要」は 16.4%。
「準自立」(61点-99点)は 37.5%で、「自立」(100点)は 11.7%にとどまる。
- 認定者の被介助者は、他の年齢層に比べて 80~84歳で 18.2%と低い点が目立つ(特に、女性 80~84歳で 13.4%)。この年齢層では「準自立」の比率が他よりも高くなる。
85歳以上の被介助者は 32.8%で、男性(29.7%)よりも女性(33.6%)のほうが高い。
- 介護度別の被介助者は、介護度が高いほど高くなる傾向で、要介護 3-5 では 56.0%。
- 地域別で被介助者を見ると、新治地区で 33.0%と他の 2 地区(27.6%、29.9%)を上回る。

□ADLの「被介助者」の割合 [認定者]



□日常生活動作（ADL）の評価方法

（自立者:61点～100点（「自立」:100点、「準自立」:61点～99点）、被介助者:60点以下（「起居移動に介助が必要」:41～60点、「ほぼすべてに介助が必要」:0～40点）

問番号	設問（項目）	配点	選択肢
問 6-Q6	食事	10	:「1.できる」
		5	:「2.一部介助（おかずを切ってもらなど）があればできる」
		0	:「3.できない」
問 6-Q7	寝床への移動	15	:「1.受けない」
		10	:「2.一部介助があればできる」
		5	:「3.全面的な介助が必要」（問 6-Q8 の回答が「1.できる」「2.支えが必要」の場合）
		0	:「3.全面的な介助が必要」（問 6-Q8 の回答が「3.できない」の場合）
問 6-Q9	整容	5	:「1.できる」
		0	:「2.一部介助があればできる」または「3.できない」
問 6-Q10	トイレ	10	:「1.できる」
		5	:「2.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」
		0	:「3.できない」
問 6-Q11	入浴	5	:「1.できる」
		0	:「2.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」または「3.できない」
問 6-Q12	歩行	15	:「1.できる」
		10	:「2.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」
		0	:「3.できない」
問 6-Q13	階段昇降	10	:「1.できる」
		5	:「2.介助があればできる」
		0	:「3.できない」
問 6-Q14	着替え	10	:「1.できる」
		5	:「2.介助があればできる」
		0	:「3.できない」
問 6-Q15	排便	10	:「1.ない」
		5	:「2.ときどきある」
		0	:「3.よくある」
問 6-Q16	排尿	10	:「1.ない」
		5	:「2.ときどきある」
		0	:「3.よくある」

□回答結果

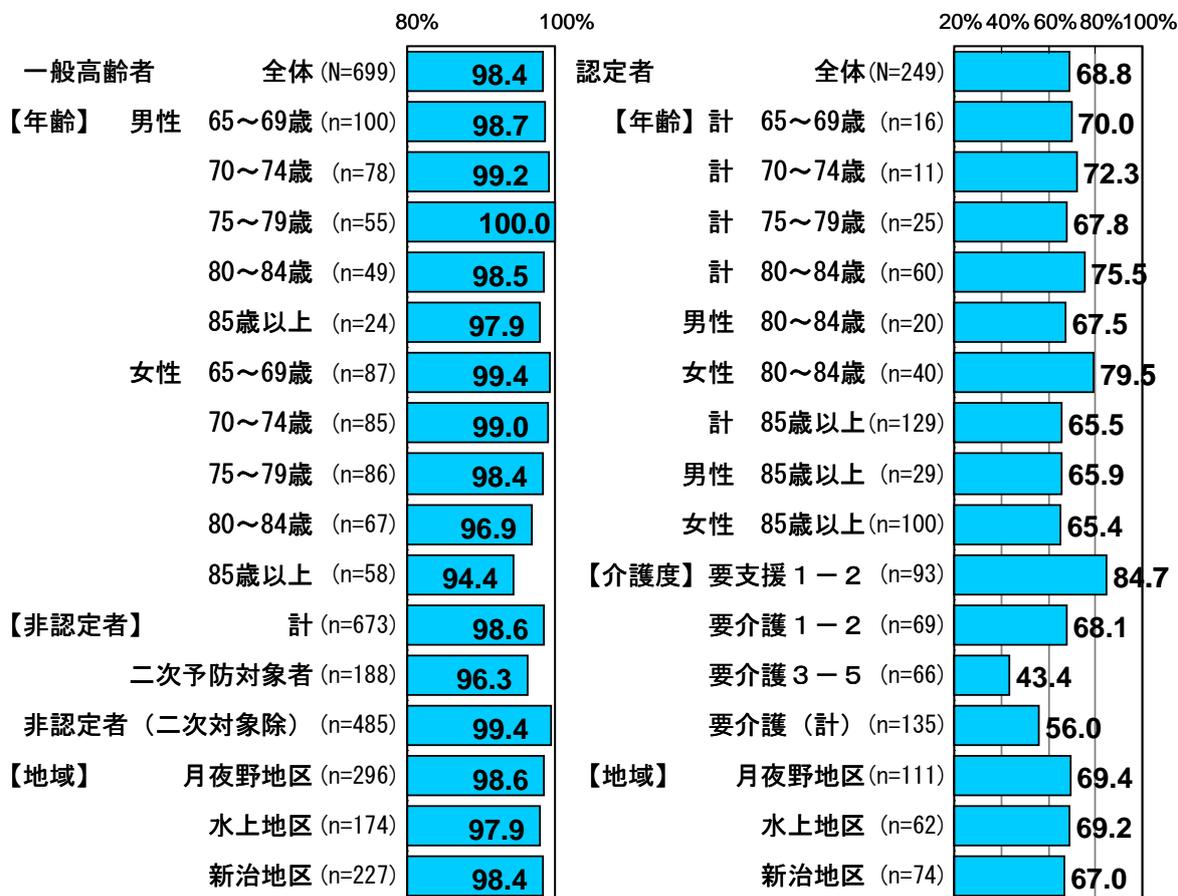
（単位:%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 6-Q6 食事は自分で食べられますか（「一部介助があればできる」・「できない」）	0.5		21.4		
	-	1.4	5.3	23.1	40.9
問 6-Q7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか（「一部介助があればできる」・「できない」）	0.4		29.7		
	-	1.0	7.0	32.0	60.2
問 6-Q9 自分で洗面や歯磨きができますか（「一部介助があればできる」・「できない」）	0.7		27.7		
	0.2	1.0	7.1	28.2	60.3
問 6-Q10 自分でトイレができますか（「一部介助があればできる」・「できない」）	0.2		24.3		
	-	0.5	3.6	18.0	60.2
問 6-Q11 自分で入浴ができますか（「一部介助があればできる」・「できない」）	1.1		50.2		
	0.2	1.9	24.7	53.9	82.8
問 6-Q12 50m以上歩けますか（「一部介助があればできる」・「できない」）	1.9		55.6		
	0.4	4.3	37.2	62.9	79.5
問 6-Q13 階段を昇り降りできますか（「介助があればできる」・「できない」）	3.2		64.4		
	0.6	9.5	47.8	73.1	82.8
問 6-Q14 自分で着替えができますか（「介助があればできる」・「できない」）	0.6		35.6		
	-	1.5	9.8	38.5	69.9
問 6-Q15 大便の失敗がありますか（「ときどきある」・「よくある」）	2.7		39.7		
	1.3	4.8	19.4	52.6	58.1
問 6-Q16 尿もれや尿失禁がありますか（「ときどきある」・「よくある」）	15.9		59.0		
	8.3	33.9	46.0	67.9	72.0

- ADL の平均得点で見ると、一般高齢者の全体では 98.4、認定者の全体では 68.8。
- 一般高齢者の二次予防対象者は 96.3 と全体平均 (98.4) よりも下回る。
- 認定者の介護度別では、介護度が高いほど平均が低下する傾向が顕著。地域別では新治地区で、他の 2 地区よりも平均がやや低くなる。
- 関連質問を見ると、「座っていることができない (「支えが必要」含む)」の率は、二次予防対象者で 19.6%。認定者では介護度が高いほど高くなる。
- 「家事全般ができていない」の率は、二次予防対象者で 21.1%。認定者では介護度が高いほど高くなる。

□ADL の平均得点 [一般高齢者／認定者]

平均値算出の N=ADL の全設問に解答した人



□関連設問回答結果

(単位:%)

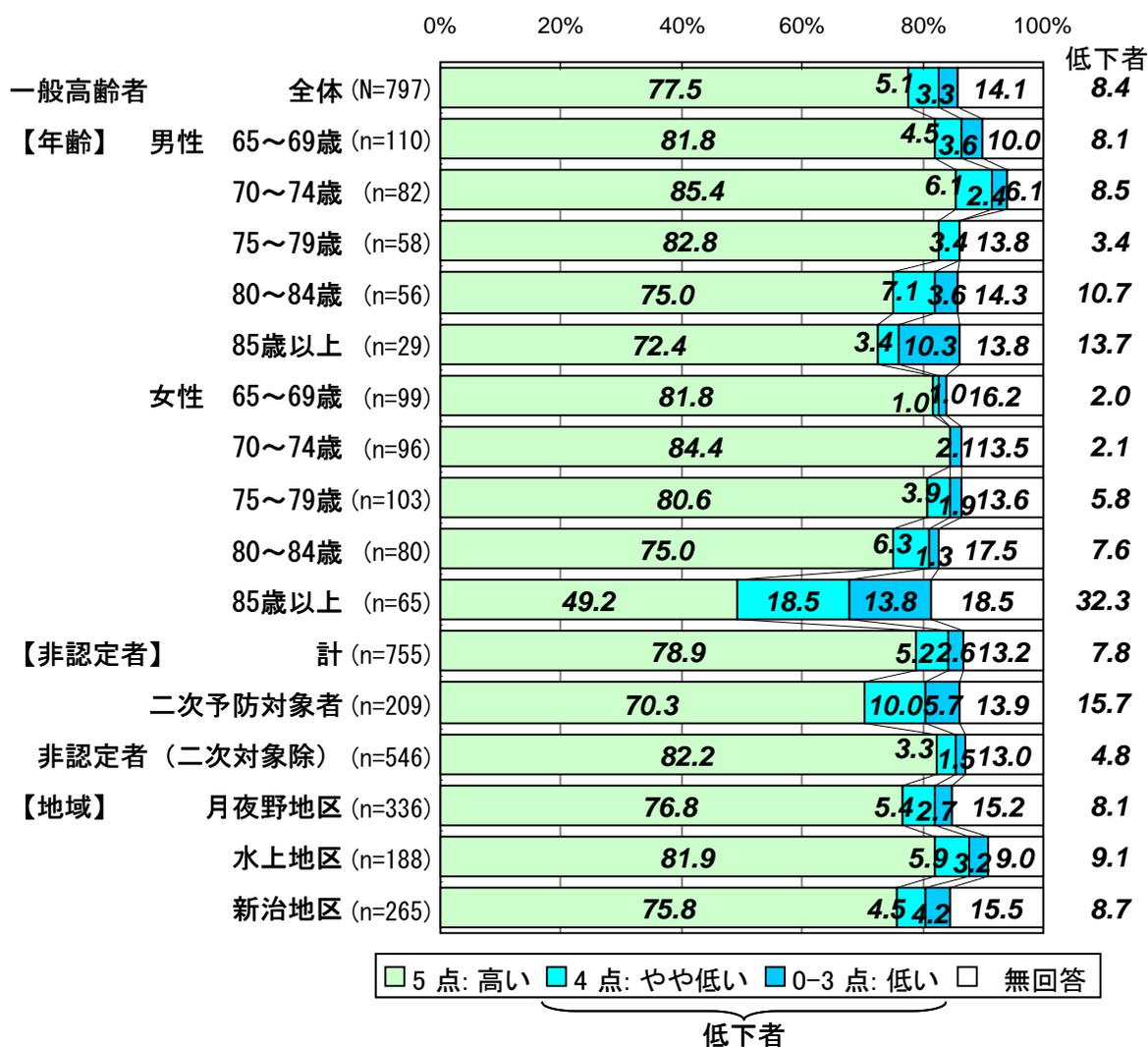
設問 (該当する回答)	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 6-Q8 座っていることができますか (「支えが必要」・「できない」)	10.1		28.7		
	5.7	19.6	20.4	25.6	41.9
問 6-Q17 家事全般ができていますか (できていない)	10.2		69.4		
	4.9	21.1	60.2	79.5	83.9

2) 手段的自立度 (IADL) - 老研指標

- 手段的自立度 (IADL) の「低下者」の割合は、一般高齢者の全体では 8.4%。
- 「低下者」を年齢別で見ると、女性の 85 歳以上で 32.3% と最も高くなる。また、男性の 85 歳以上 (13.7%)、男性の 80~84 歳 (10.7%) も比較的高い。
- 二次予防対象者の「低下者」は 15.7%。一般にあたる非認定者では 4.8%。
- 地域別で「低下者」を見ると、3 地区ともに約 8~9% と差はない。

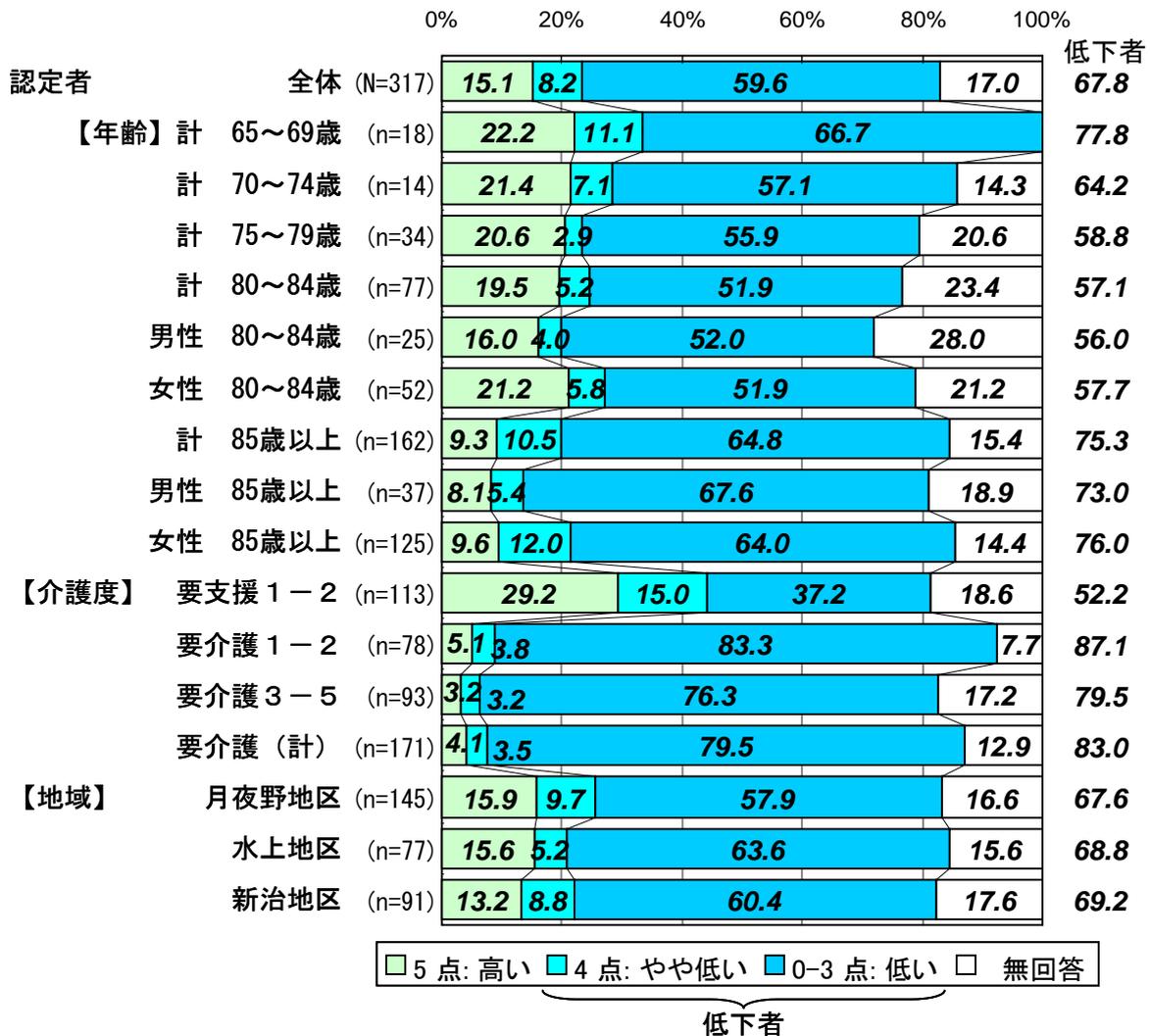
老研式活動能力指標に準じた手段的自立度 (IADL: Instrumental Activities of Daily Living) に関する (回答選択肢ごとに配点された) 5 つの設問について、5 点満点で評価し、合計得点が 4 点以下の場合、低下者として判定する (後述の「評価方法」を参照)。

□ IADL の「低下者」の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「低下者」の割合は 67.8%。
- 認定者の「低下者」は、75～79 歳、80～84 歳の 57～58%台に比べて、85 歳以上では 75.3%とかなり高くなる。
- 介護度別の「低下者」は、要支援の 52.2%に対して、要介護では 83.0%（要介護 3-5 よりも要介護 1-2 のほうが高いが、要介護 3-5 は無回答が多く、「5 点」の比率はほぼ変わらないため、両者の差については分析しない）。
- 地域別では、3 地区ともに約 67～69%台と大きな差はない。
- 各設問の「能力と実行状況の差」（「できるけどしていない」の回答割合）は、全般的に二次予防対象者あるいは要支援者で、一般にあたる非認定者、要介護者よりも高くなる。
- 関連設問を見ると、「日用品の買い物を代わりにする人」は「同居の家族」が各層ともに最も多いが、一般高齢者に比べ、認定者では「同居の家族以外」が増える。

□ IADL の「低下者」の割合 [認定者]



□回答結果（能力と実行状況の差）

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 6-Q1 バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）（できるだけしていない）	10.9		9.8		
	7.0	21.0	16.8	6.4	3.2
問 6-Q2 日用品の買物をしていますか（できるだけしていない）	12.9		16.4		
	8.4	23.4	27.4	6.4	10.8
問 6-Q3 自分で食事の用意をしていますか（できるだけしていない）	23.6		13.2		
	23.3	24.9	21.2	9.0	7.5
問 6-Q4 請求書の支払いをしていますか（できるだけしていない）	12.2		15.1		
	11.2	15.8	17.7	15.4	10.8
問 6-Q5 預貯金の出し入れをしていますか（できるだけしていない）	13.6		18.3		
	13.0	15.3	27.4	14.1	10.8

□手段的自立度（IADL）の評価方法

（自立者：5点（「高い」）、低下者：4点以下（「やや低い」）：4点、「低い」：0～3点）

問番号	設問	配点と選択肢
問 6-Q1	バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）	1点： 「1. できるし、している」 または 「2. できるだけしていない」
問 6-Q2	日用品の買物をしていますか	
問 6-Q3	自分で食事の用意をしていますか	
問 6-Q4	請求書の支払いをしていますか	
問 6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか	

□回答結果

（単位：%）

設問（該当する回答）	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 6-Q1 バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）（できない）	5.8		67.8		
	2.9	11.0	54.0	87.2	79.6
問 6-Q2 日用品の買物をしていますか（できない）	2.4		57.7		
	1.1	4.8	35.4	83.3	72.0
問 6-Q3 自分で食事の用意をしていますか（できない）	4.1		54.3		
	1.8	8.6	31.0	69.2	76.3
問 6-Q4 請求書の支払いをしていますか（できない）	2.3		45.1		
	1.3	1.9	18.6	62.8	69.9
問 6-Q5 預貯金の出し入れをしていますか（できない）	3.3		52.7		
	1.5	5.7	30.1	74.4	72.0

□関連設問回答結果

（単位：%）

設問（該当する回答）	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=52)	二次予防 (n=59)	要支援 (n=71)	要介護 1-2 (n=70)	要介護 3-5 (n=77)
問 6-Q2-1（日用品の買い物をしていない、できない人のみ）日用品の買物をする人は主にどなたですか	同居の家族	84.6	84.7	71.8	64.3	49.4
	別居の家族	9.6	5.1	12.7	14.3	10.4
	ヘルパー	-	-	1.4	8.6	3.9
	配達を依頼	-	-	8.5	-	1.3
	その他	-	3.4	2.8	5.7	22.1

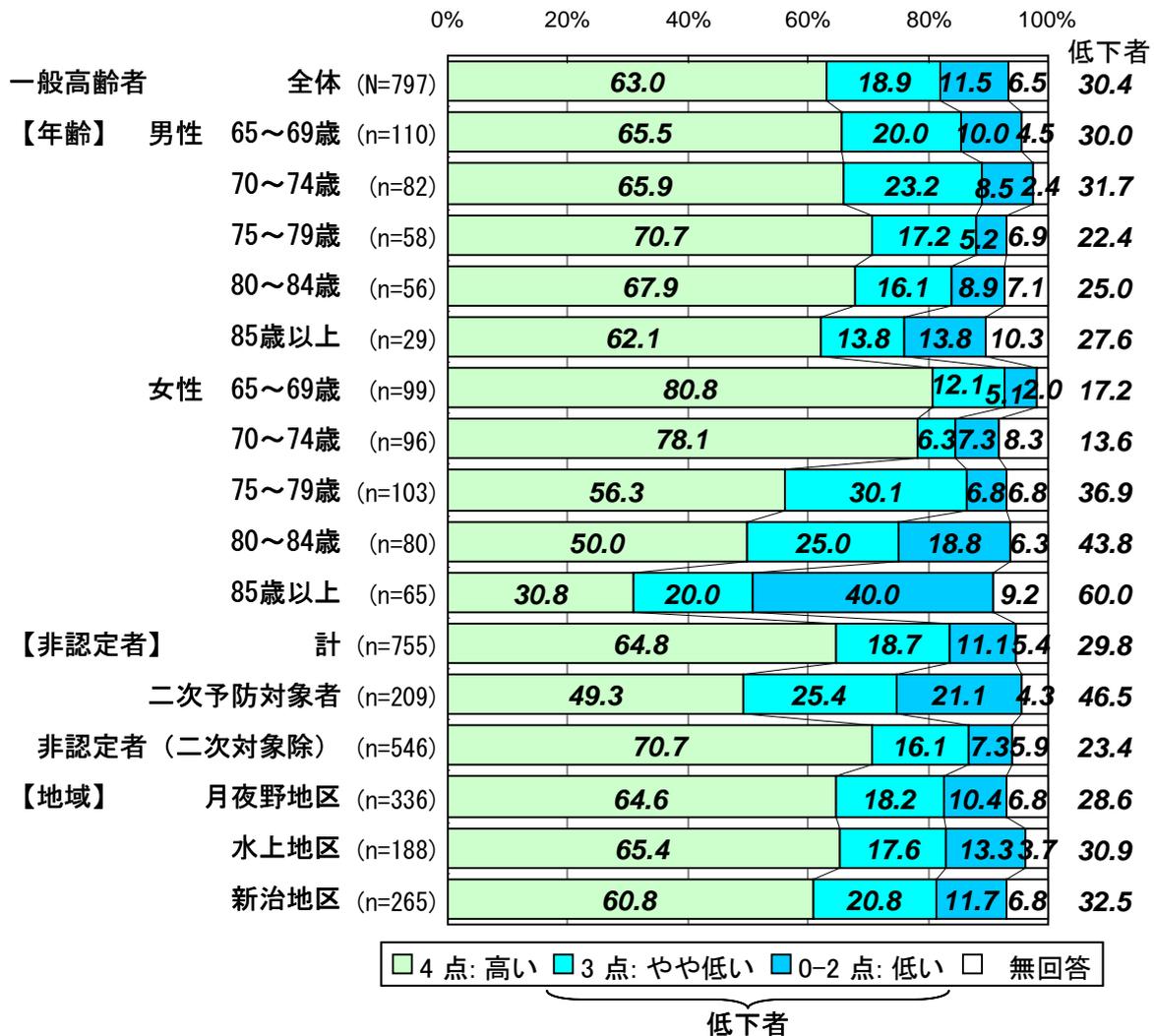
設問（該当する回答）	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=137)	二次予防 (n=70)	要支援 (n=59)	要介護 1-2 (n=61)	要介護 3-5 (n=78)
問 6-Q3-1（自分で食事の用意をしていない、できない人のみ）食事の用意をする人は主にどなたですか	同居の家族	100.0	97.1	81.4	73.8	51.3
	別居の家族	-	-	6.8	3.3	6.4
	ヘルパー	-	-	3.4	6.6	7.7
	配食サービス利用	-	-	1.7	1.6	1.7
	その他	-	-	3.4	11.5	30.8

3) 知的能動性－老研指標

- 知的活動に関する能動性について、一般高齢者の全体では「低下者」の割合は、30.4%。
- 「低下者」を年齢別で見ると、男性ではむしろ74歳以下で30～31%台と、75歳以上（3割未満）よりも高い傾向が見られる。女性では、70歳以上で年齢層が高くなるほど「低下者」が増加する傾向が明確で、女性の85歳以上では60.0%と最も高くなる。
- 二次予防対象者の「低下者」は46.5%。一般にあたる非認定者では23.4%。
- 地域別で「低下者」を見ると、新治地区で32.5%と最も高く、水上地区（30.9%）、月夜野地区（28.6%）の順。

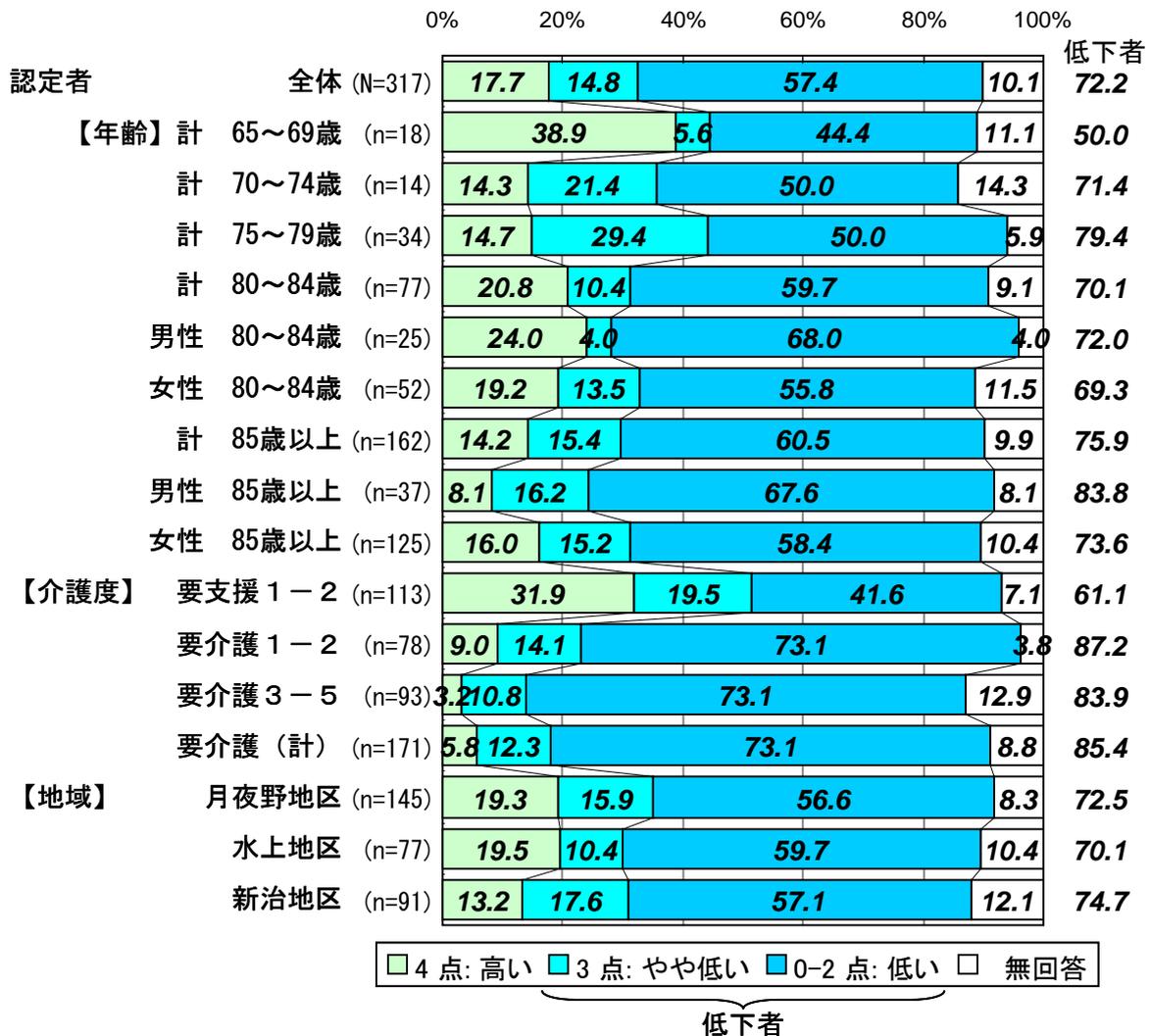
老研式活動能力指標に準じた高齢者の知的活動に関する（回答選択肢ごとに配点された）4つの設問について、4点満点で評価し、合計得点が3点以下の場合、低下者として判定する（後述の「評価方法」を参照）。

□知的能動性の「低下者」の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「低下者」の割合は 72.2%。
- 認定者の「低下者」は、75～79 歳で 79.4%と最も高く、85 歳以上の 75.9%が続く。85 歳以上では女性（73.6%）よりも男性（83.8%）のほうが高い傾向。
- 介護度別の「低下者」は、要支援の 61.1%に対して、要介護では 85.4%（要介護 3-5 よりも要介護 1-2 のほうが高いが、要介護 3-5 は無回答が多く、「4 点」の比率は要介護 1-2 のほうが高いため、両者の差については分析しない）。
- 地域別で「低下者」を見ると、新治地区で 74.7%と最も高く、月夜野地区（72.5%）、水上地区（70.1%）の順。

□知的能動性の「低下者」の割合 [認定者]



□知的能動性の評価方法

(自立者: 4点(「高い」)、低下者:3点以下(「やや低い」:3点、「低い」:0~2点))

問番号	設問	配点と選択肢
問 7-Q1	年金などの書類(役場や病院などに出す書類)が書けますか	1点:「1. はい」
問 7-Q2	新聞を読んでいますか	
問 7-Q3	本や雑誌を読んでいますか	
問 7-Q4	健康についての記事や番組に関心がありますか	

□回答結果

(単位:%)

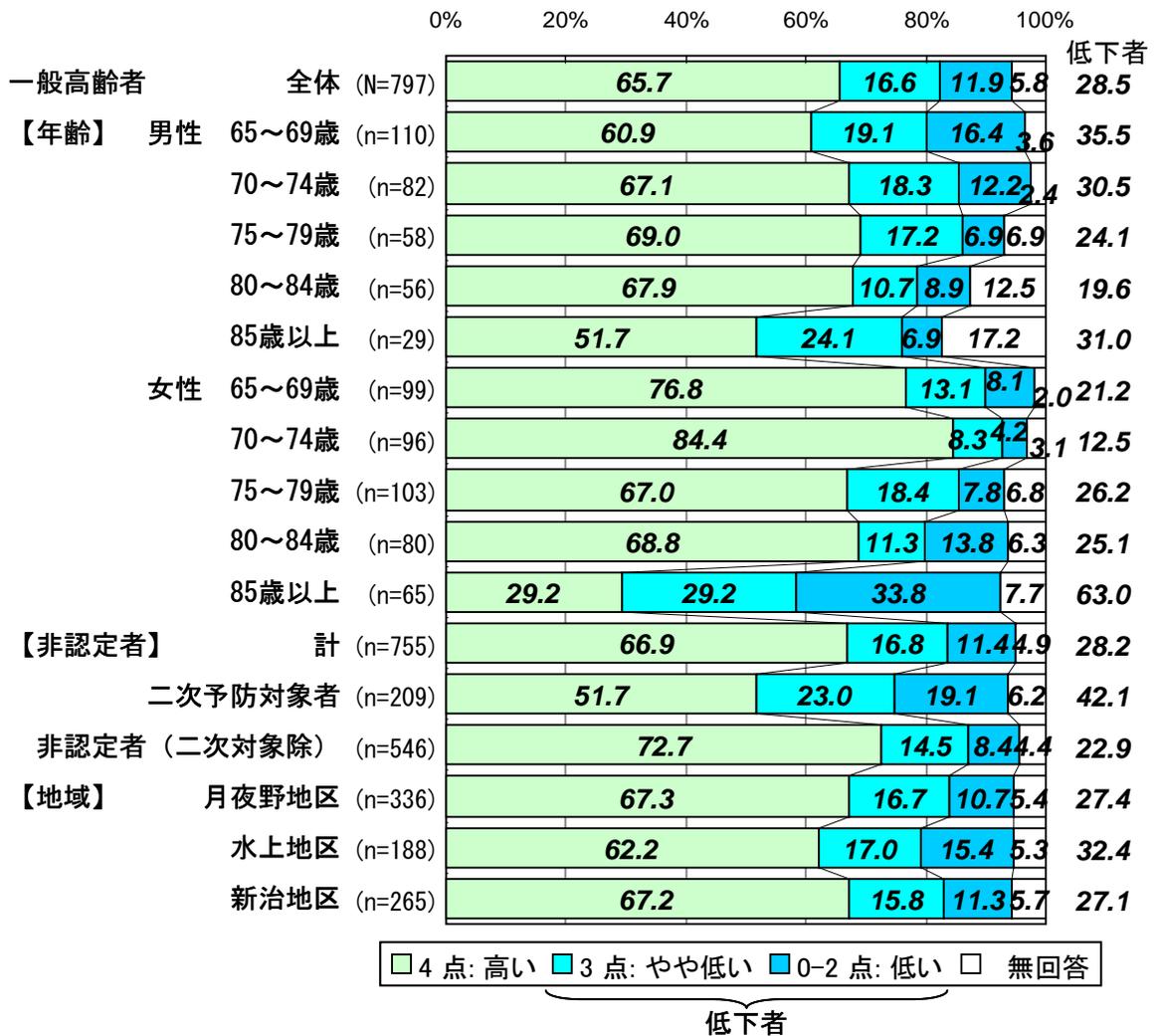
設問(該当する回答)	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 7-Q1 年金などの書類(役場や病院などに出す書類)が書けますか(いいえ)	10.4		66.2		
	5.3	21.1	49.6	82.1	80.6
問 7-Q2 新聞を読んでいますか(いいえ)	9.2		46.1		
	6.0	14.8	29.2	53.8	66.7
問 7-Q3 本や雑誌を読んでいますか(いいえ)	22.5		56.5		
	16.7	34.9	46.0	66.7	68.8
問 7-Q4 健康についての記事や番組に関心がありますか(いいえ)	7.5		43.8		
	5.7	10.0	23.9	62.8	62.4

4) 社会的役割－老研指標

- 社会活動に関する能動性について、一般高齢者の全体では「低下者」の割合は、28.5%。
- 「低下者」を年齢別で見ると、男性ではむしろ65～69歳（35.5%）、70～74歳（30.5%）で75～79歳、80～84歳（3割未満）よりも高い傾向が見られる。女性では、70～74歳の「低下者」だけが12.5%と、2割台の65～69歳や75～84歳の層より低いことが目立つ。最も高いのは85歳以上で63.0%。
- 二次予防対象者の「低下者」は42.1%。一般にあたる非認定者では22.9%。
- 地域別で「低下者」を見ると、水上地区で32.4%と最も高く、他の2地区（27%台）を上回っている。

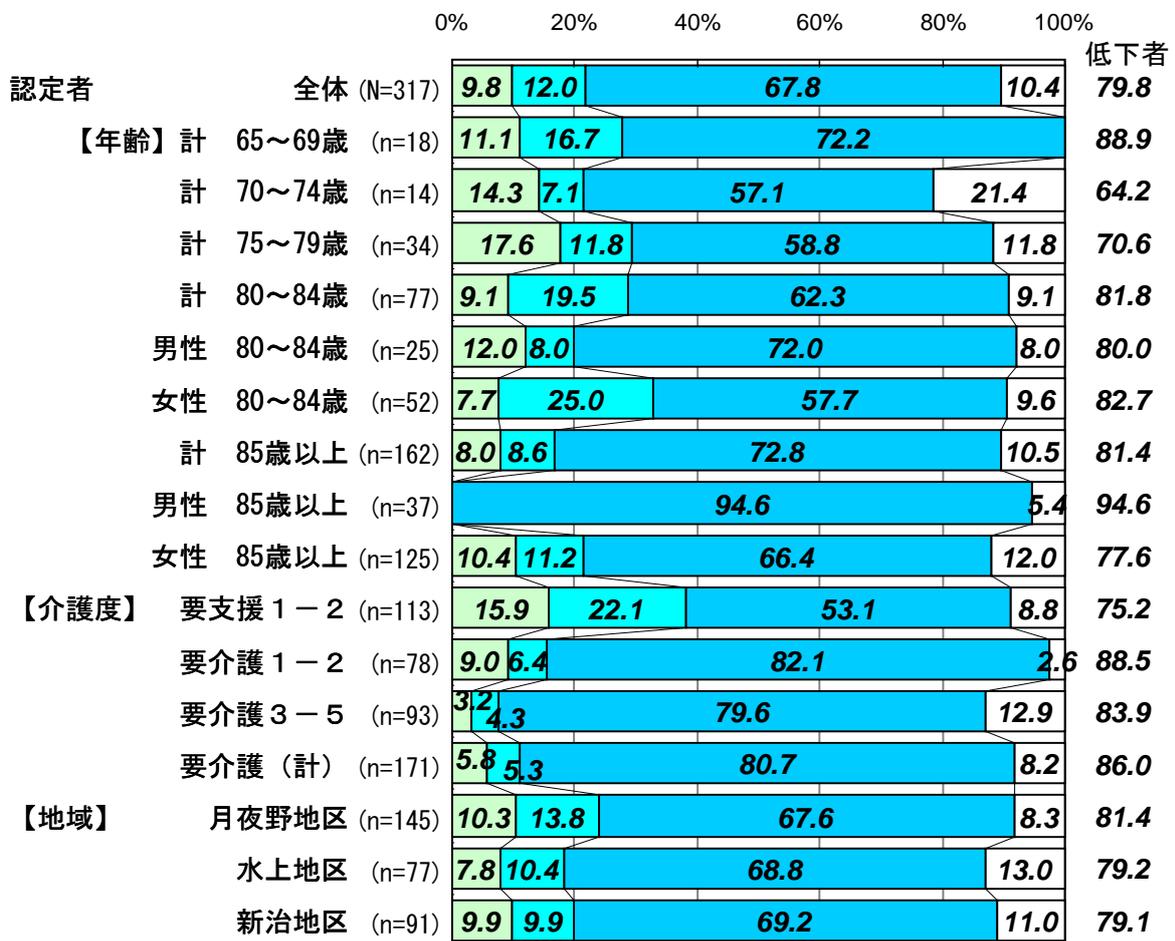
老研式活動能力指標に準じた高齢者の社会活動に関する（回答選択肢ごとに配点された）4つの設問について、知的能動性と同様に4点満点で評価し、合計得点が3点以下の場合、低下者として判定する（後述の「評価方法」を参照）。

□社会的役割の「低下者」の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「低下者」の割合は 79.8%。
- 認定者の「低下者」は、75～79 歳の 70.6%に比べて、80～84 歳、85 歳以上では 81%台とかなり高くなる。
- 介護度別の「低下者」は、要支援の 75.2%に対して、要介護では 86.0%（要介護 3-5 よりも要介護 1-2 のほうが高いが、要介護 3-5 は無回答が多く、「4 点」の比率は要介護 1-2 のほうが高いため、両者の差については分析しない）。
- 地域別では、3 地区ともに約 79～81%台と大きな差はない。

□社会的役割の「低下者」の割合 [認定者]



□ 4点: 高い □ 3点: やや低い □ 0-2点: 低い □ 無回答

低下者

□社会的役割の評価方法

(自立者: 4点(「高い」)、低下者:3点以下(「やや低い」:3点、「低い」:0~2点))

問番号	設問	配点と選択肢
問 7-Q5	友人の家を訪ねていますか	1点:「1. はい」
問 7-Q6	家族や友人の相談にのっていますか	
問 7-Q7	病人を見舞うことができますか	
問 7-Q8	若い人に自分から話しかけることがありますか	

□回答結果

(単位:%)

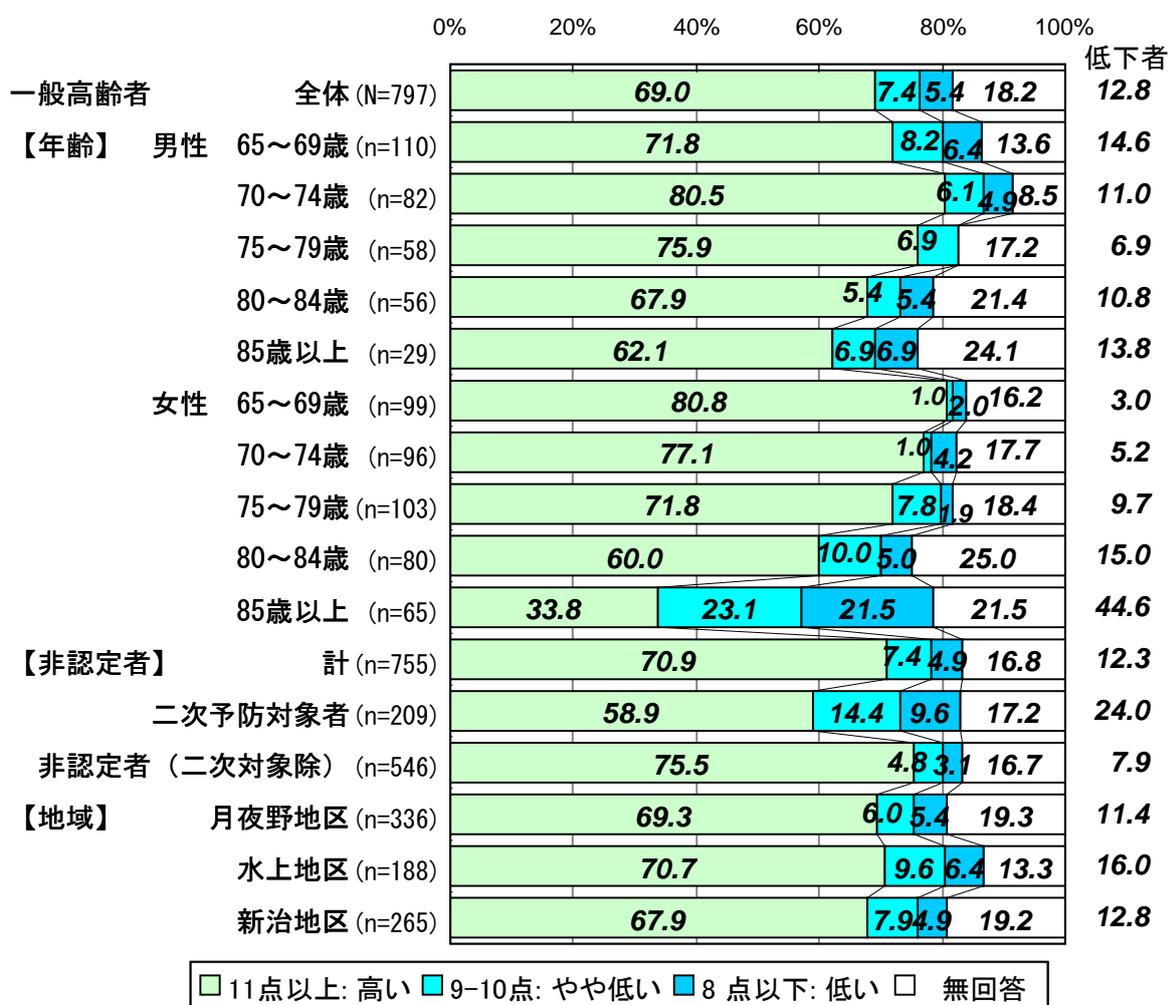
設問 (該当する回答)	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 7-Q5 友人の家を訪ねていますか (いいえ)	20.5		71.3		
	16.5	28.7	60.2	76.9	83.9
問 7-Q6 家族や友人の相談にのっていますか (いいえ)	12.0		62.5		
	9.2	18.2	45.1	79.5	72.0
問 7-Q7 病人を見舞うことができますか (いいえ)	5.4		64.4		
	2.4	11.0	50.4	75.6	77.4
問 7-Q8 若い人に自分から話しかけることがありますか (いいえ)	10.5		43.8		
	7.7	16.7	29.2	43.6	62.4

5) 老研指標総合評価 (IADL、知的能動性、社会的役割)

- 老研指標の総合評価で見た「低下者」の割合は、一般高齢者の全体では12.8%。
- 「低下者」を年齢別で見ると、男性では65～69歳の14.6%、85歳以上の13.8%が他の年齢層に比べて高い。女性では、年齢層が高くなるにつれて高くなる傾向があり、85歳以上で44.6%と最も高くなる。
- 二次予防対象者の「低下者」は24.0%。一般にあたる非認定者では7.9%。
- 地域別で「低下者」を見ると、水上地区で16.0%と最も高く、他の2地区(11～12%台)を上回る。

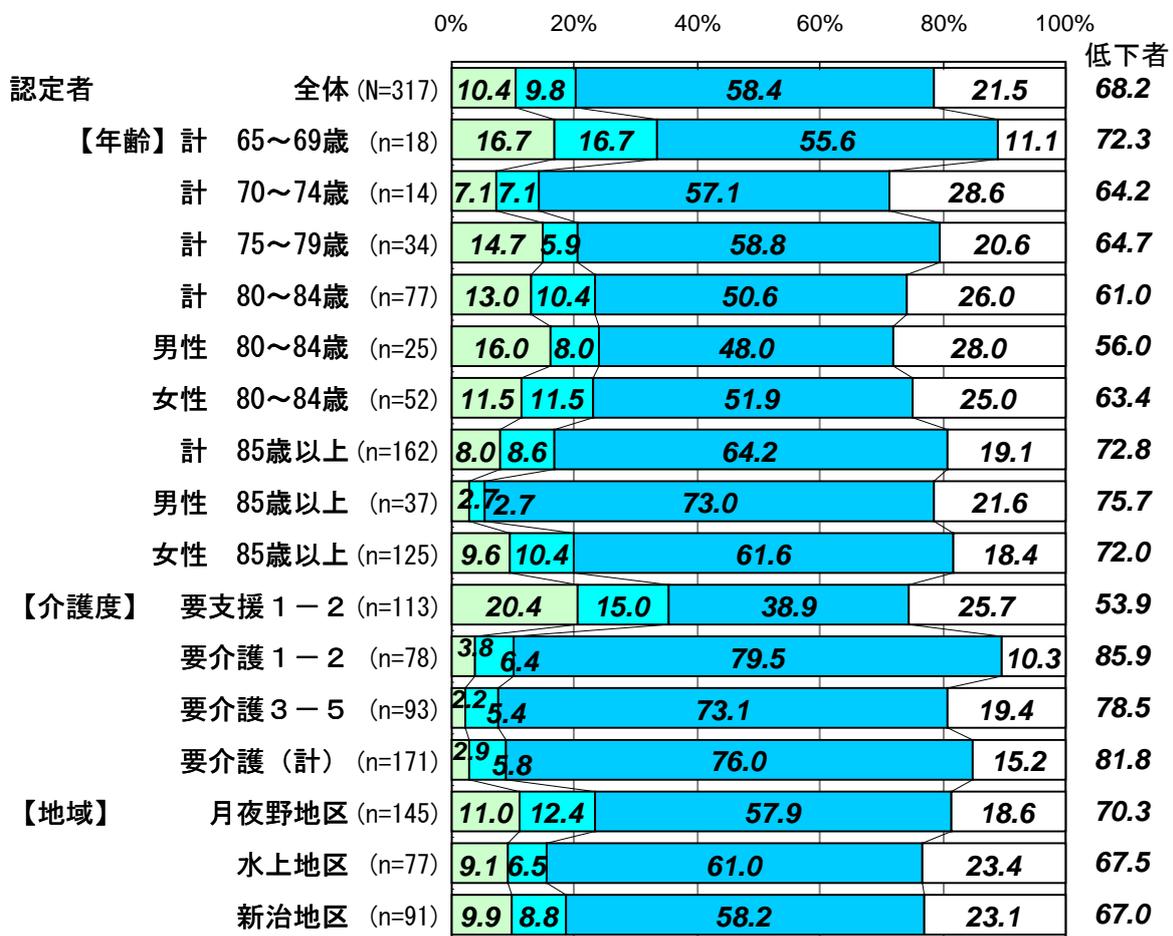
前述した老研式活動能力指標(「IADL」「知的能動性」「社会的役割」に関わる13設問)の総合評価について、13点満点で評価し、合計得点が10点以下の場合、低下者として判定する(後述の「評価方法」を参照)。

□老研指標総合評価の「低下者」の割合 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「低下者」の割合は 68.2%。
- 認定者の「低下者」は、75～79 歳、80～84 歳の各 64.7%、61.0%に比べて、85 歳以上では 72.8%とかなり高くなる。
- 介護度別の「低下者」は、要支援の 53.9%に対して、要介護では 81.8%（要介護 3-5 よりも要介護 1-2 のほうが高いが、要介護 3-5 は無回答が多く、「11 点以上」の比率はほぼ変わらないため、両者の差については分析しない）。
- 地域別では、月夜野地区（70.3%）が他の 2 地区（67%台）に比べてやや高め。

□老研指標総合評価の「低下者」の割合 [認定者]



□ 11点以上: 高い ■ 9-10点: やや低い ■ 8点以下: 低い □ 無回答

低下者

□老研指標総合評価の評価方法

(自立者: 11~13 点(「高い」、低下者:10 点以下(「やや低い」:9~10 点、「低い」:0~8 点))

問番号	設問	配点と選択肢	項目
問 6-Q1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	1 点:「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」	手段的 自立度 (IADL)
問 6-Q2	日用品の買物をしていますか		
問 6-Q3	自分で食事の用意をしていますか		
問 6-Q4	請求書の支払いをしていますか		
問 6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか		
問 7-Q1	年金などの書類(役場や病院などに出す書類)が書けますか	1 点:「1. はい」	知的 能動性
問 7-Q2	新聞を読んでいますか		
問 7-Q3	本や雑誌を読んでいますか		
問 7-Q4	健康についての記事や番組に関心がありますか	1 点:「1. はい」	社会的 役割
問 7-Q5	友人の家を訪ねていますか		
問 7-Q6	家族や友人の相談にのっていますか		
問 7-Q7	病人を見舞うことができますか		
問 7-Q8	若い人に自分から話しかけることができますか		

□回答結果

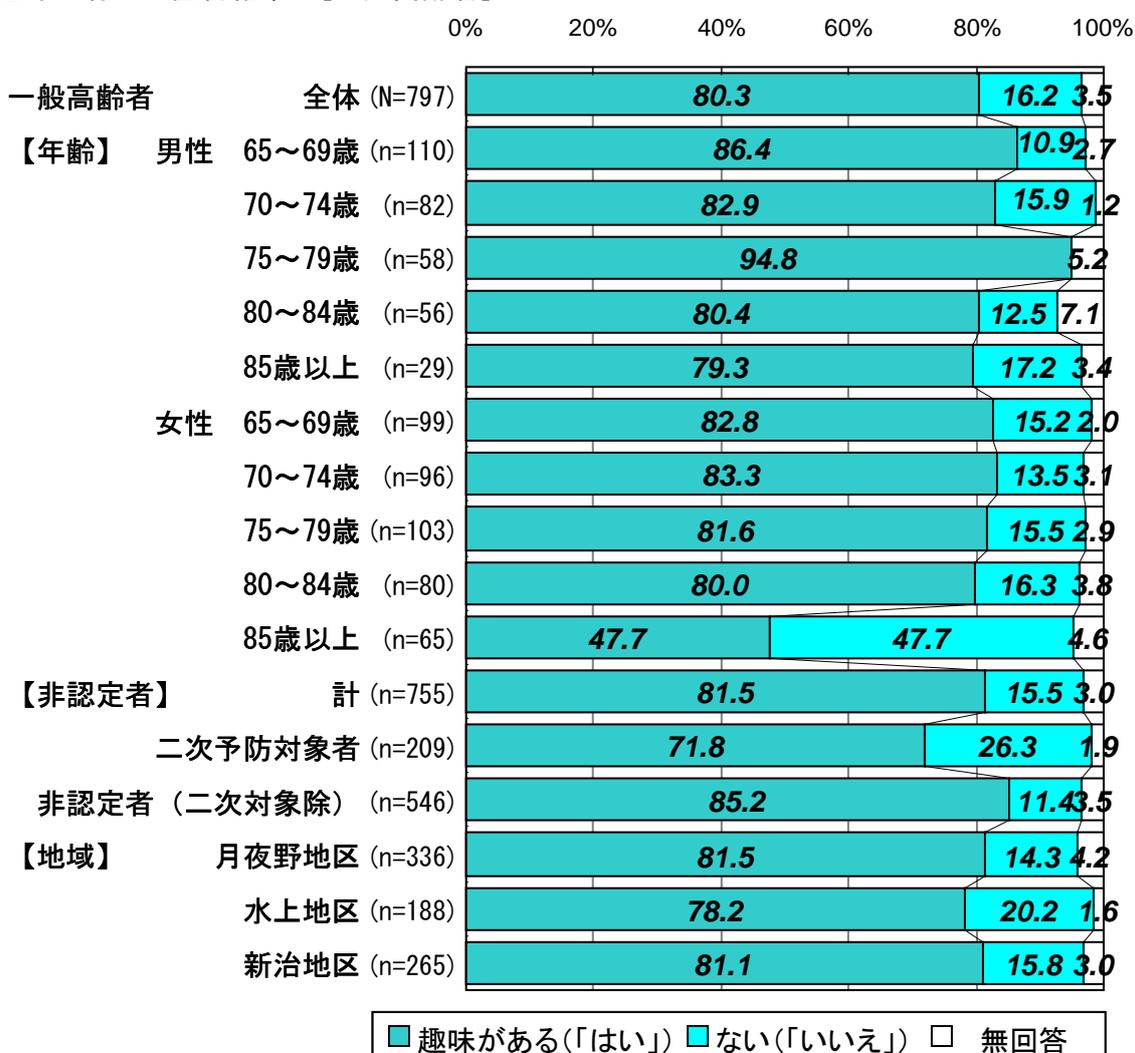
(単位:%)

設問(該当する回答)	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 6-Q1 バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)(できない)	5.8		67.8		
	2.9	11.0	54.0	87.2	79.6
問 6-Q2 日用品の買物をしていますか(できない)	2.4		57.7		
	1.1	4.8	35.4	83.3	72.0
問 6-Q3 自分で食事の用意をしていますか(できない)	4.1		54.3		
	1.8	8.6	31.0	69.2	76.3
問 6-Q4 請求書の支払いをしていますか(できない)	2.3		45.1		
	1.3	1.9	18.6	62.8	69.9
問 6-Q5 預貯金の出し入れをしていますか(できない)	3.3		52.7		
	1.5	5.7	30.1	74.4	72.0
問 7-Q1 年金などの書類(役場や病院などに出す書類)が書けますか(いいえ)	10.4		66.2		
	5.3	21.1	49.6	82.1	80.6
問 7-Q2 新聞を読んでいますか(いいえ)	9.2		46.1		
	6.0	14.8	29.2	53.8	66.7
問 7-Q3 本や雑誌を読んでいますか(いいえ)	22.5		56.5		
	16.7	34.9	46.0	66.7	68.8
問 7-Q4 健康についての記事や番組に関心がありますか(いいえ)	7.5		43.8		
	5.7	10.0	23.9	62.8	62.4
問 7-Q5 友人の家を訪ねていますか(いいえ)	20.5		71.3		
	16.5	28.7	60.2	76.9	83.9
問 7-Q6 家族や友人の相談にのっていますか(いいえ)	12.0		62.5		
	9.2	18.2	45.1	79.5	72.0
問 7-Q7 病人を見舞うことができますか(いいえ)	5.4		64.4		
	2.4	11.0	50.4	75.6	77.4
問 7-Q8 若い人に自分から話しかけることができますか(いいえ)	10.5		43.8		
	7.7	16.7	29.2	43.6	62.4

6) 趣味の有無

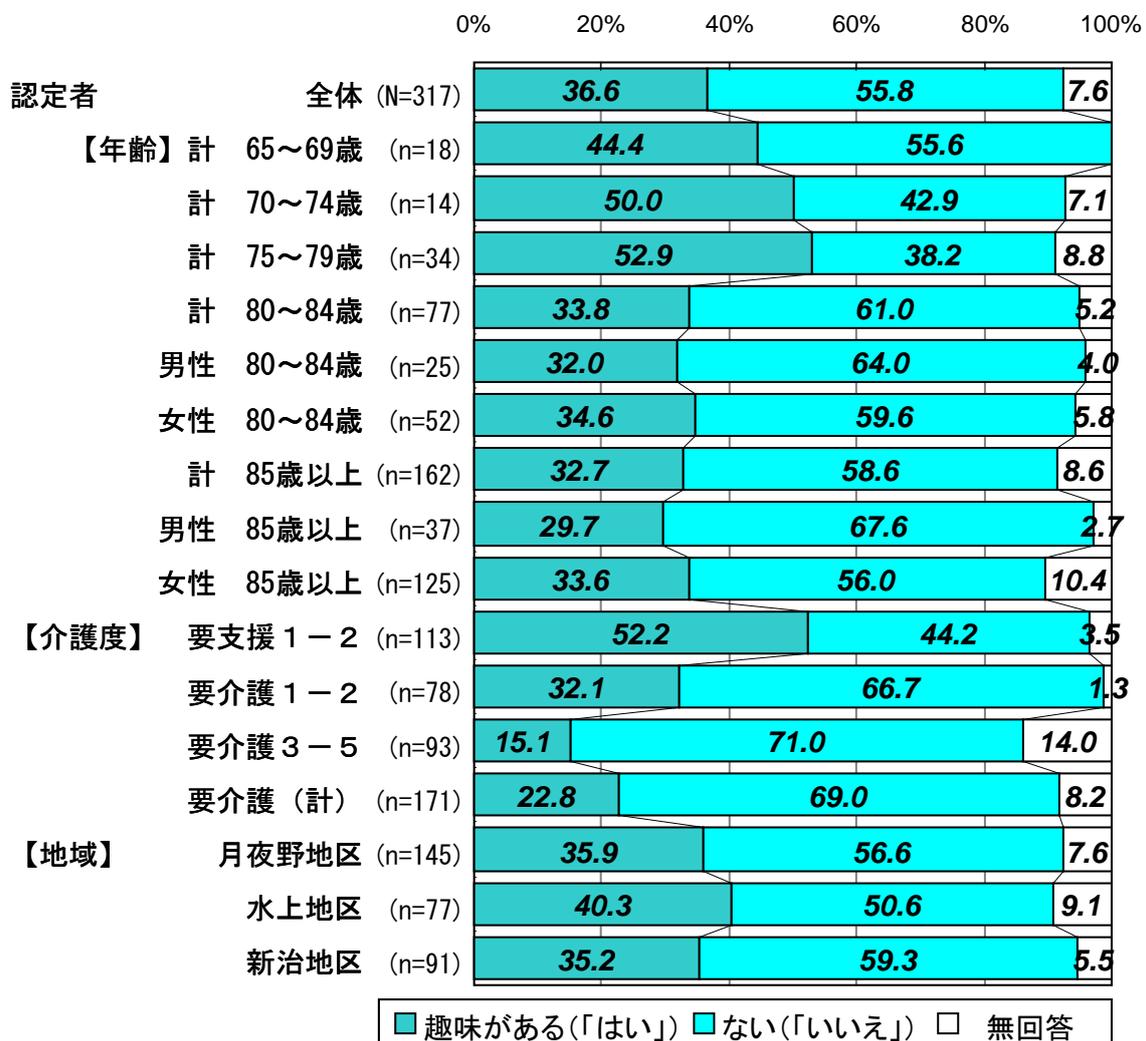
- 趣味がある人は、一般高齢者の全体では 80.3%。「趣味がない (いいえ)」は 16.2%。
- 「趣味がない (いいえ)」を年齢別に見ると、女性の 85 歳以上で 47.7%と目立って高い。
- 二次予防対象者の「趣味がない (いいえ)」は 26.3%で、一般にあたる非認定者 11.4%に比べると、無趣味の人が多い。
- 地域別で「趣味がない (いいえ)」を見ると、水上地区で 20.2%と他の 2 地区 (14~15% 台) に比べて高い。

□趣味の有無の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「趣味がない(いいえ)」は55.8%。
- 「趣味がない(いいえ)」は、75～79歳の38.2%に比べて、80～84歳の61.0%、85歳以上の58.6%が、より高くなっている。
- 介護度別の「趣味がない(いいえ)」は、要支援の44.2%に対して、要介護1-2では66.7%、要介護3-5では71.0%と、介護度が上がるにつれて高くなる。
- 地域別では、新治地区で59.3%と最も高く、月夜野地区(56.6%)、水上地区(50.6%)と続く。

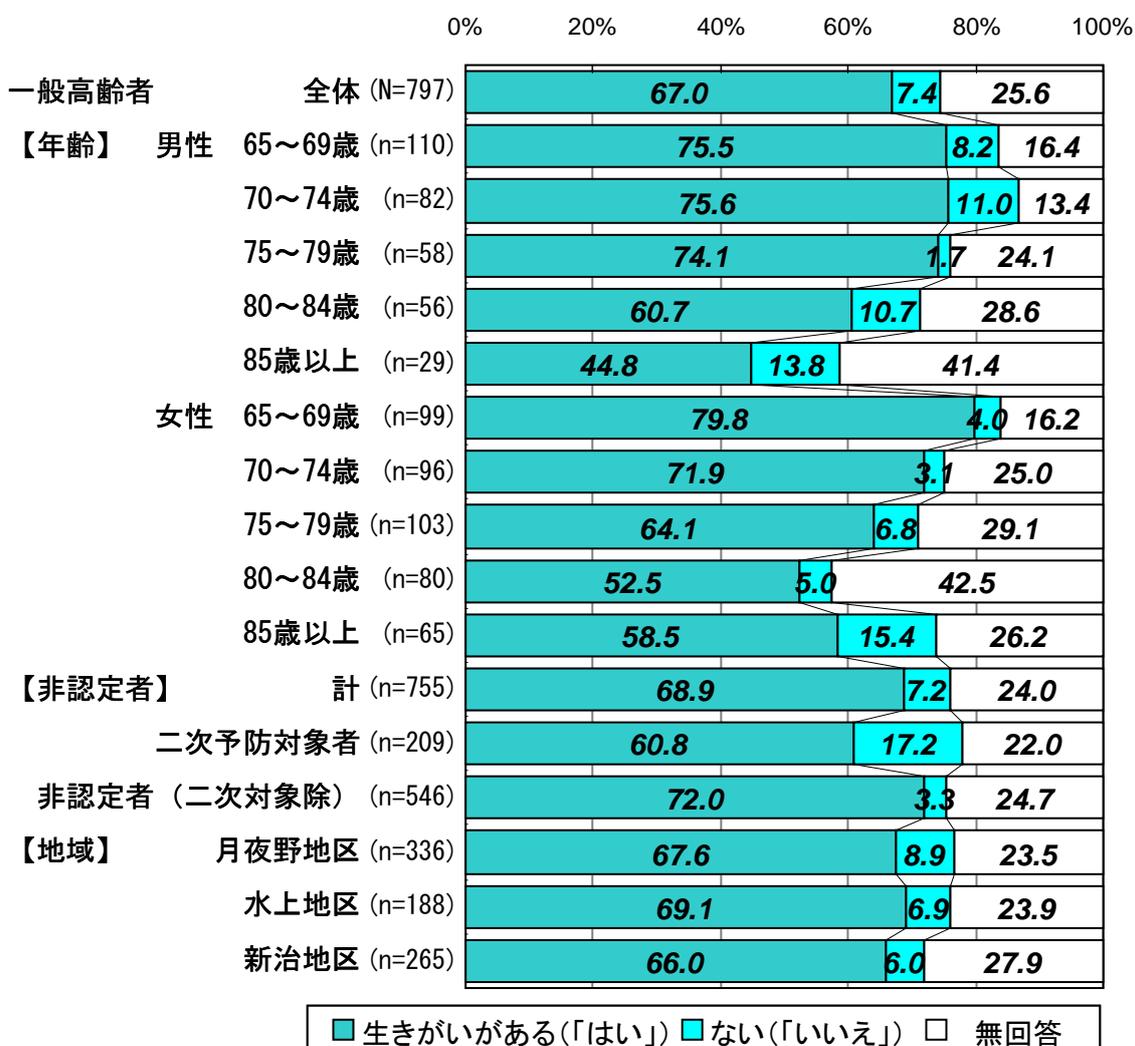
□趣味の有無の回答結果 [認定者]



7) 生きがいの有無

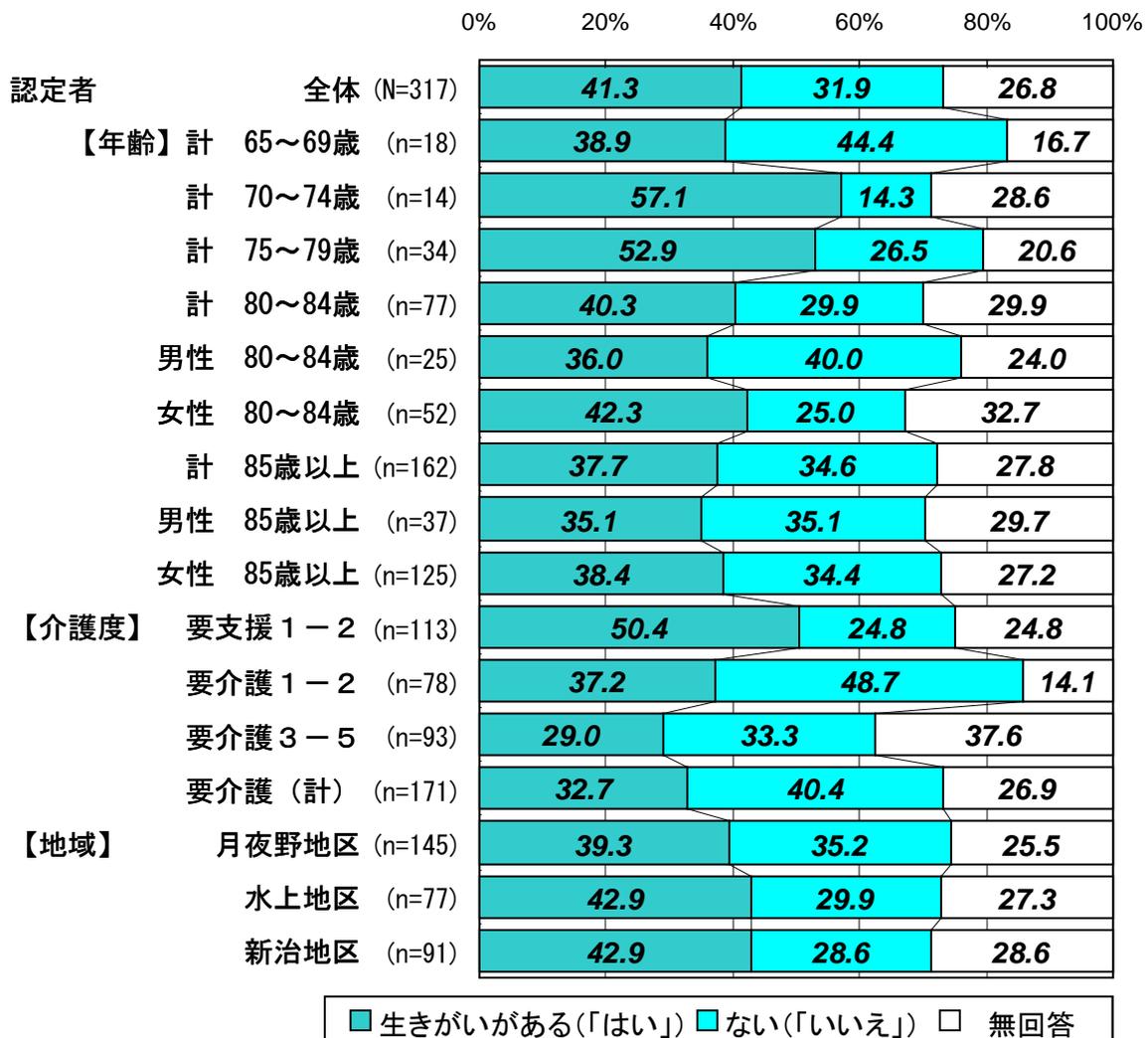
- 生きがいがある人は、一般高齢者の全体では 67.0%。「生きがいがない(いいえ)」は 7.4%。
- 「生きがいがない(いいえ)」を年齢別に見ると、10%以上と目立つのは女性の 85 歳以上 (15.4%)、男性の 85 歳以上 (13.8%)、70～74 歳 (11.0%)。
- 二次予防対象者の「生きがいがない(いいえ)」は 17.2%で、一般にあたる非認定者 3.3%を大きく上回る。
- 地域別で「生きがいがない(いいえ)」を見ると、3 地区ともに 6～8%台と大きな差はない。

□ 生きがいの有無の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「生きがいがない(いいえ)」は31.9%。
- 「生きがいがない(いいえ)」は、75～79歳の26.5%、80～84歳の29.9%に比べて、85歳以上の34.6%で、より高くなっている。
- 介護度別の「生きがいがない(いいえ)」は、要支援の24.8%に対して、要介護では40.4%（要介護3-5よりも要介護1-2のほうがかなり高いが、要介護3-5は無回答が多く、「生きがいがある」も要介護1-2のほうが多いため、両者の差については分析しない）。
- 地域別では、月夜野地区で35.2%と最も高く、他の2地区（28～29%台）を上回る。

□生きがいの有無の回答結果 [認定者]

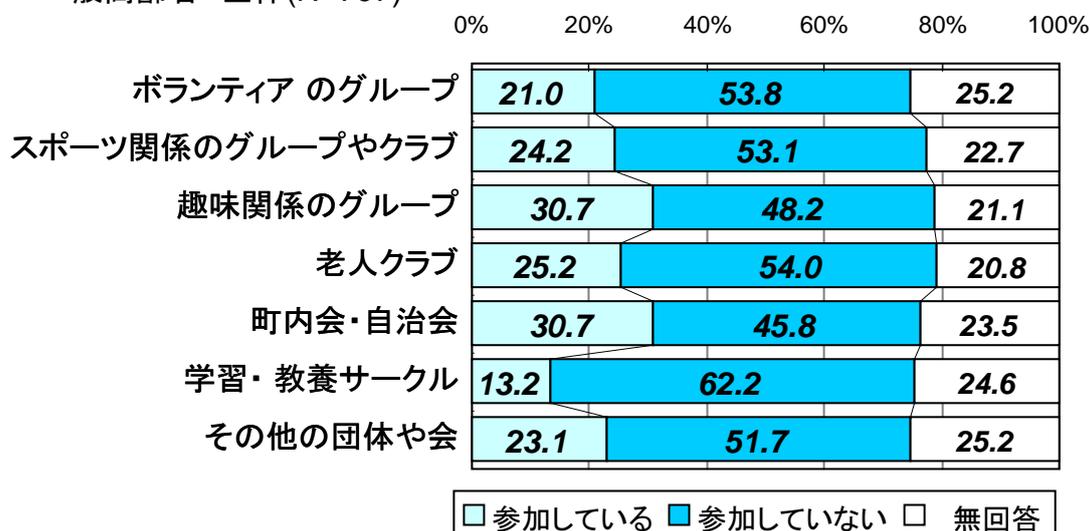


8) グループ・クラブ・会・サークルへの参加

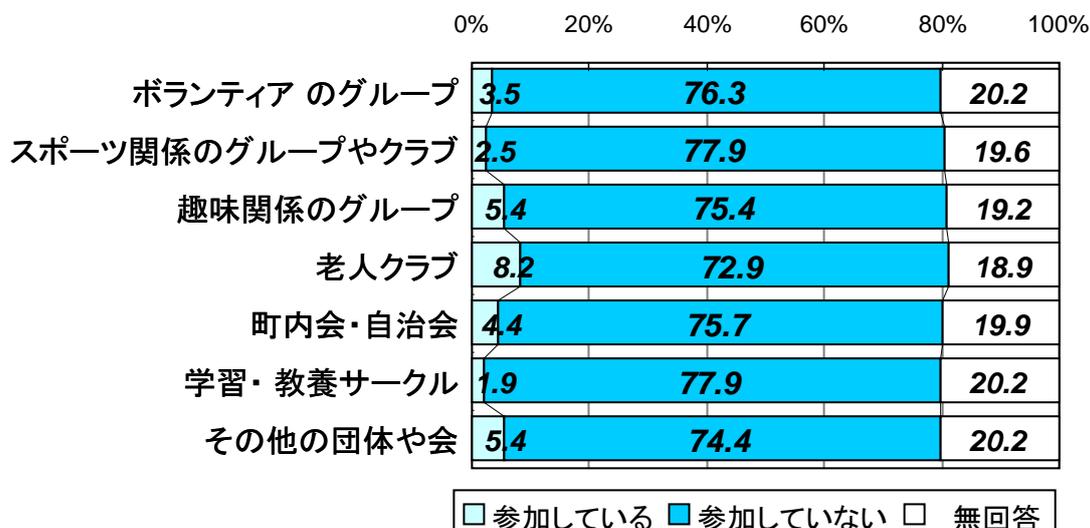
- 一般高齢者の全体で見た各活動への参加率は、高い順に「趣味関係のグループ」「町内会・自治会」(30.7%)、「老人クラブ」(25.2%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(24.2%)、「その他の団体や会」(23.1%)、「ボランティアグループ」(21.0%)で、参加率が最も低く(13.2%)、「参加していない」が最も高い(62.2%)のは「学習・教養サークル」となる。
- 認定者の全体で見た参加率は、最も高くても「老人クラブ」の8.2%で、いずれも10%未満。

□グループ・クラブ・会・サークルへの参加状況の回答結果 [一般高齢者／認定者]

一般高齢者 全体(N=797)

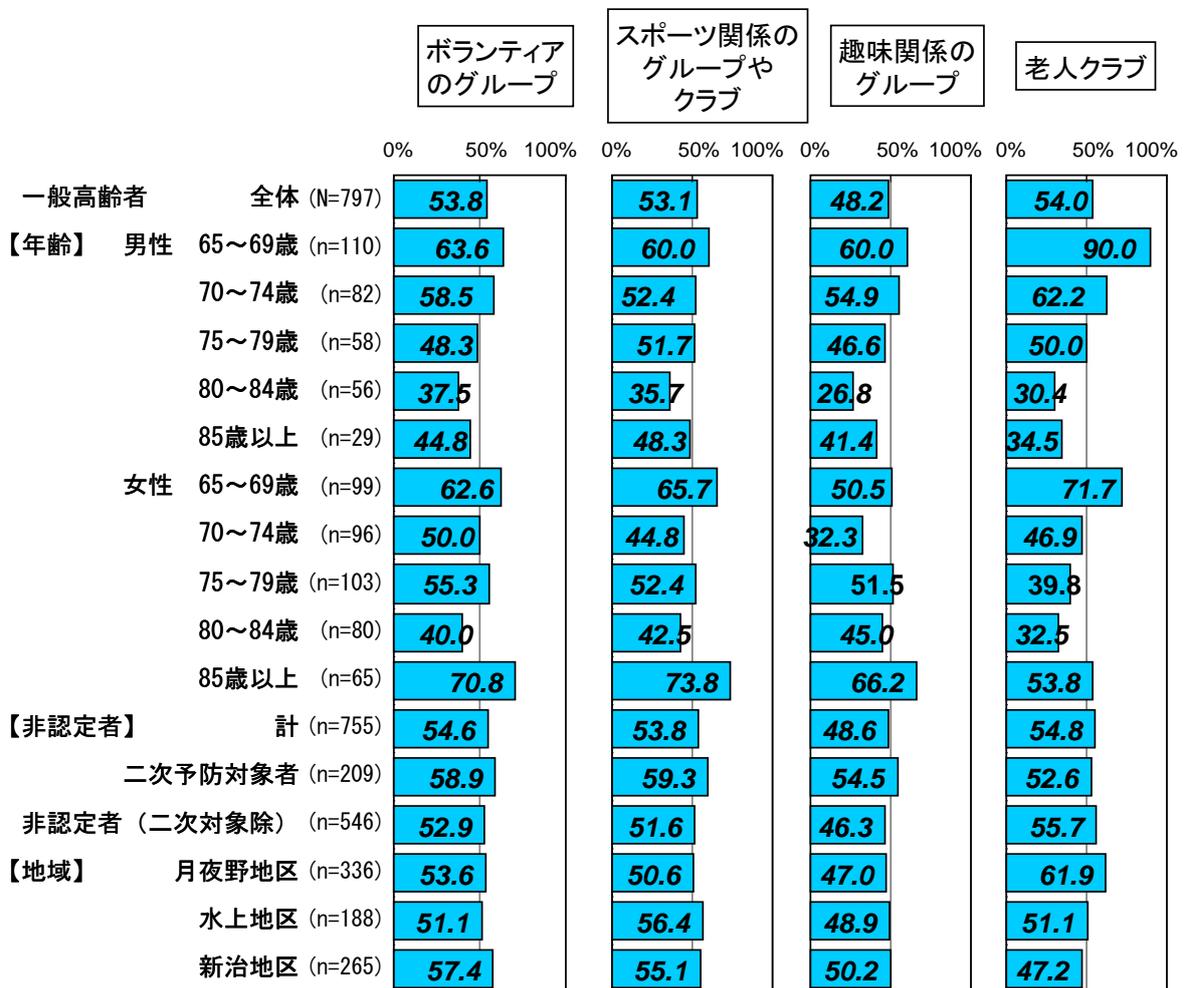


認定者 全体(N=317)

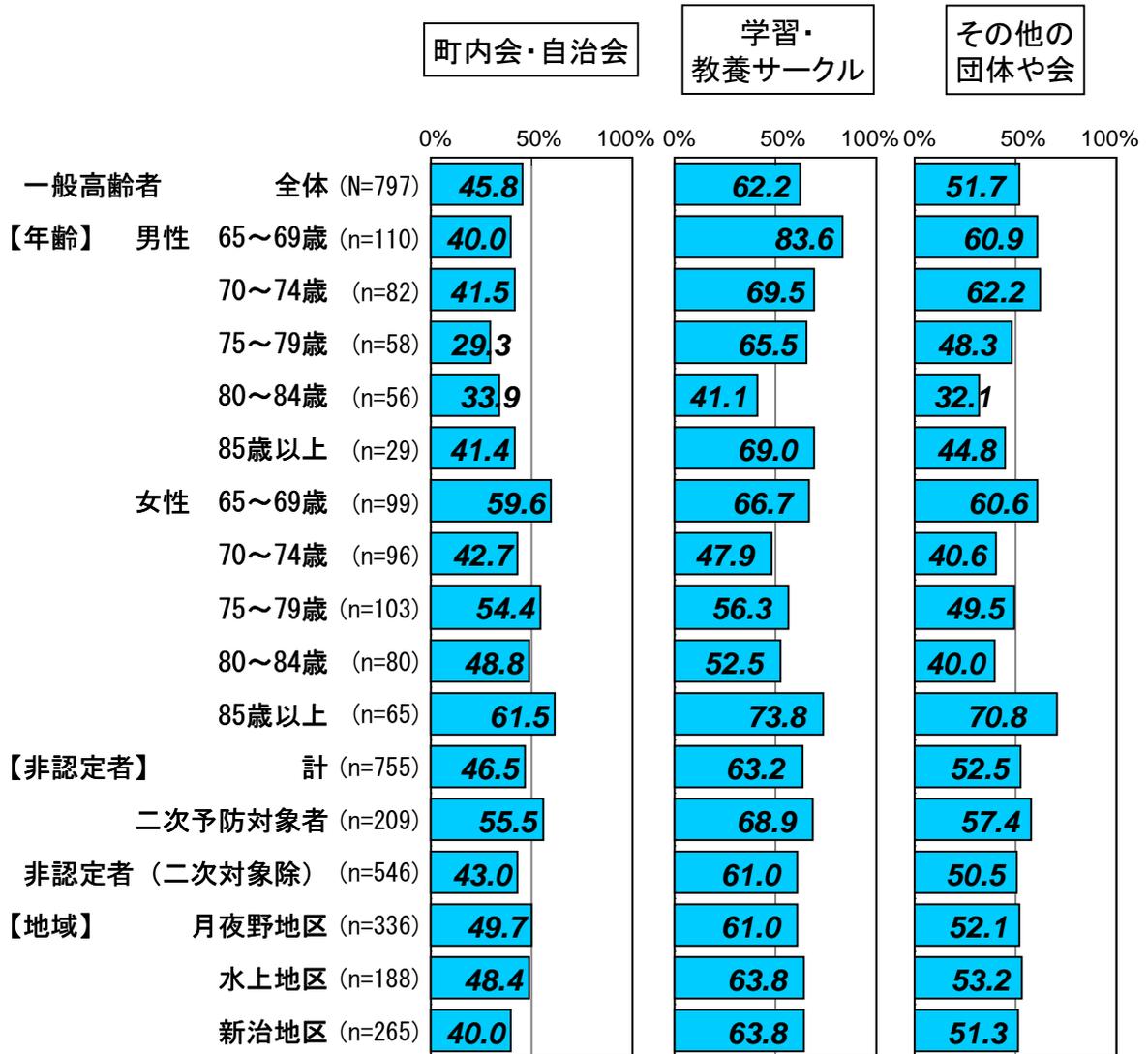


- 一般高齢者の「参加していない」の率を年齢別で見ると、男性は全般的に 65～69 歳で「参加していない」の率が高く、80～84 歳まではその率が徐々に低下、85 歳以上では再び率が上がる、といった傾向。女性でも 65～69 歳と 85 歳以上の「参加していない」の率が、他の年齢層に比べて高い。
- 二次予防対象者は、「老人クラブ」を除くすべての活動で、一般にあたる非認定者よりも「参加していない」の率が高い。
- 地域別で他地区に比べて「参加していない」の率が高いのは、「ボランティアのグループ」の新治地区、「老人クラブ」の月夜野地区など。

□グループ・クラブ・会・サークルへの「参加していない」の回答結果 【一般高齢者】

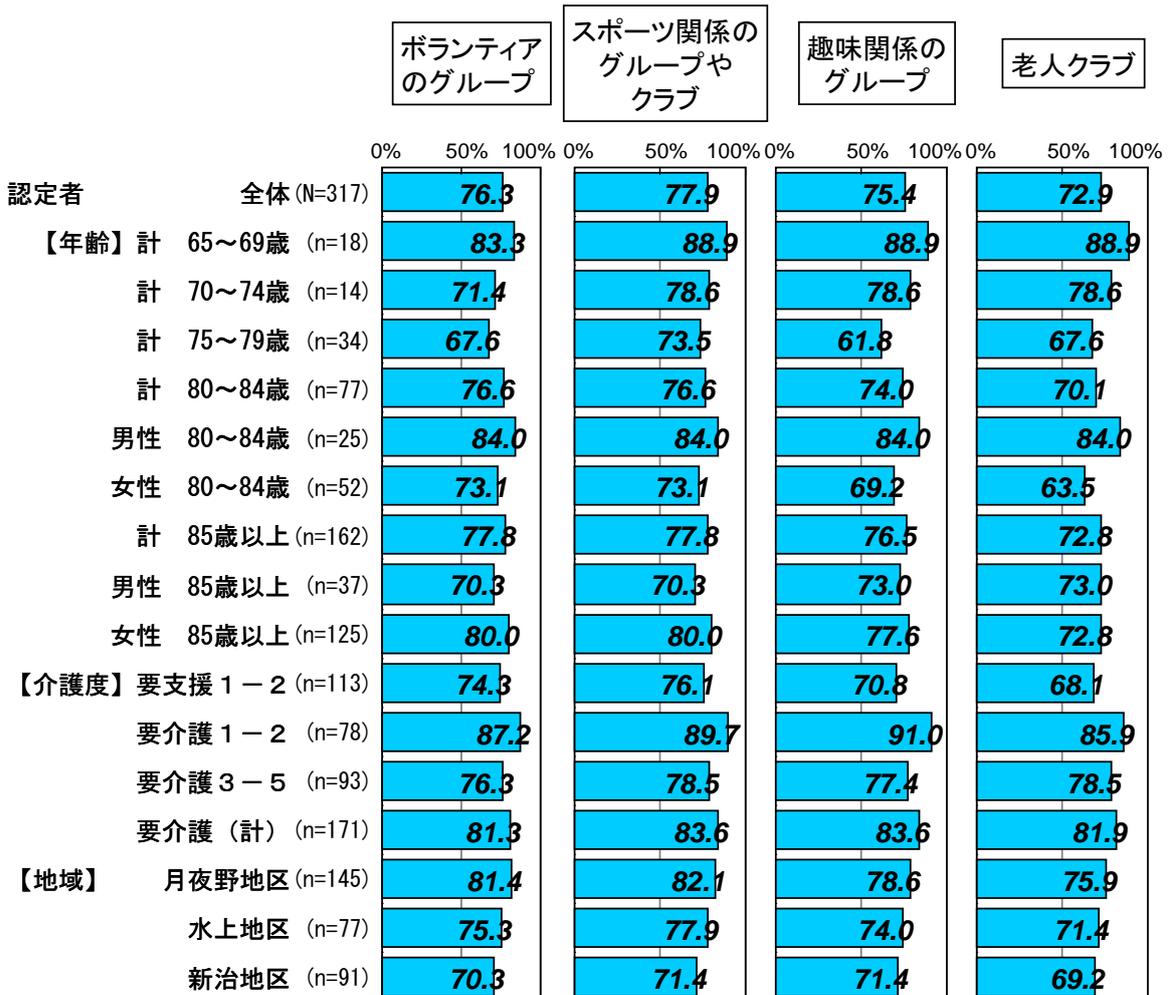


□グループ・クラブ・会・サークルへの「参加していない」の回答結果 [一般高齢者]

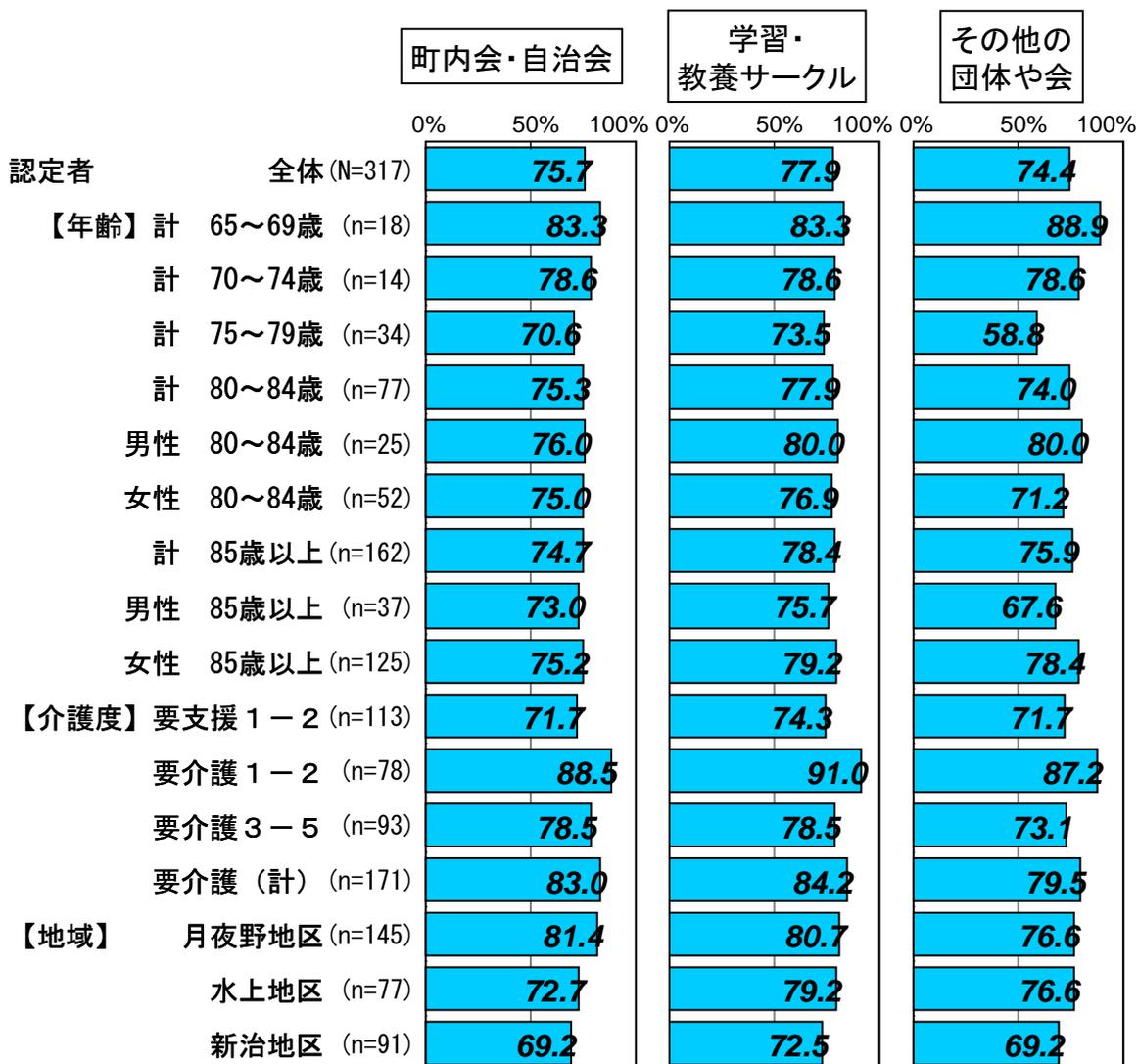


- 認定者の「参加していない」の率を介護度で見ると、全般的に要支援よりも要介護で大きく上回る傾向。
- 地域別で見ると、「参加していない」の率が高いのは、全般的に月夜野地区、水上地区、新治地区の順となる傾向。

□グループ・クラブ・会・サークルへの「参加していない」の回答結果 [認定者]



□グループ・クラブ・会・サークルへの「参加していない」の回答結果 [認定者]

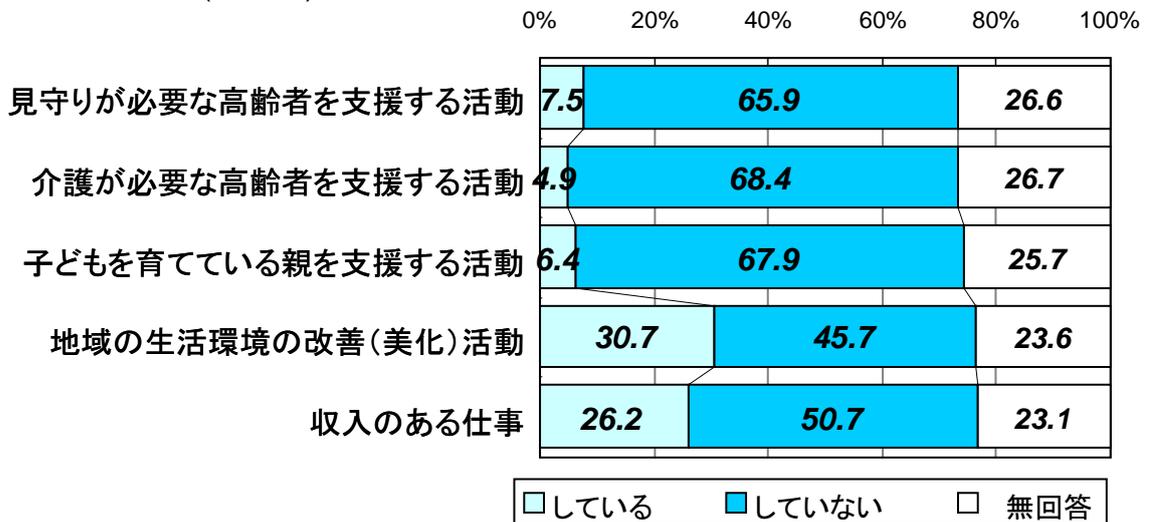


9) 地域活動や仕事

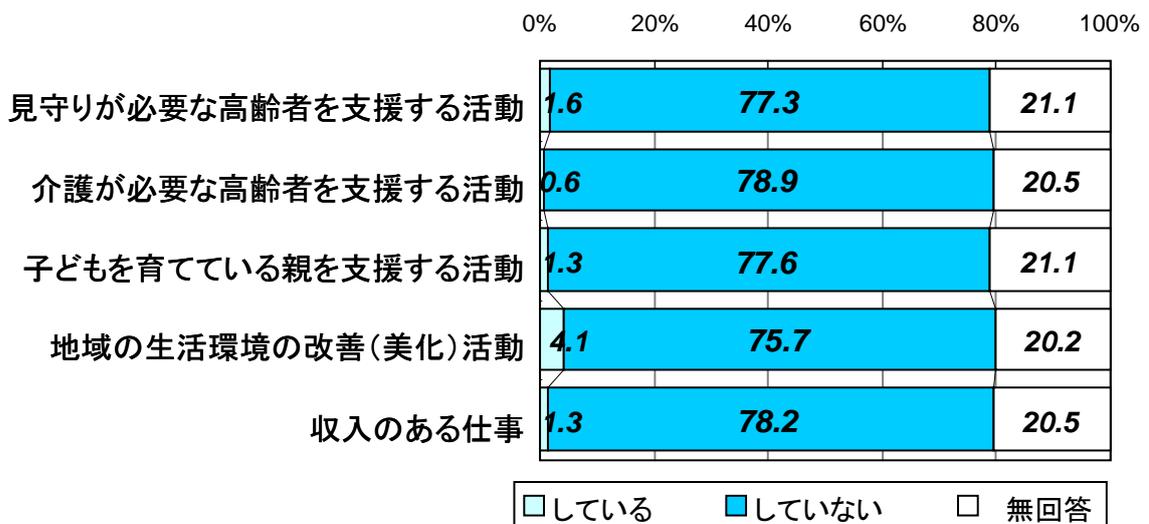
- 一般高齢者の全体で見た地域活動への参加率（「している」）は、「地域の生活環境の改善（美化）活動」が 30.7%で最も高く、他（「見守りが必要な高齢者を支援する活動」「介護が必要な高齢者を支援する活動」「子どもを育てている親を支援する活動」）は 5～7%台にとどまる。
- 認定者の全体で見た参加率（「している」）は、最も高くても「地域の生活環境の改善（美化）活動」の 4.1%で、他は 1%前後。
- 「収入のある仕事」をしている人は、一般高齢者で 26.2%、認定者では 1.3%。

□地域活動への参加状況の回答結果 [一般高齢者／認定者]

一般高齢者 全体(N=797)

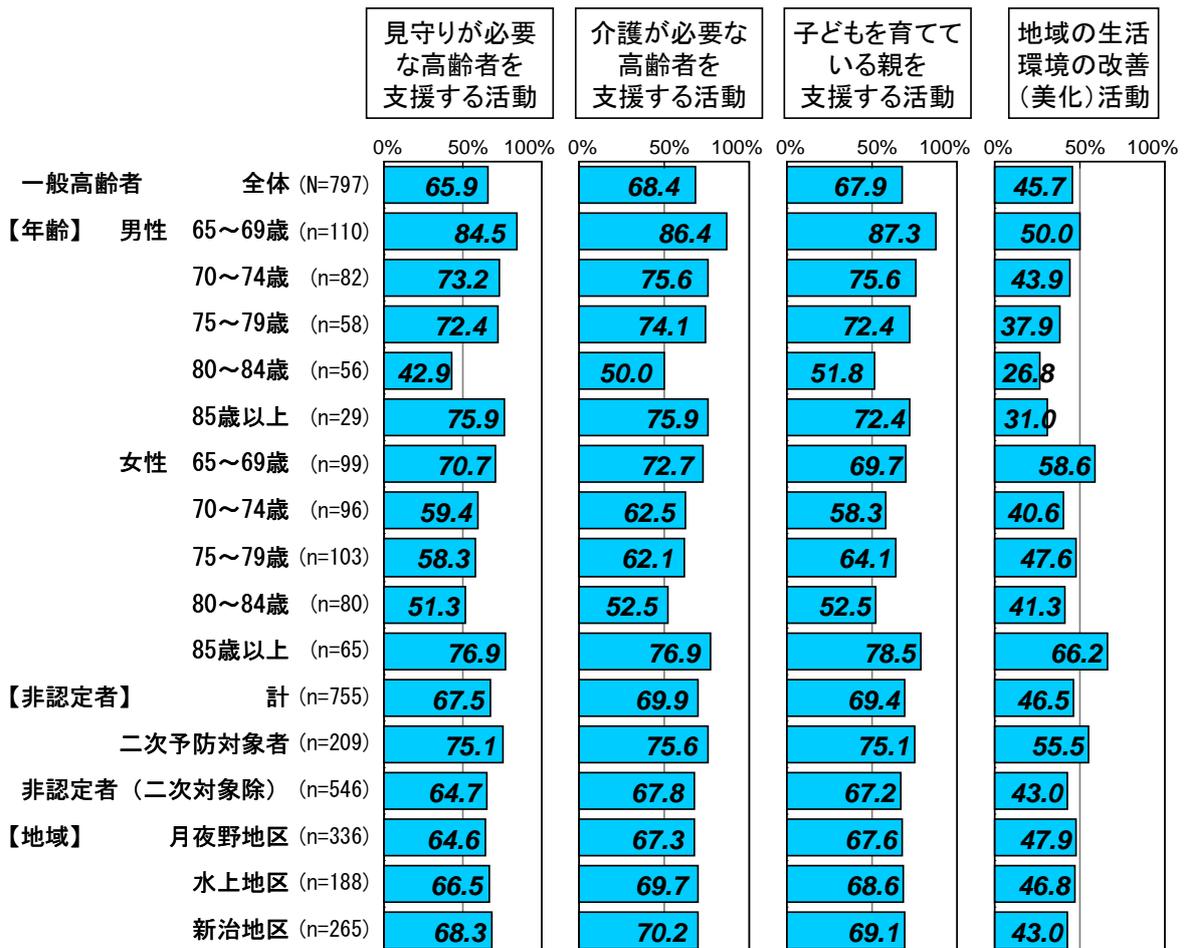


認定者 全体(N=317)



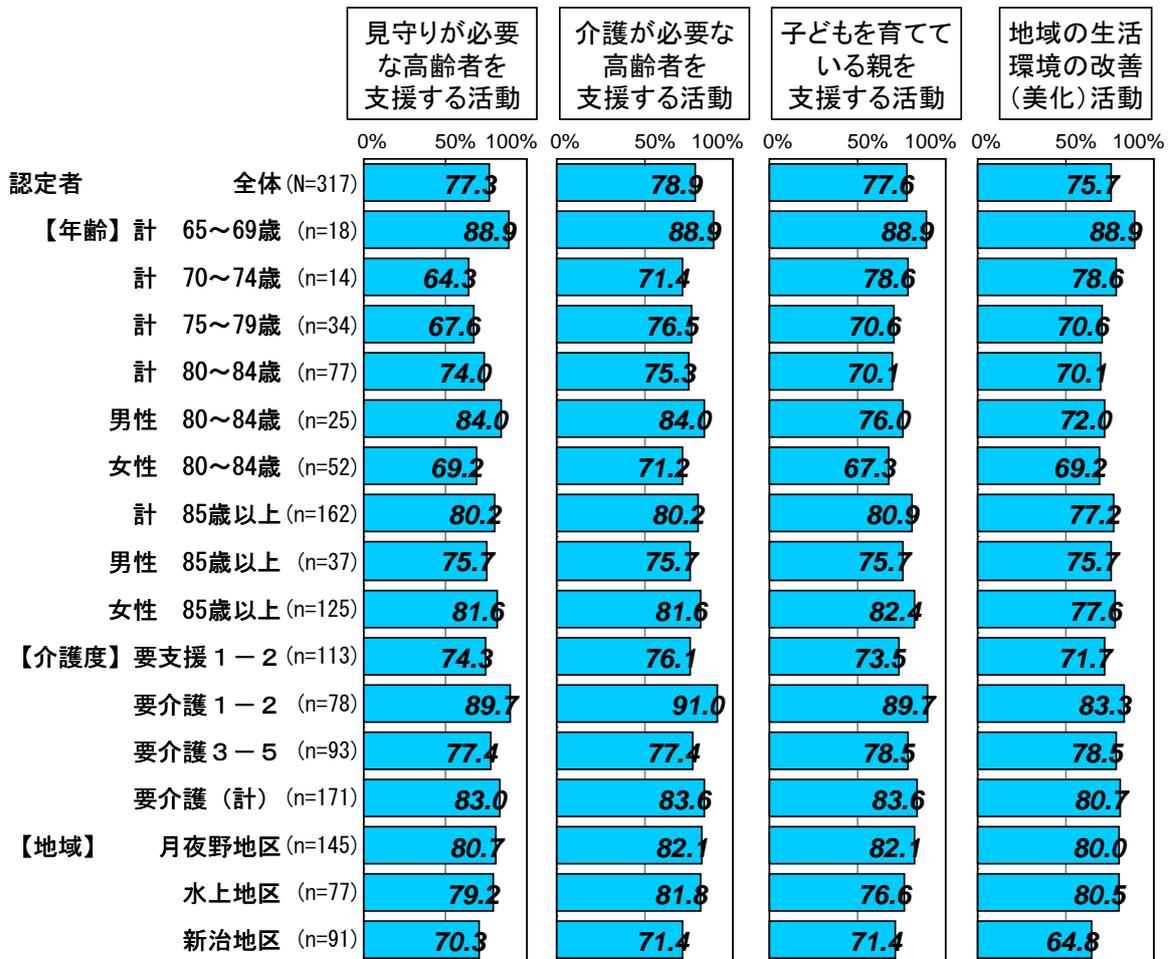
- 一般高齢者の地域活動を「していない」の率を年齢別で見ると、男性は全般的に 65～69 歳で「していない」の率が高く、80～84 歳でその率が最も低くなる傾向。女性では、65～69 歳と 85 歳以上の「していない」の率が、他の年齢層に比べて高い。
- 二次予防対象者は、すべての活動で、一般にあたる非認定者よりも「していない」の率が高い。
- 地域別では、際立った違いは見られないといえる。

□地域活動を「していない」の回答結果 [一般高齢者]



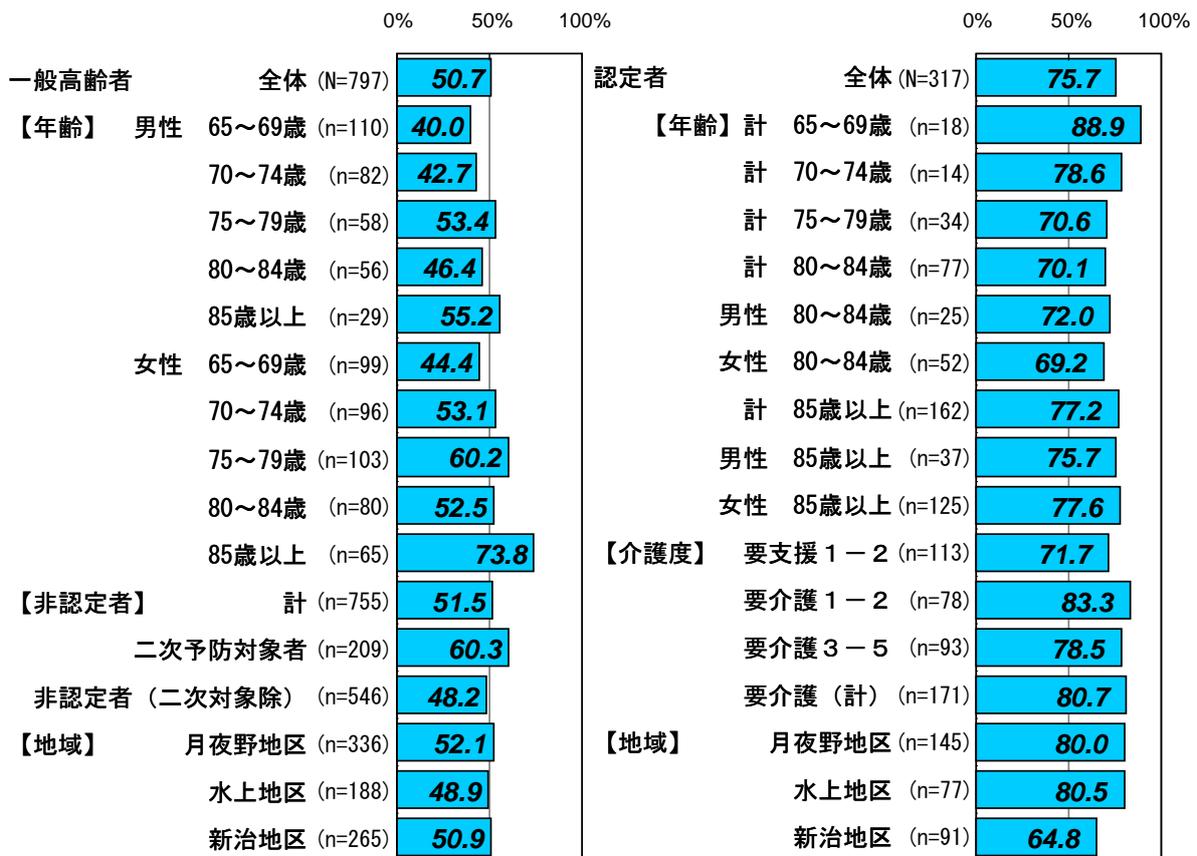
- 認定者の「していない」の率を介護度で見ると、全般的に要支援よりも要介護で大きく上回る傾向。
- 地域別で見ると、全般的に月夜野地区や水上地区に比べて、新治地区で「していない」の率は相対的に低い。

□地域活動を「していない」の回答結果 [認定者]



- 収入のある仕事を「していない」の率を見ると、一般高齢者では女性の85歳以上(73.8%)、女性の75～79歳(60.2%)で高い。
- 二次予防対象者は60.3%が仕事を「していない」。
- 認定者では、要支援の71.7%に対して、要介護では80.7%。
- 認定者の地域別では、月夜野地区、水上地区(80%台)に比べて、新治地区で64.8%と仕事を「していない」の率がかなり低い。

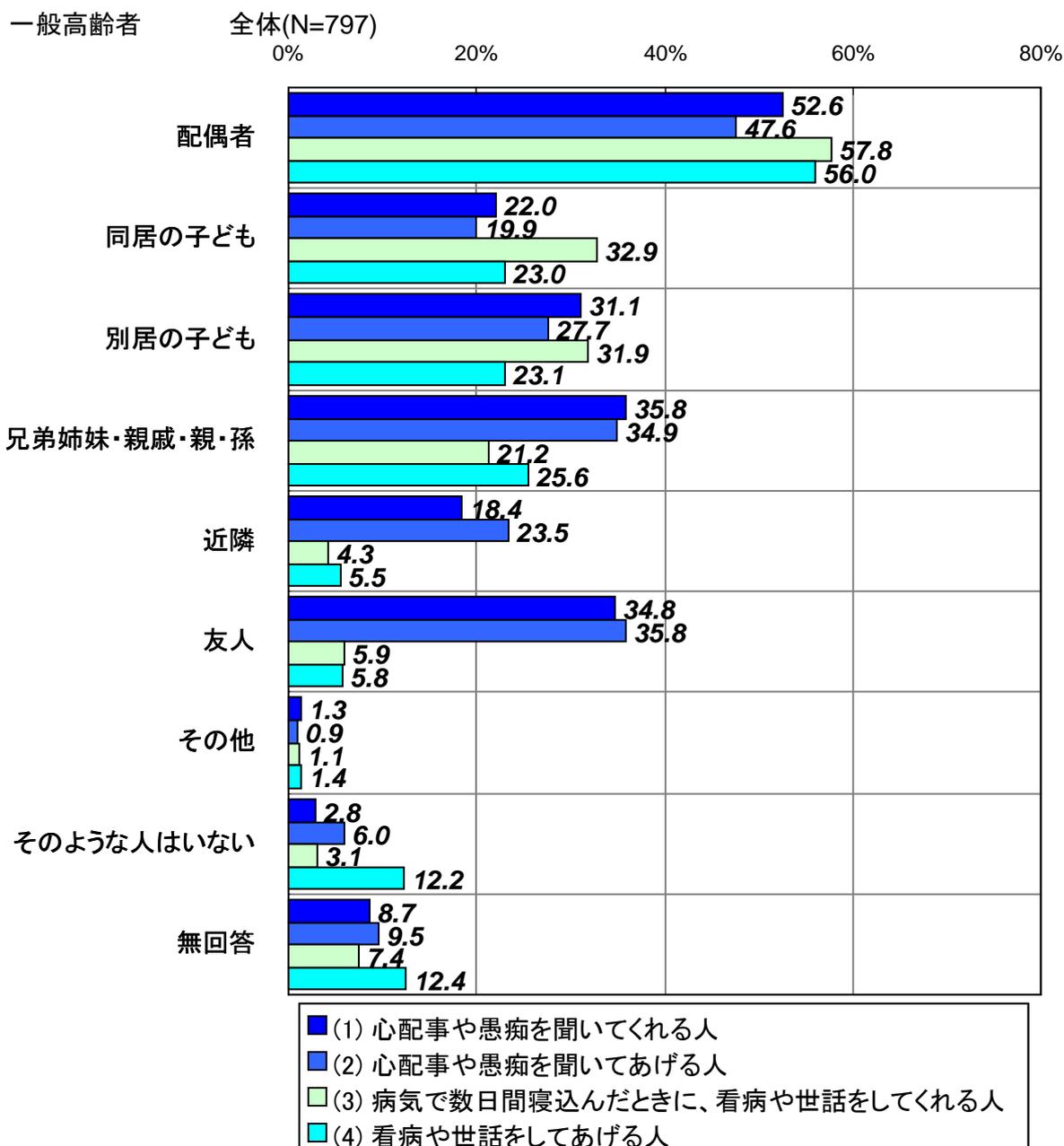
□仕事を「していない」の回答結果 [一般高齢者／認定者]



10) 助け合いの関係

- (1)～(4)のようなケースに対応してくれる(対応してあげる)相手について見ると、一般高齢者の全体では、いずれのケースでも「配偶者」が5割前後と最も多くなる。
- 「同居の子ども」は《(3)看病や世話をしてくれる人》、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」は《心配事や愚痴》を聞いたり／聞いてあげる相手、としてそれぞれ高い。

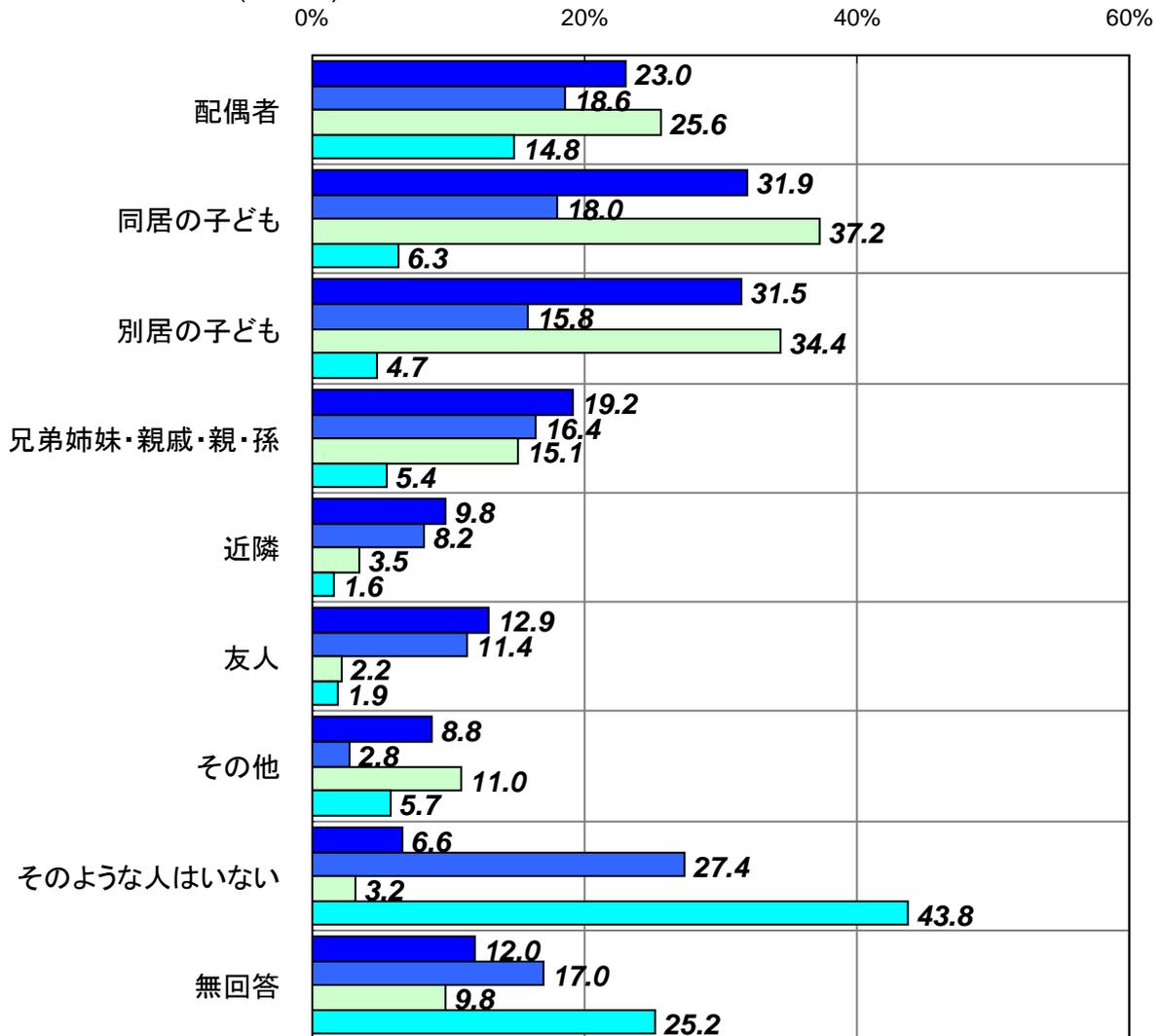
□助け合いの関係の回答結果(複数回答) [一般高齢者]



- 認定者の全体では、《(3) 看病や世話をしてくれる人》としては「同居の子ども」次いで「別居の子ども」が高く、「配偶者」はその次に続く。
- 《(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人》も、同様に「同居の子ども」「別居の子ども」が「配偶者」よりも高い。
- 《(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人》《(4) 看病や世話をしてあげる人》については、「そのような人はいない」が目立つ。

□助け合いの関係の回答結果（複数回答） [認定者]

認定者 全体(N=317)

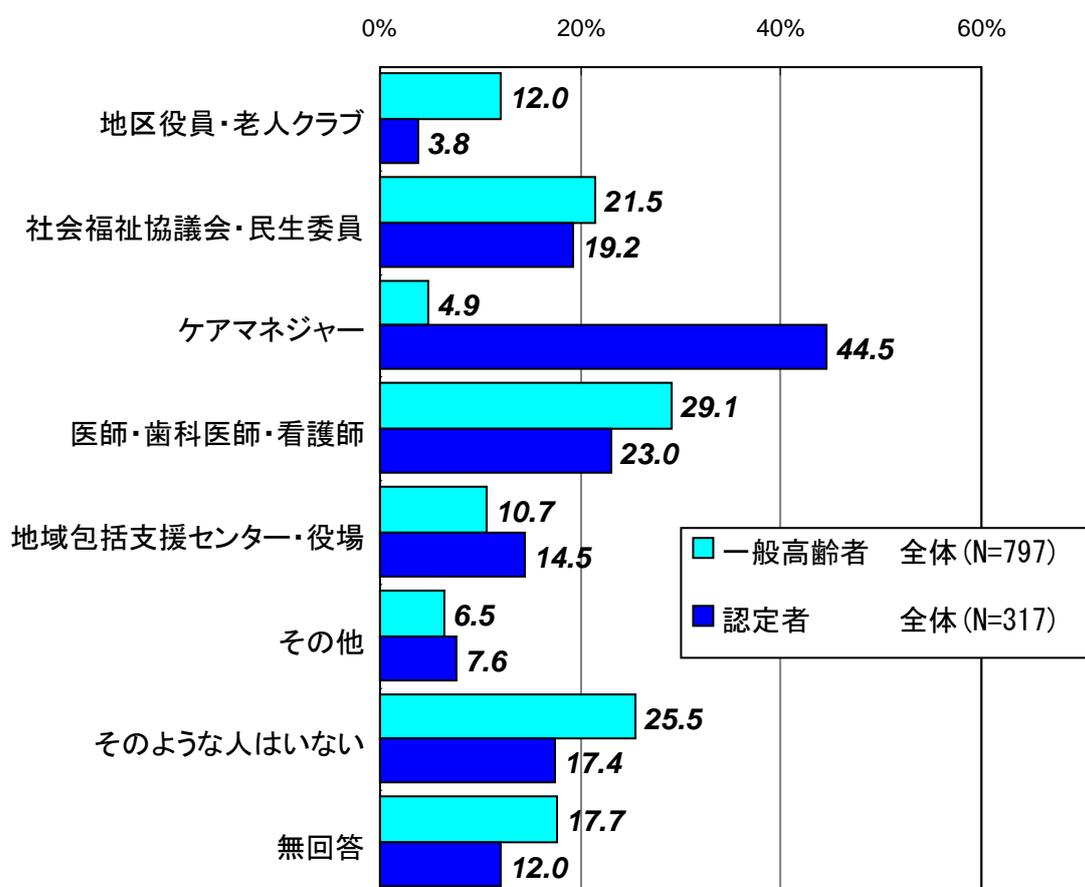


- (1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人
- (2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人
- (3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人
- (4) 看病や世話をしてあげる人

11) 相談相手

- 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手として、一般高齢者の全体では、「医師・歯科医師・看護師」(29.1%)が最も多く、次いで「社会福祉協議会・民生委員」(21.5%)。ただし、「そのような人はいない」も25.5%いる。
- 認定者の全体では、「ケアマネジャー」が44.5%と圧倒的に多い。次いで「医師・歯科医師・看護師」(23.0%)、「社会福祉協議会・民生委員」(19.2%)、「地域包括支援センター・役場」(14.5%)と続く。「そのような人はいない」は17.4%。

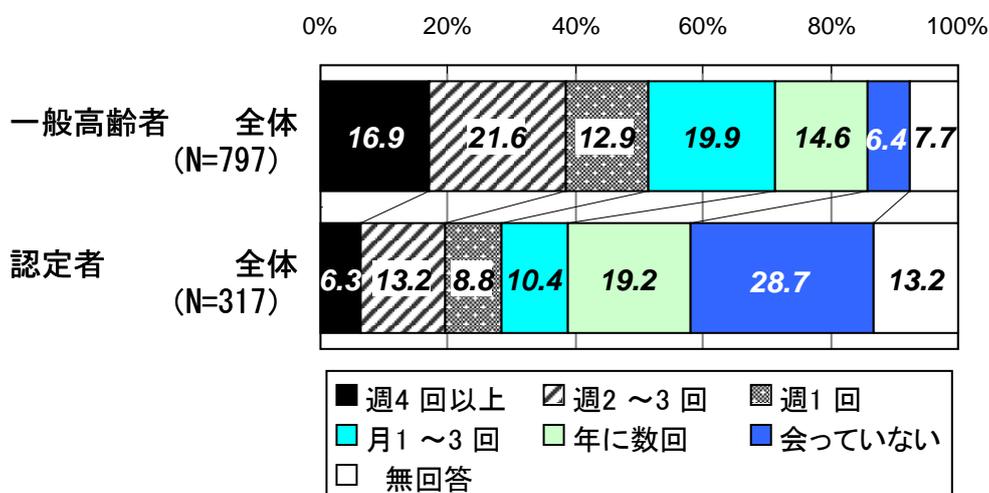
□家族や友人・知人以外の相談相手の回答結果（複数回答） [一般高齢者／認定者]



12) 友人関係

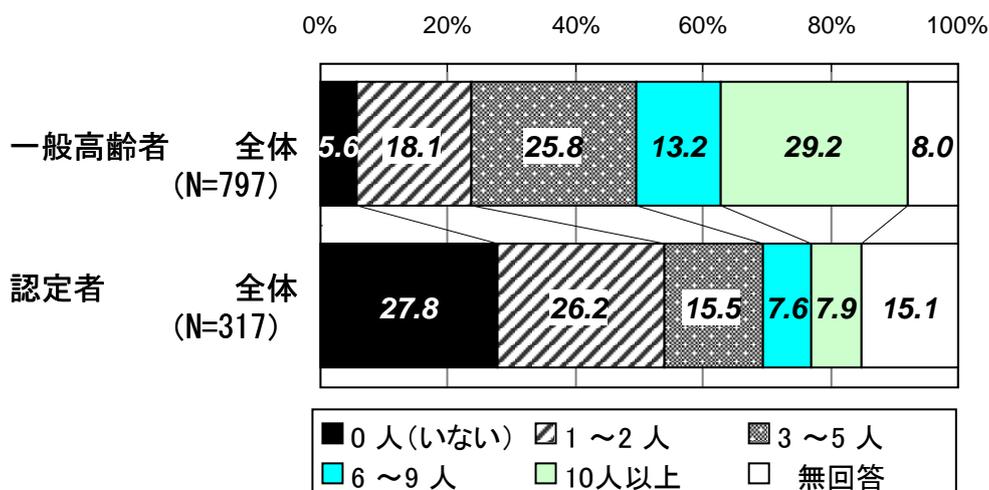
- 友人・知人と会う頻度について、一般高齢者の全体では、「週2～3回」(21.6%)や「月1～3回」(19.9%)、「週4回以上」(16.9%)と、比較的頻度の高い人が多い。
一方、認定者の全体では、「会っていない」が28.7%と最も多く、会っている人でも「年に数回」(19.2%)が目立つ程度になる。
- 1ヶ月間に会った友人・知人の延べ人数は、一般高齢者の全体では、「10人以上」が29.2%と最も多く、次いで「3～5人」(25.8%)。
認定者の全体では、「0人(いない)」が27.8%と最も多く、次いで「1～2人」(26.2%)。

□友人・知人と会う頻度の回答結果 [一般高齢者／認定者]



□この1ヶ月間に会った友人・知人の延べ人数の回答結果

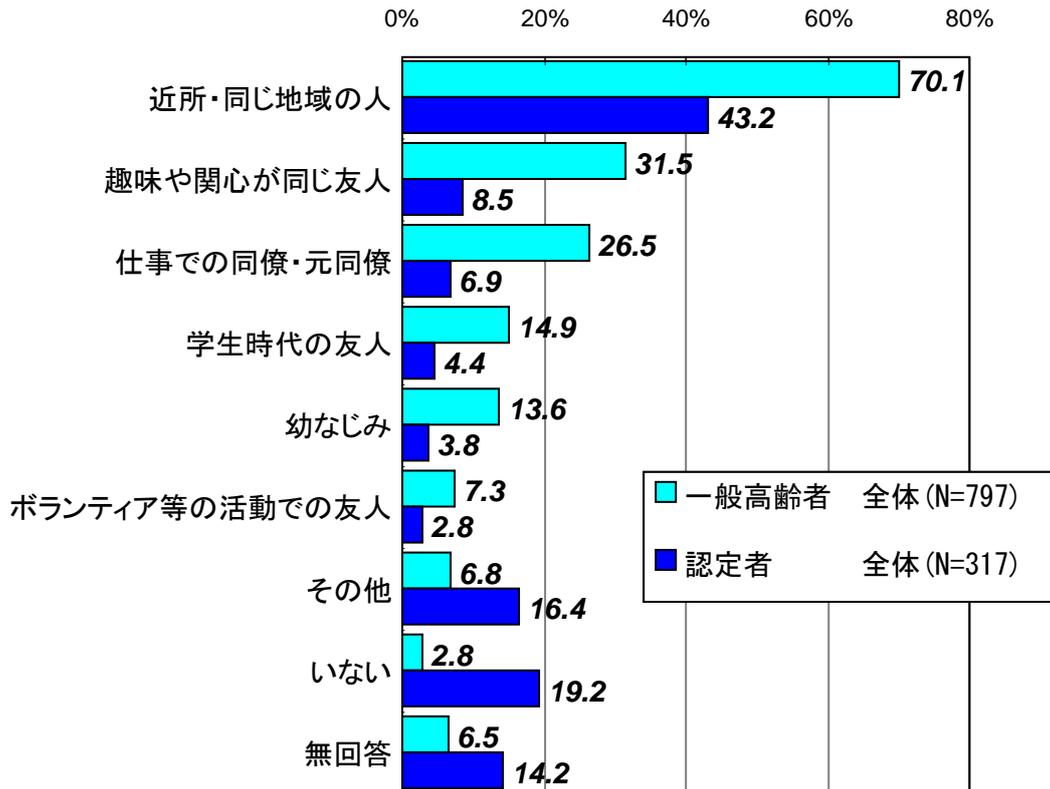
[一般高齢者／認定者]



- よく会う友人・知人は、一般高齢者の全体及び認定者の全体ともに、「近所・同じ地域の人」が最も多い。特に、一般高齢者では70.1%にのぼる。
- 一般高齢者では、続いて「趣味や関心が同じ友人」「仕事での同僚・元同僚」が続く。
- 認定者の全体では、「いない」が19.2%と目立つ。

□よく会う友人・知人の回答結果（複数回答）

[一般高齢者／認定者]

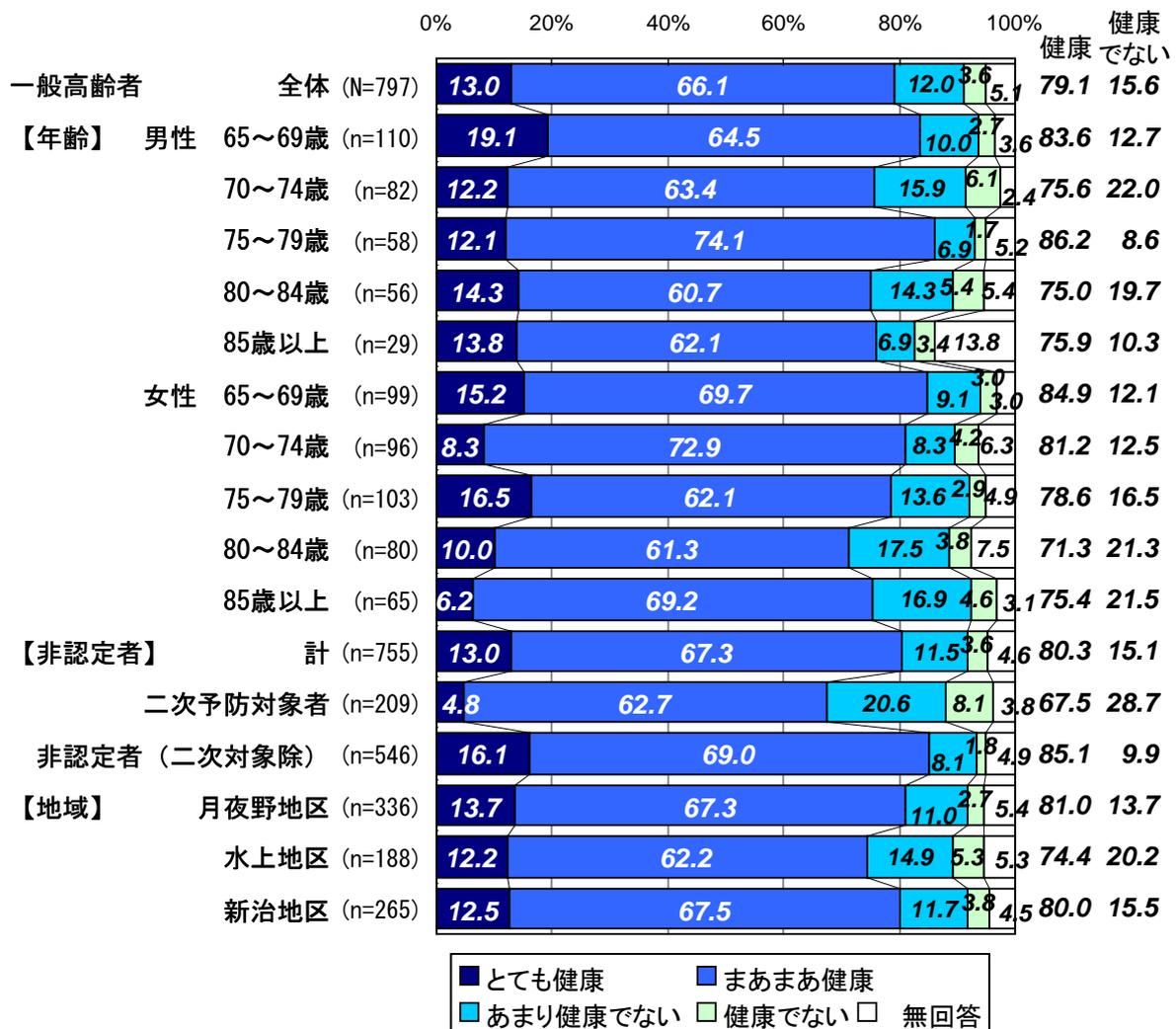


2. 疾病・健康

(1) 主観的健康感

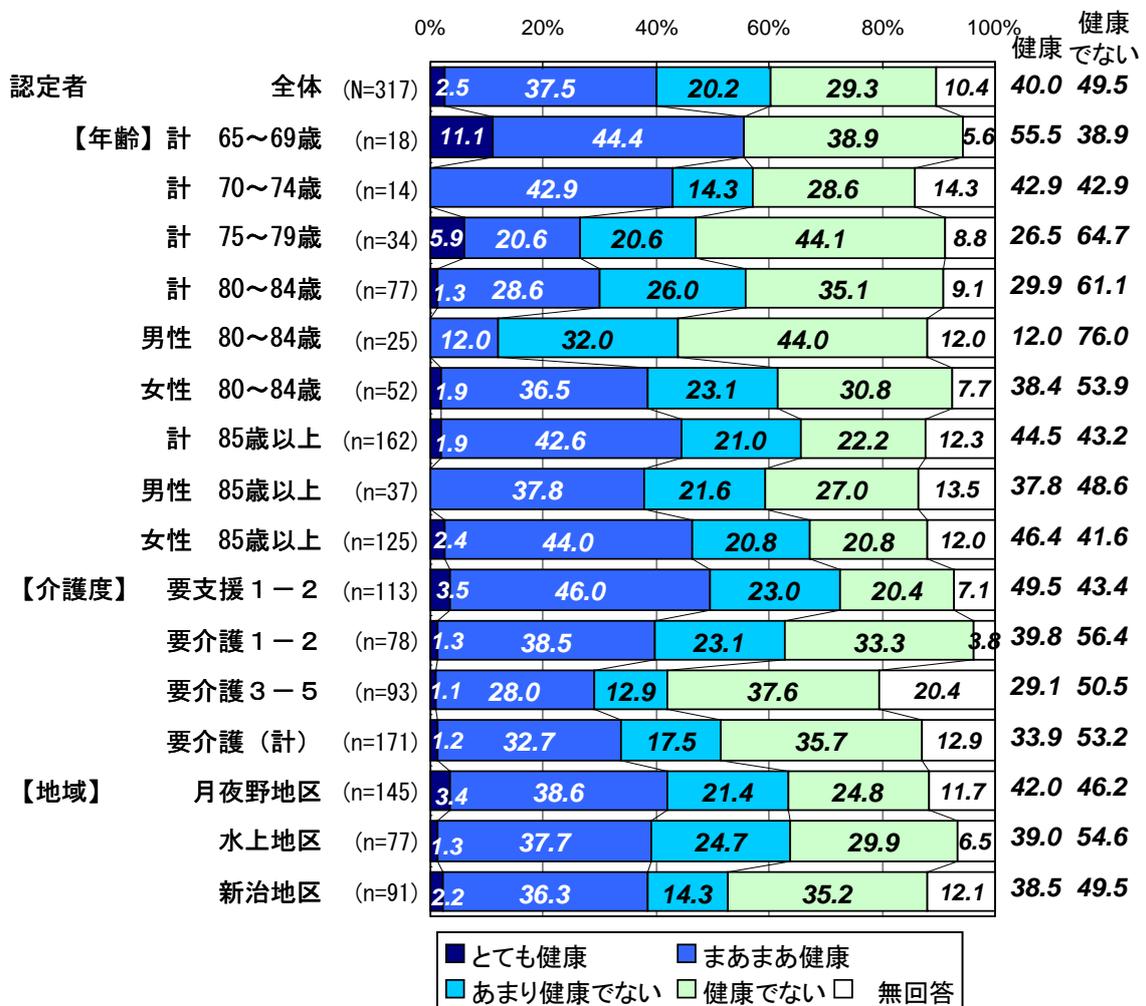
- 一般高齢者の全体では、「まあまあ健康」が 66.1%を占め、「とても健康」(13.0%) と合わせた《健康》は 79.1%となっている。
- 年齢別に見ると、《健康》は男性では 65～69 歳 (83.6%)、75～79 歳 (86.2%) で他の年齢層より高い。女性では、75 歳以上に比べて 74 歳以下で 80%超と高く、概ね低年齢層ほど《健康》の傾向になっている。
- 二次予防対象者では、《健康》は 67.5%。一般にあたる非認定者の 85.1%と比べると低い。
- 地域別では、水上地区で《健康》が 74.4%と、他の 2 地区 (80～81%台) に比べて低くなっている (水上地区の《健康でない》は 20.2%、他の 2 地区は 13～15%台)。

□健康感の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「まあまあ健康」が 37.5%、次いで「健康でない」が 29.3%。「まあまあ健康」と「とても健康」(2.5%)を合わせた《健康》は 40.0%で、《健康ではない》(「あまり健康でない」・「健康でない」)の 49.5%を下回る。
- 認定者の《健康》は、75～79歳の 26.5%、80～84歳の 29.9%に比べて、85歳以上では 44.5%と、むしろ高くなる。また、85歳以上で見ると、男性より女性の方が、《健康》との意識を持っている傾向。
- 介護度別の《健康》は、介護度が高くなるほど低下する傾向で、要支援の 49.5%に対して、要介護 1-2 で 39.8%、要介護 3-5 で 29.1%。
- 地域別では、月夜野地区で《健康》が 42.0%と、他の 2 地区 (38～39%台) に比べて高くなっている。

□健康感の回答結果 [認定者]



- 関連設問を見ると、「経済的にゆとりがある」は一般にあたる非認定者よりも二次予防者のほうが低く、また、介護度が高くなるほど低くなっている。
「健康についての記事や番組への関心」は、要支援に比べ、要介護では大きく低下する。
「薬の飲み忘れ」は要介護 1-2 で特に目立つ。

□関連設問回答結果

(単位:%)

設問 (該当する回答)	一般高齢者		認定者		
	非認定 (n=546)	二次予防 (n=209)	要支援 (n=113)	要介護 1-2 (n=78)	要介護 3-5 (n=93)
問 1-Q4 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (「ややゆとりがある」・「ゆとりがある」)	32.0		30.3		
	34.2	28.7	36.3	28.2	22.6
問 7-Q4 健康についての記事や番組に関心がありますか (はい)	88.3		48.3		
	90.8	86.6	71.7	33.3	24.7
問 8-Q3 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますが (3種類以下、「飲んでいない」含む)	64.8		31.2		
	71.5	50.7	28.3	35.9	34.4
問 8-Q4 現在、病院・医院 (診療所、クリニック) に通院していますか (いいえ)	13.0		9.1		
	15.8	5.7	5.3	11.5	14.0
問 8-Q7-1 (ここ 2 週間) 毎日の生活に充実感がない (いいえ)	70.9		41.3		
	77.5	59.8	47.8	43.6	31.2
問 8-Q7-2 (ここ 2 週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった (いいえ)	76.5		29.0		
	84.1	62.2	39.8	25.6	16.1
問 8-Q7-3 (ここ 2 週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる (いいえ)	50.7		11.4		
	62.1	25.4	17.7	12.8	2.2
問 8-Q7-4 (ここ 2 週間) 自分が役に立つ人間だと思えない (いいえ)	69.9		35.3		
	77.3	58.9	41.6	37.2	22.6
問 8-Q7-5 (ここ 2 週間) わけもなく疲れたような感じがする (いいえ)	65.4		27.4		
	74.9	45.5	36.3	28.2	19.4

設問 (該当する回答)	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=395)	二次予防 (n=186)	要支援 (n=94)	要介護 1-2 (n=71)	要介護 3-5 (n=70)
問 8-Q3-1 (薬を飲んでいる人のみ) 薬を飲み忘れることはありますか	はい	19.0	25.3	22.3	45.1	25.7
	いいえ	77.5	67.7	71.3	50.7	67.1

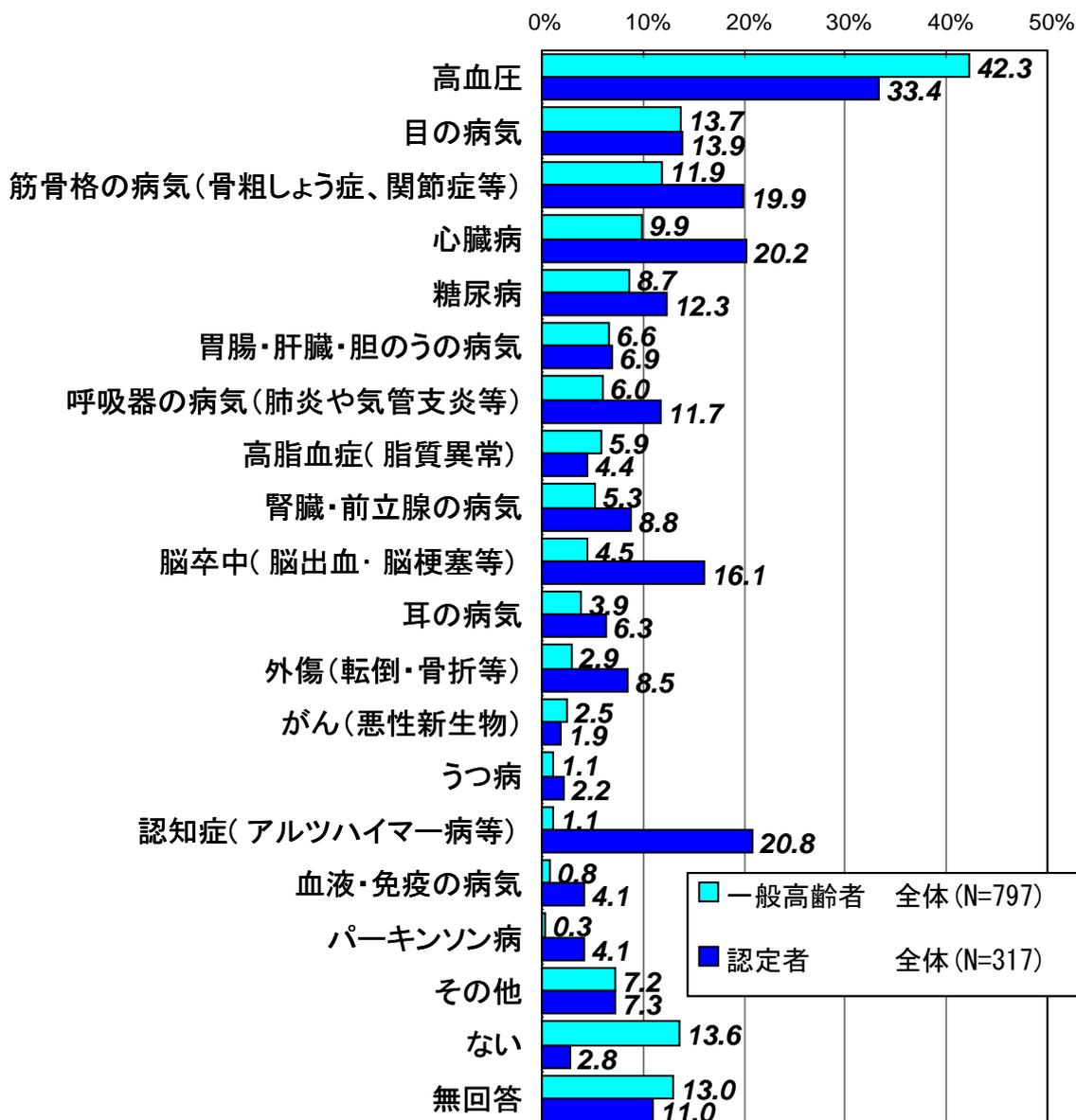
設問 (該当する回答)	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=391)	二次予防 (n=183)	要支援 (n=96)	要介護 1-2 (n=67)	要介護 3-5 (n=56)
問 8-Q4-1 (通院している人のみ) その頻度は次のどれですか	週 1 回以上	3.6	4.9	8.3	9.0	5.4
	月 2~3 回	7.7	15.3	20.8	13.4	10.7
	月 1 回程度	52.9	57.9	50.0	55.2	51.8
	2 ヶ月に 1 回程度	18.2	10.4	11.5	9.0	12.5
	3 ヶ月に 1 回程度	9.2	6.0	1.0	4.5	5.4

設問 (該当する回答)	選択肢	一般高齢者		認定者		
		非認定 (n=391)	二次予防 (n=183)	要支援 (n=96)	要介護 1-2 (n=67)	要介護 3-5 (n=56)
問 8-Q4-2 (通院している人のみ) 通院に介助が必要ですか	はい	3.1	18.0	57.3	86.6	83.9
	いいえ	82.9	74.3	34.4	9.0	3.6

(2) 疾病（治療中・後遺症のある病気）

- 一般高齢者の全体で最も多い疾病は「高血圧」で42.3%。以下、「目の病気」（13.7%）、「筋骨格の病気」（11.9%）、「心臓病」（9.9%）、「糖尿病」（8.7%）と続く。
- 認定者の全体でもトップは一般高齢者と同様に「高血圧」で33.4%。次いで、「認知症」（20.8%）、「心臓病」（20.2%）、「筋骨格の病気」（19.9%）、「脳卒中」（16.1%）と続く。

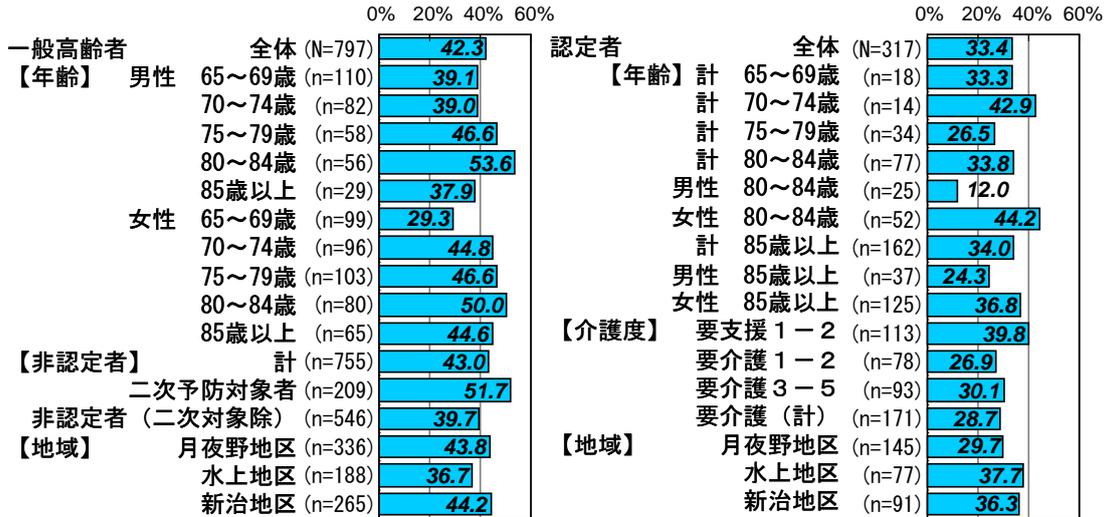
□現在、治療中・後遺症のある病気の回答結果（複数回答） [一般高齢者／認定者]



1) 高血圧

- 一般高齢者では、80～84歳をピークに男女とも有病率が高くなる傾向。二次予防対象者の有病率は51.7%。地区別では水上地区で他の2地区に比べて低め。
- 認定者では女性の80～84歳で44.2%と高い。また、要支援で39.8%と他の介護度より高い。地区別では月夜野地区で他の2地区に比べて低め。

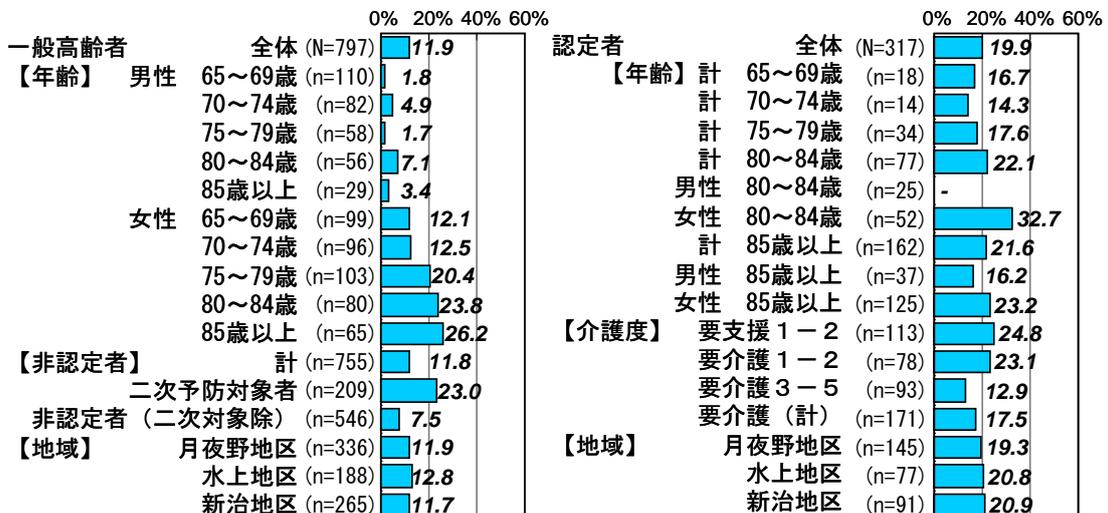
□「高血圧」の有病率（複数回答） [一般高齢者／認定者]



2) 筋骨格の病気

- 一般高齢者では、男性よりも女性の方が明らかに有病率は高く、女性においては高年齢層ほど高くなる。二次予防対象者の有病率は23.0%。
- 認定者では女性の80～84歳で32.7%と高い。また、要介護3-5よりも、要支援、要介護1-2のほうが高い。地区別での差は見られない。

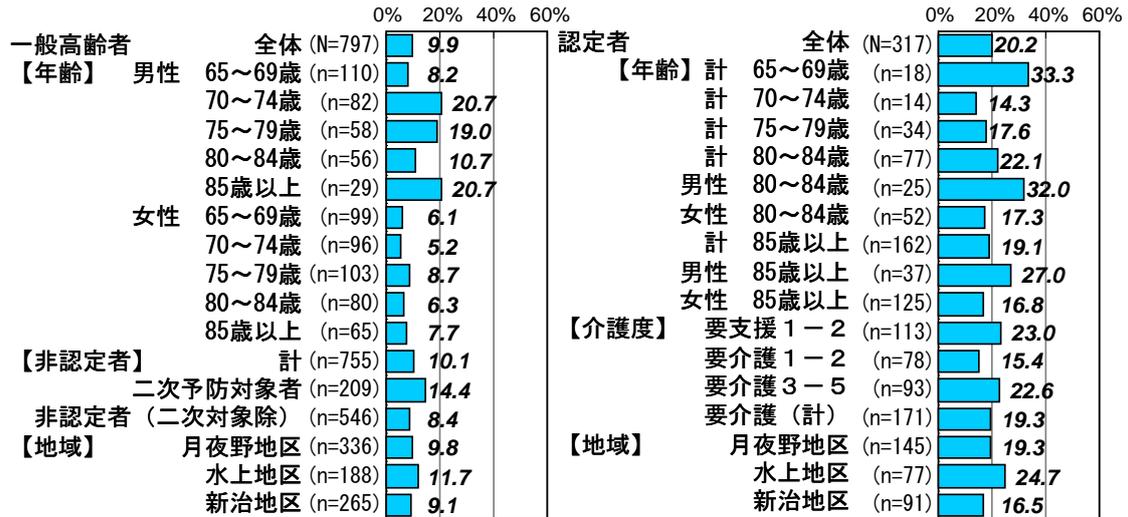
□「筋骨格の病気」の有病率（複数回答） [一般高齢者／認定者]



3) 心臓病

- 一般高齢者では、女性よりも男性の方が有病率は高い傾向。二次予防対象者の有病率は14.4%。地区別では水上地区で、他の2地区に比べてやや高い。
- 認定者では男性の85歳以上で27.0%と高い（回答者数（n）が少ない層を除く）。また、地区別では水上地区で、他の2地区に比べて高い。

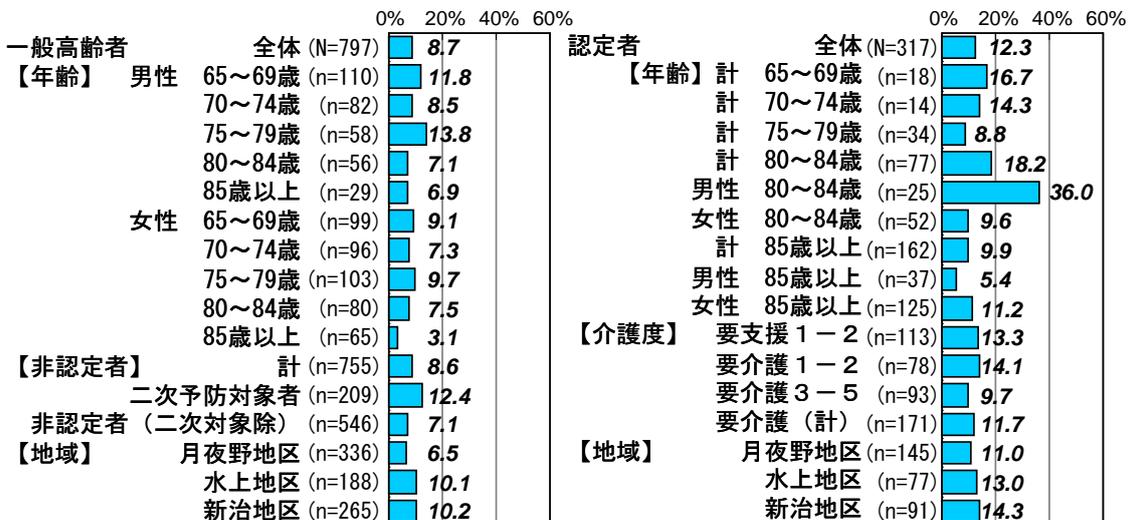
□ 「心臓病」の有病率（複数回答） [一般高齢者／認定者]



4) 糖尿病

- 一般高齢者では、男性の75~79歳と65~69歳で有病率が高め。二次予防対象者の有病率は12.4%。地区別では月夜野地区で、他の2地区に比べて低い。
- 認定者では回答者数（n）が少ないため参考であるが、男性の80~84歳で36.0%と高い。

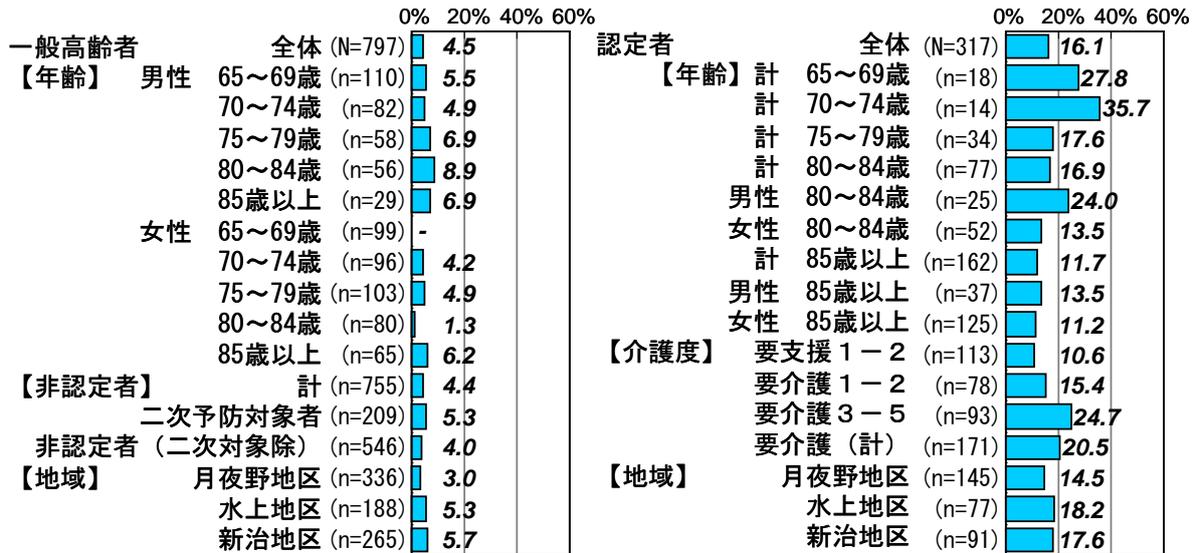
□ 「糖尿病」の有病率（複数回答） [一般高齢者／認定者]



5) 脳卒中

- 認定者では、回答者数 (n) が少ないため参考であるが、高齢層よりも 65~74 歳の層で有病率が高い。また、介護度が高いほど有病率は高くなる。地区別では、月夜野地区で他の 2 地区よりも低め。

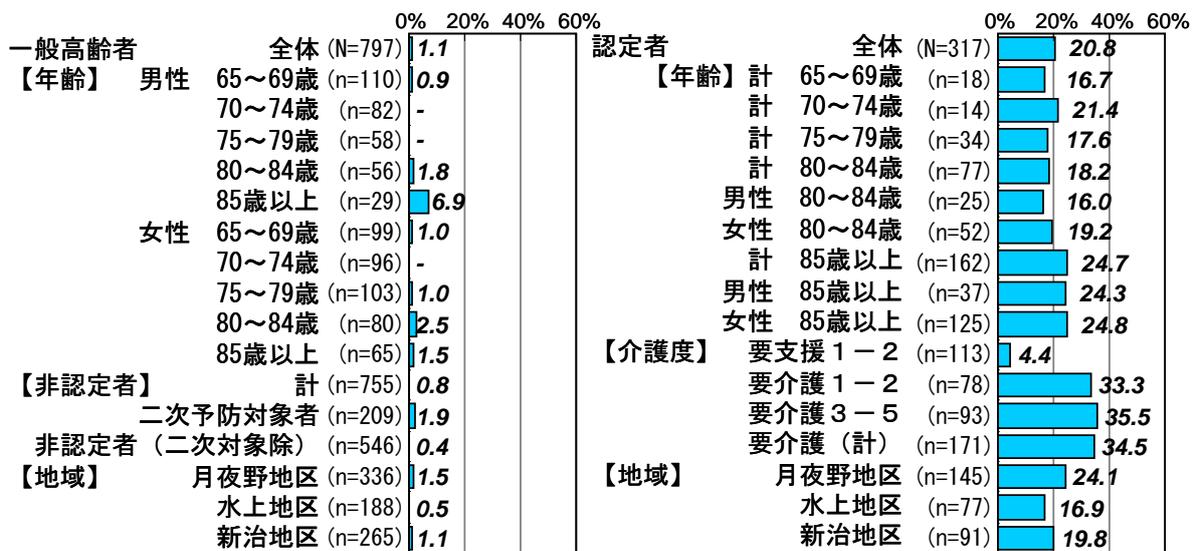
□ 「脳卒中」の有病率（複数回答） [一般高齢者／認定者]



6) 認知症

- 認定者では、85 歳以上で 24.7%と有病率が比較的高い。また、要支援の有病率は 4.4%だが、要介護では 34.5%と高い。地区別では、月夜野地区で他の 2 地区よりも高くなる。

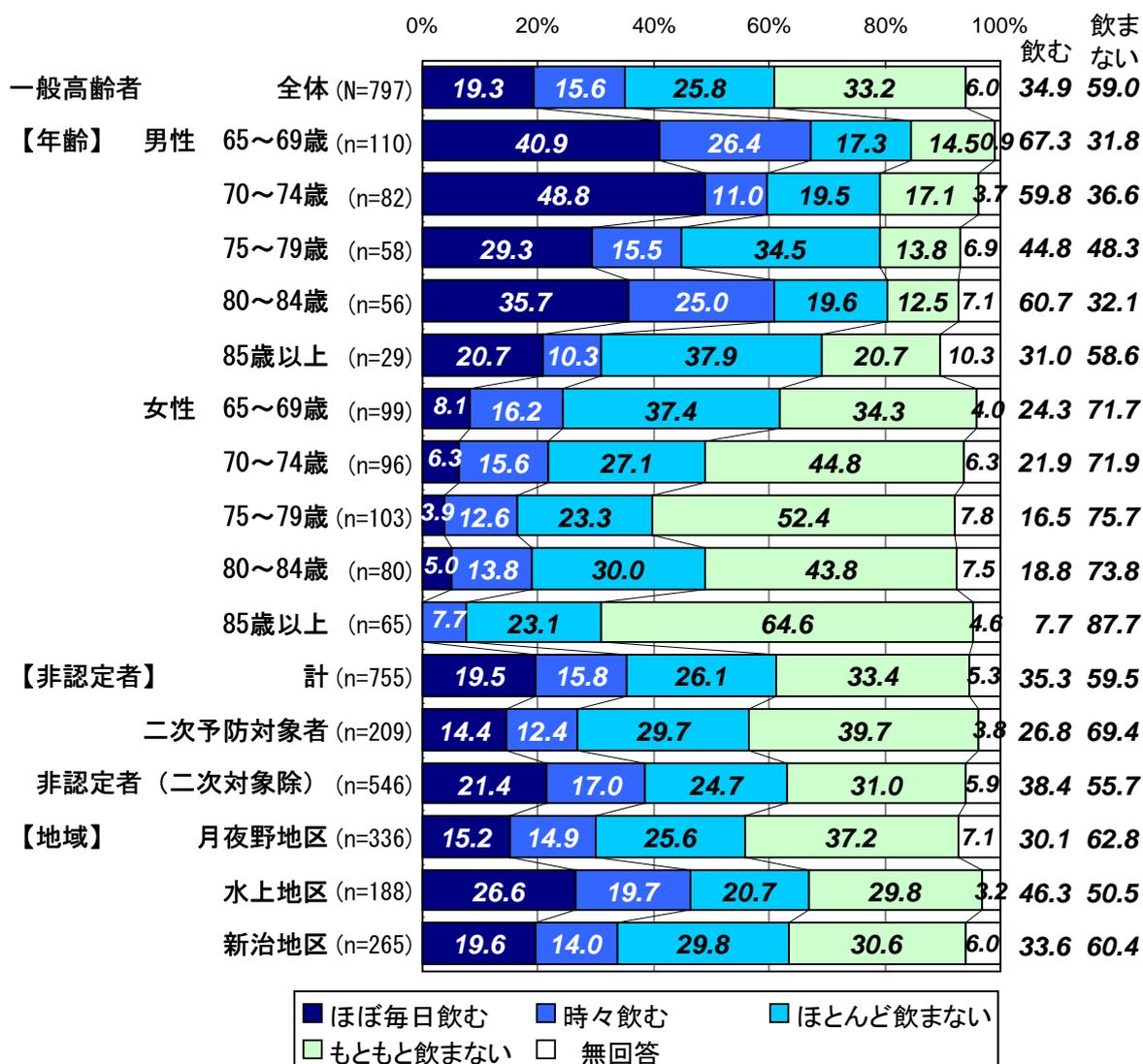
□ 「認知症」の有病率（複数回答） [一般高齢者／認定者]



(3) 飲酒

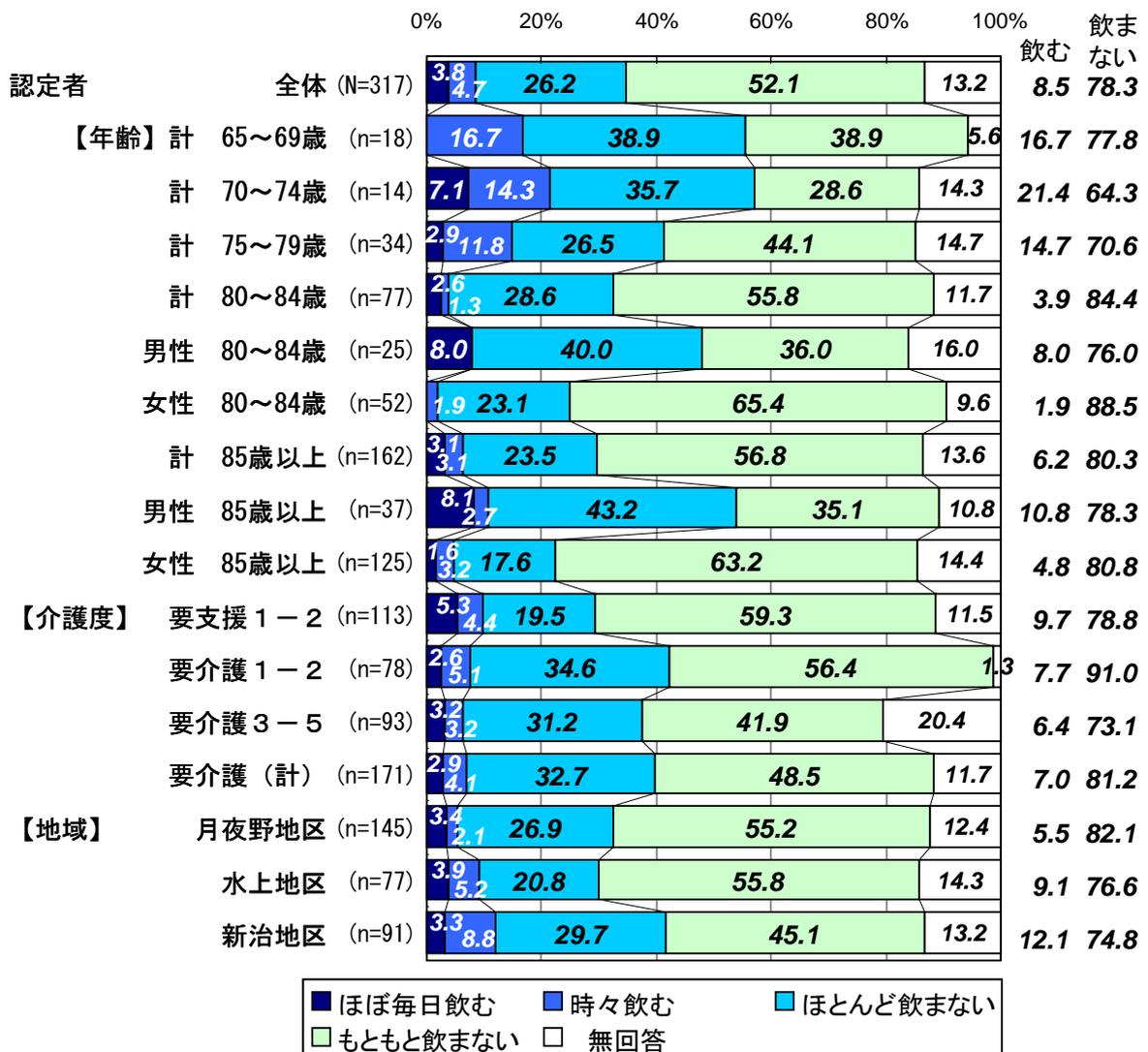
- 一般高齢者の全体では、「もともと飲まない」が33.2%と最も多く、「ほとんど飲まない」が25.8%、「ほぼ毎日飲む」が19.3%、「時々飲む」が15.6%と続く。《飲む》は合わせて34.9%、《飲まない》は合わせて59.0%。
- 年齢別で見ると、《飲む》は男性では65～69歳の67.3%を筆頭に、70～74歳、80～84歳で60%前後と高い。女性では、低年齢層ほど《飲む》傾向であるが、最も高い65～69歳でも24.3%。
- 二次予防対象者では、《飲む》は26.8%。一般にあたる非認定者（38.4%）よりも低い。
- 地域別では、水上地区で《飲む》が46.3%と、他の2地区（30～33%台）に比べてかなり高くなっている。

□飲酒の有無の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「もともと飲まない」が52.1%を占め、「ほとんど飲まない」も26.2%で、「飲む」は合わせても8.5%にとどまる（「ほぼ毎日飲む」が3.8%、「時々飲む」が4.7%）。
- 認定者の《飲む》は、75～79歳で14.7%と、80～84歳の3.9%、85歳以上の6.2%に比べて高くなる。
- 介護度別の《飲む》は、介護度が高くなるほど低下する傾向で、要支援の9.7%に対して、要介護1-2で7.7%、要介護3-5で6.4%。
- 地域別では《飲む》は、新治地区の12.1%が最も高く、次いで、水上地区（9.1%）、月夜野地区（5.5%）の順。

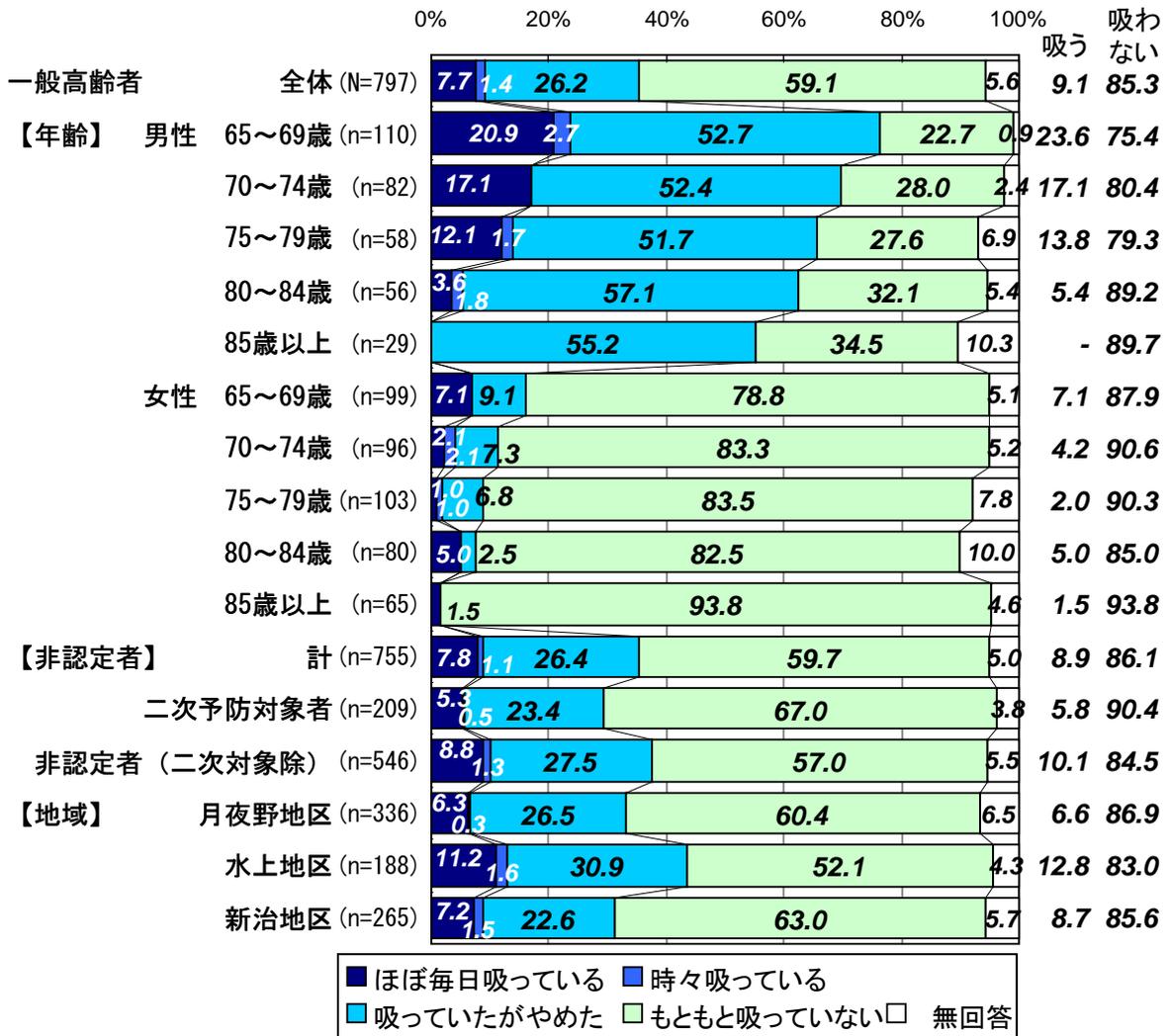
□飲酒の有無の回答結果 [認定者]



(4) 喫煙

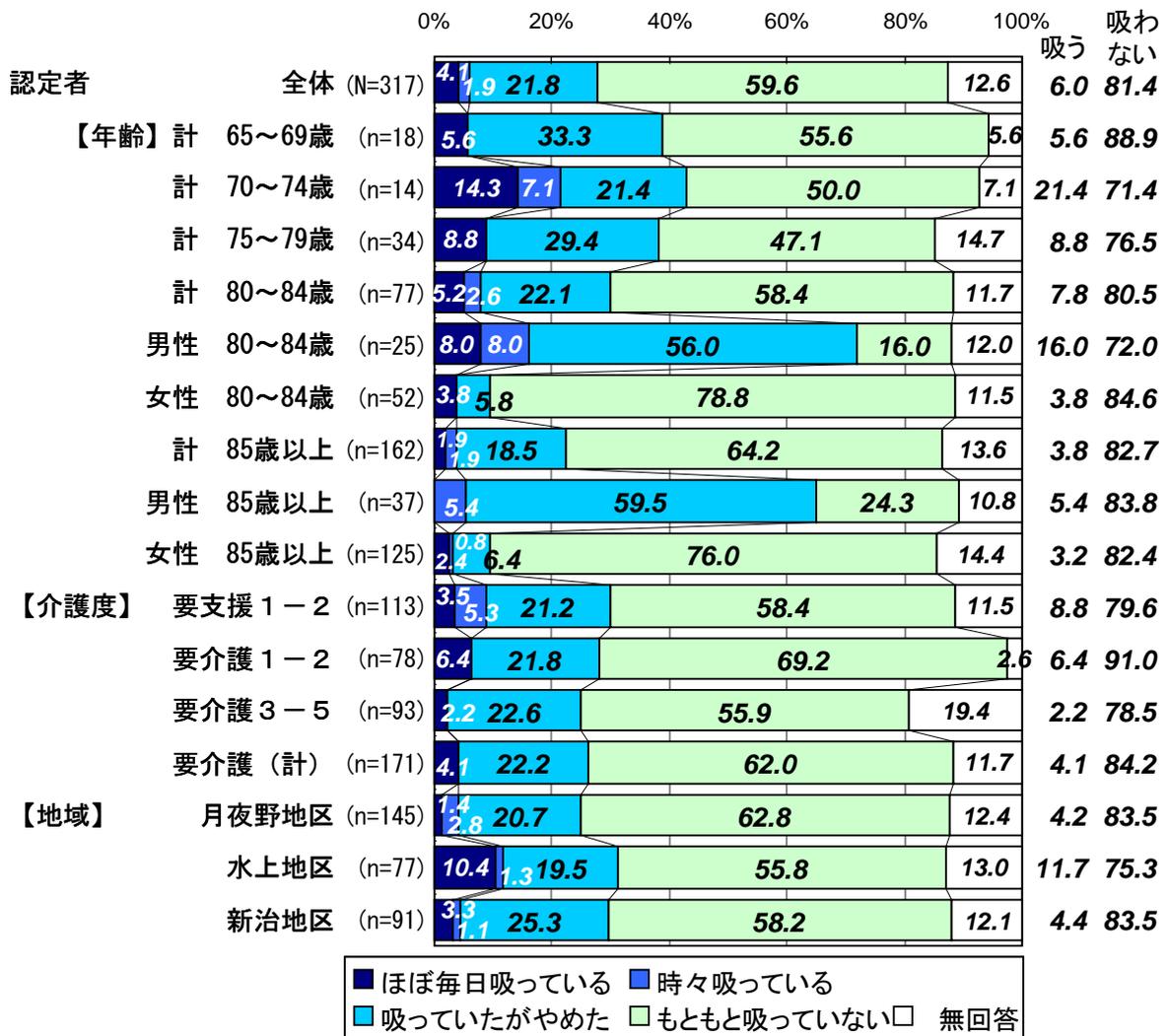
- 一般高齢者の全体では、「もともと吸っていない」が 59.1%を占め、「吸っていたがやめた」が 26.2%、「ほぼ毎日吸っている」が 7.7%、「時々吸っている」が 1.4%と続く。《吸う》は合わせて 9.1%。
- 年齢別で《吸う》を見ると、男性では 65～69 歳で 23.6%と最も高く、高齢層になるほど低下する（85 歳以上は、今回調査で該当者 0）。女性は男性よりも《吸う》の率が低い傾向で、最も高い 65～69 歳でも 7.1%。
- 二次予防対象者では、《吸う》は 5.8%。一般にあたる非認定者（10.1%）よりも低い。
- 地域別では、水上地区で《吸う》が 12.8%と、他の 2 地区（6～8%台）に比べて高くなっている。

□喫煙の有無の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「もともと吸っていない」が 59.6%を占め、「吸っていたがやめた」も 21.8%で、《吸う》は合わせても 6.0%にとどまる（「ほぼ毎日吸っている」が 4.1%、「時々吸っている」が 1.9%）。
- 認定者の《吸う》は、75～79歳の 8.8%、80～84歳の 7.8%に対して、85歳以上ではさらに低く 3.8%。
- 介護度別の《吸う》は、介護度が高くなるほど低下する傾向で、要支援の 8.8%に対して、要介護 1-2 で 6.4%、要介護 3-5 で 2.2%。
- 地域別では《吸う》は、水上地区の 11.7%が最も高く、他の 2 地区（4%台）を上回っている。

□喫煙の有無の回答結果 [認定者]

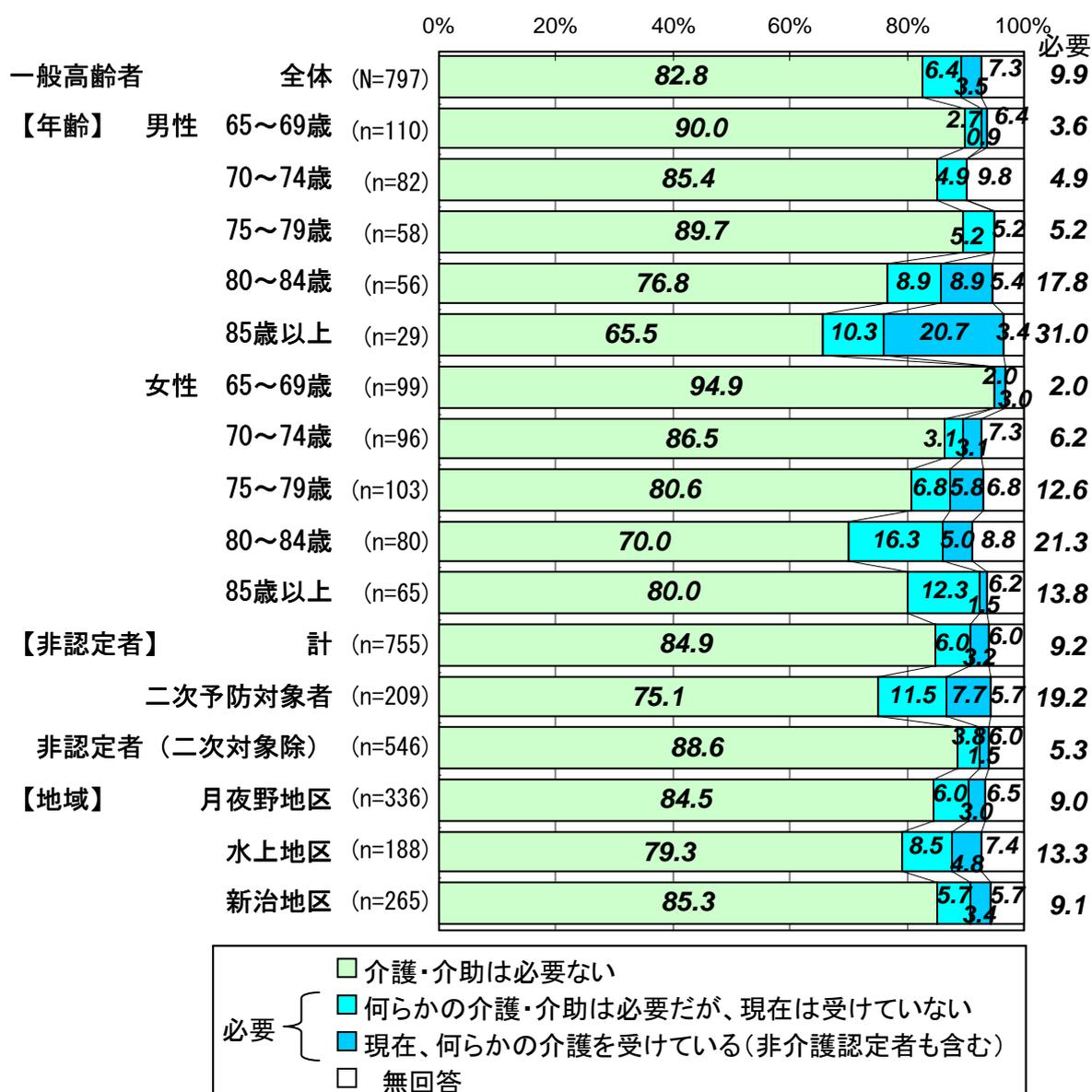


3. 介護・介助

(1) 介護・介助の必要度

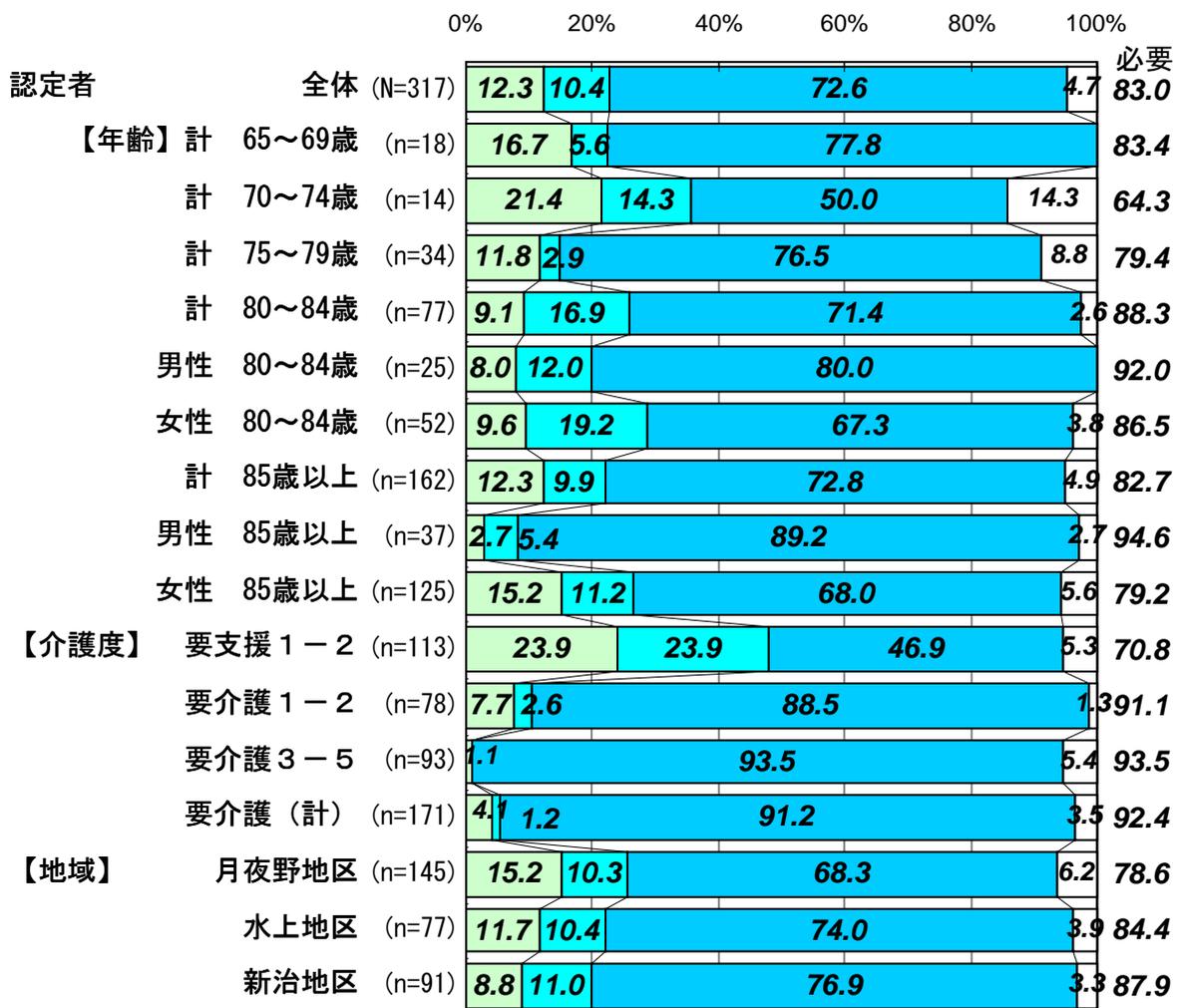
- 一般高齢者の全体では、「必要ない」が 82.8%を占める。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(6.4%)、「現在、何らかの介護を受けている(非介護認定者も含む)」(3.5%)を合わせた《必要》は 9.9%。
- 年齢別に見ると、《必要》は男性では高年齢層になるほど高くなる傾向で、85歳以上で 31.0%。女性も概ね同傾向だが、最も高いのは 80~84歳の 21.3%。
- 二次予防対象者では、《必要》は 19.2%。一般にあたる非認定者の 5.3%を上回る。
- 地域別では、水上地区で《必要》が 13.3%と、他の 2 地区 (9%台) に比べて高い。

□介護・介助の必要度の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、現在、何らかの介護を受けている（非介護認定者も含む）が 72.6% を占め、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の 10.4%を合わせた《必要》は 83.0%。「必要ない」は 12.3%。
- 「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、女性の 80～84 歳（19.2%）、要支援（23.9%）でより目立つ。
- 地域別では、《必要》の率は、新治、水上、月夜野地区の順に高くなっている。

□介護・介助の必要度の回答結果 [認定者]



必要 {

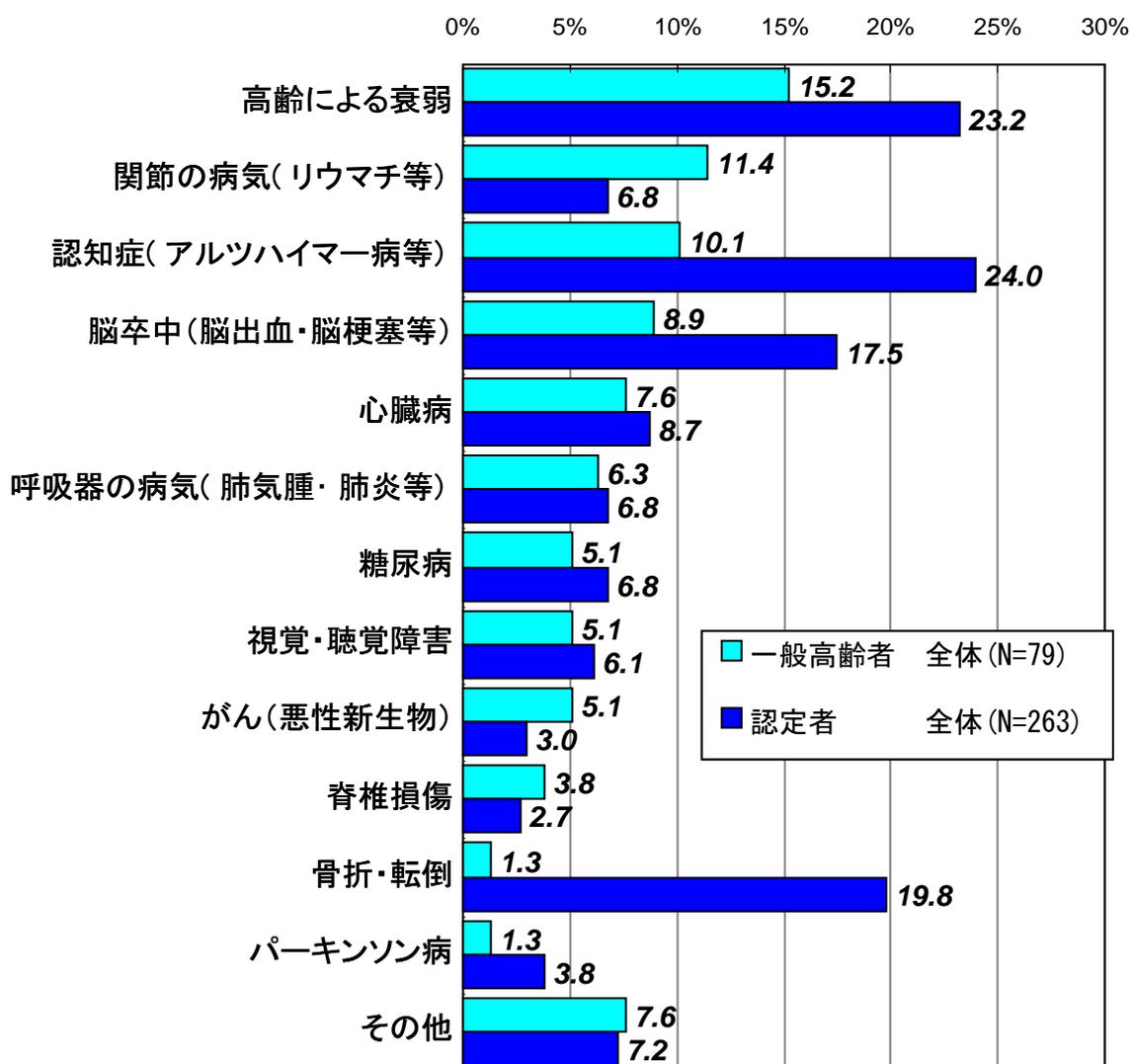
- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている(非介護認定者も含む)
- 無回答

(2) 介護・介助が必要になった理由

- 介護・介助が必要になった人の理由として、一般高齢者の全体では「高齢による衰弱」(15.2%)、「関節の病気」(11.4%)、「認知症」(10.1%)が上位。
- 認定者の全体で見ると、「認知症」(24.0%)と「高齢による衰弱」(23.2%)が理由のトップにほぼ並ぶ。次いで「骨折・転倒」(19.8%)、「脳卒中」(17.5%)を加えた4つが介護・介助が必要になった大きな理由といえる。

□介護・介助が必要になった理由の回答結果（複数回答、N=「必要になった人」）

[一般高齢者／認定者]



- 認定者の4大理由を介護度別に見ると、「認知症」は介護度が高いほど、また、「高齢による衰弱」は要介護1-2、「骨折・転倒」「脳卒中」は要介護3-5で、それぞれ高い傾向。
- 地域別では、「認知症」が月夜野地区で他の地区に比べて高い。また、「高齢による衰弱」「骨折・転倒」は水上地区で、他の地区よりも高い傾向である。

□介護・介助が必要になった理由の回答結果（複数回答、N＝「必要になった人」） [認定者]
 …上位項目のみ

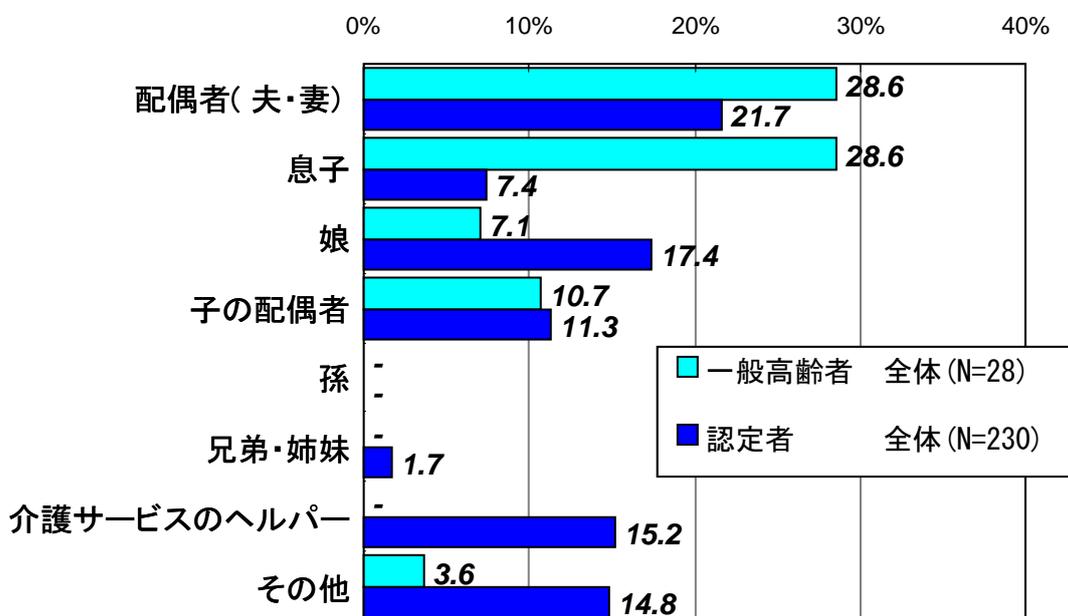
単位:%

	n	認知症(アルツハイマー病等)	高齢による衰弱	骨折・転倒	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
認定者 全体	263	24.0	23.2	19.8	17.5
【介護度】 要支援1-2	80	5.0	25.0	20.0	10.0
要介護1-2	71	32.4	40.8	15.5	16.9
要介護3-5	87	39.1	11.5	25.3	25.3
要介護(計)	158	36.1	24.7	20.9	21.5
【地域】 月夜野地区	114	28.1	23.7	17.5	14.0
水上地区	65	21.5	29.2	26.2	20.0
新治地区	80	21.3	18.8	17.5	20.0

(3) 主な介護者の属性

- 何らかの介護を受けている人の主な介護者は、(回答者数 (n) が少ないものの) 一般高齢者の場合、「配偶者」と「息子」が目立つ(該当者はそれぞれ8人)。
- 認定者の全体では、「配偶者」が21.7%と最も多く、次いで「娘」(17.4%)、「介護サービスのヘルパー」(15.2%)と続く。
- 認定者の介護者を属性別に見ると、要支援は「配偶者」「娘」の比率が高く、要介護は「介護サービスのヘルパー」の比率が相対的に高くなる。
また、地域別では月夜野地区で「配偶者」、水上地区で「介護サービスのヘルパー」の比率が高い。
- なお、「その他」の主な回答は、「入院中」「施設入所」など。

□主な介護者の属性の回答結果 (N=「何らかの介護を受けている人」) [一般高齢者／認定者]



□主な介護者の属性の回答結果 (N=「何らかの介護を受けている人」) [認定者]

…上位項目のみ

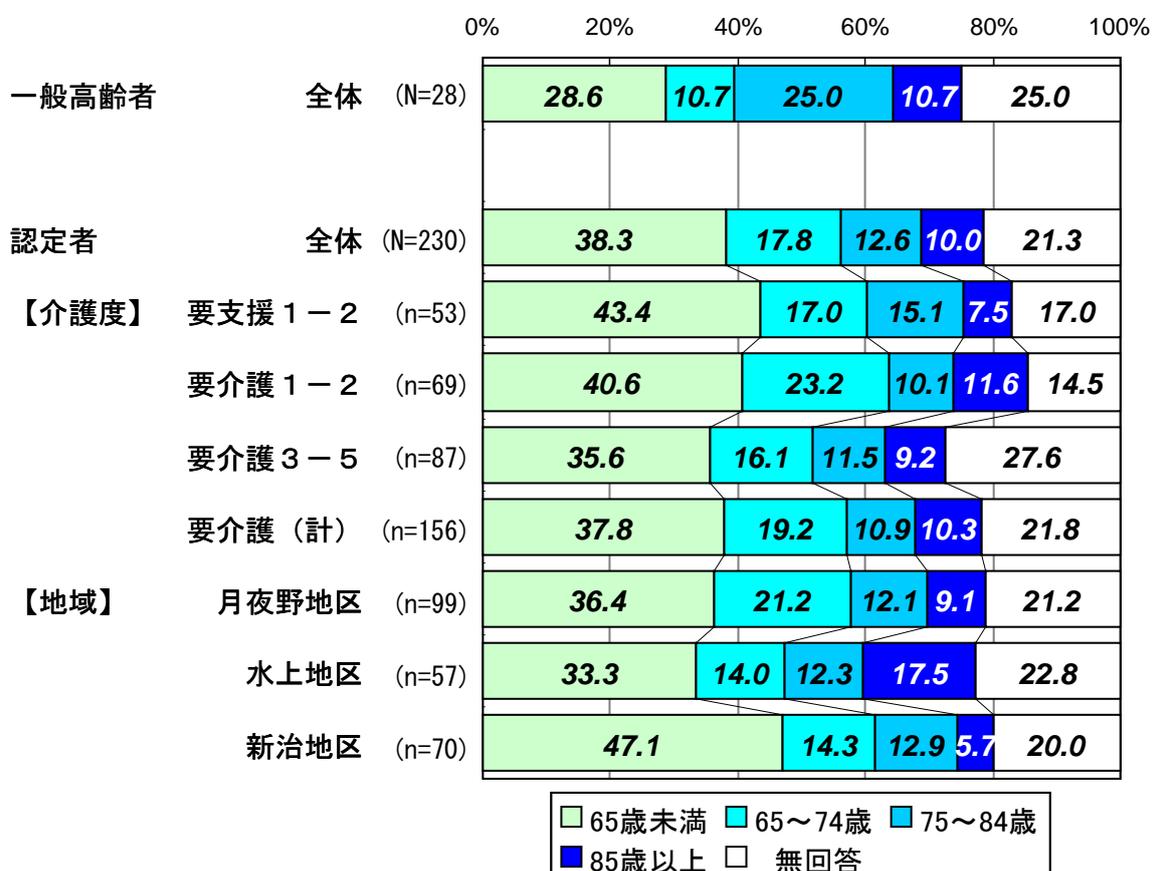
単位:%

	n	配偶者(夫・妻)	娘	介護サービスのヘルパー	子の配偶者	その他
認定者 全体	230	21.7	17.4	15.2	11.3	14.8
【介護度】 要支援 1-2	53	26.4	24.5	11.3	11.3	7.5
要介護 1-2	69	17.4	18.8	17.4	18.8	7.2
要介護 3-5	87	19.5	12.6	17.2	6.9	26.4
要介護 (計)	156	18.6	15.4	17.3	12.2	17.9
【地域】 月夜野地区	99	26.3	17.2	13.1	12.1	15.2
水上地区	57	19.3	19.3	24.6	5.3	12.3
新治地区	70	17.1	17.1	11.4	15.7	15.7

(4) 主な介護者の年齢

- 何らかの介護を受けている人の主な介護者の年齢は、(回答者数 (n) が少ないものの) 一般高齢者の場合、「65 歳未満」と「75～84 歳」が目立つ (該当者はそれぞれ 8 人、7 人)。
- 認定者の全体では、「65 歳未満」が 38.3%と最も多く、次いで「65～74 歳」(17.8%)。約 4 割が“老老介護”で「85 歳以上」は 10.0%となる。
- 認定者の介護者の年齢を属性別に見ると、「65 歳未満」は介護度が低いほど高い。地域別では、新治地区で「65 歳未満」の比率が他の 2 地区よりも高い。一方、水上地区では「85 歳以上」が 17.5%と目立って高くなっている。

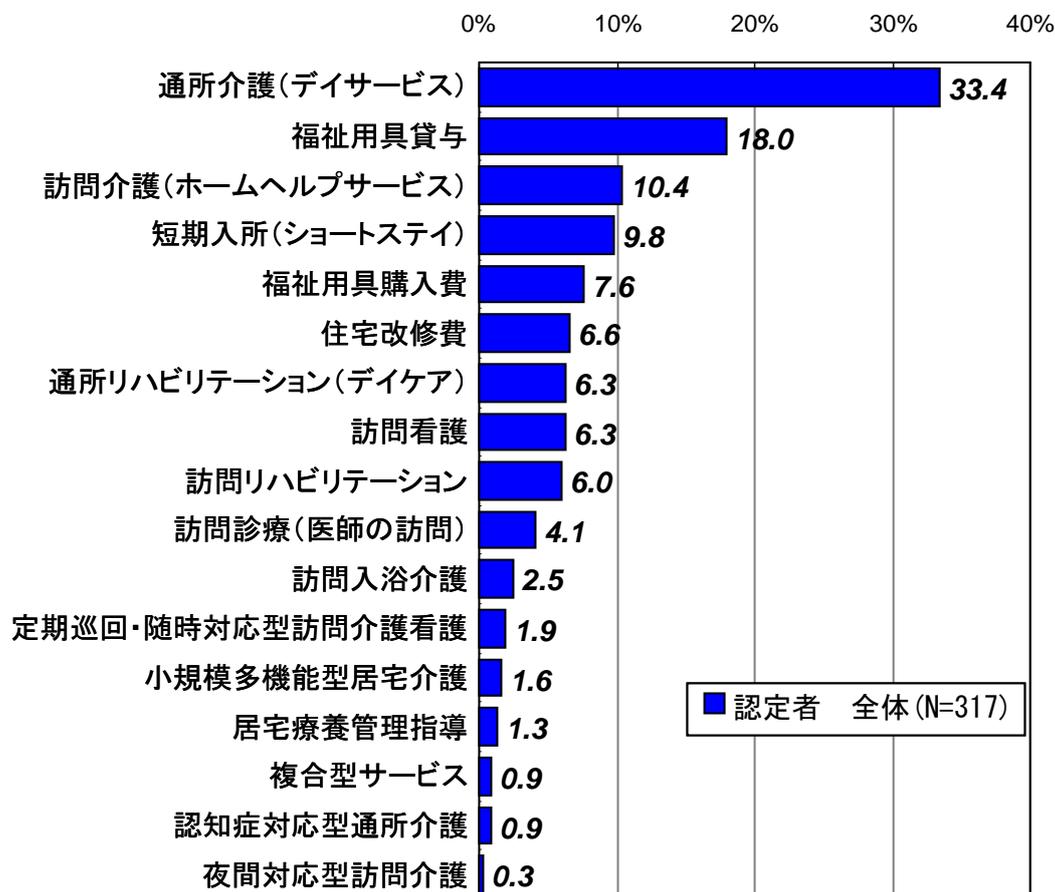
□主な介護者の年齢の回答結果 (N=「何らかの介護を受けている人」) [一般高齢者／認定者]



(5) 在宅サービスの利用状況

- 認定者の全体では、「通所介護」が 33.4%で最も多い。次いで、「福祉用具貸与」(18.0%)、「訪問介護」(10.4%)、「短期入所」(9.8%) と続く。

□在宅サービスの利用状況の回答結果（複数回答） [認定者]



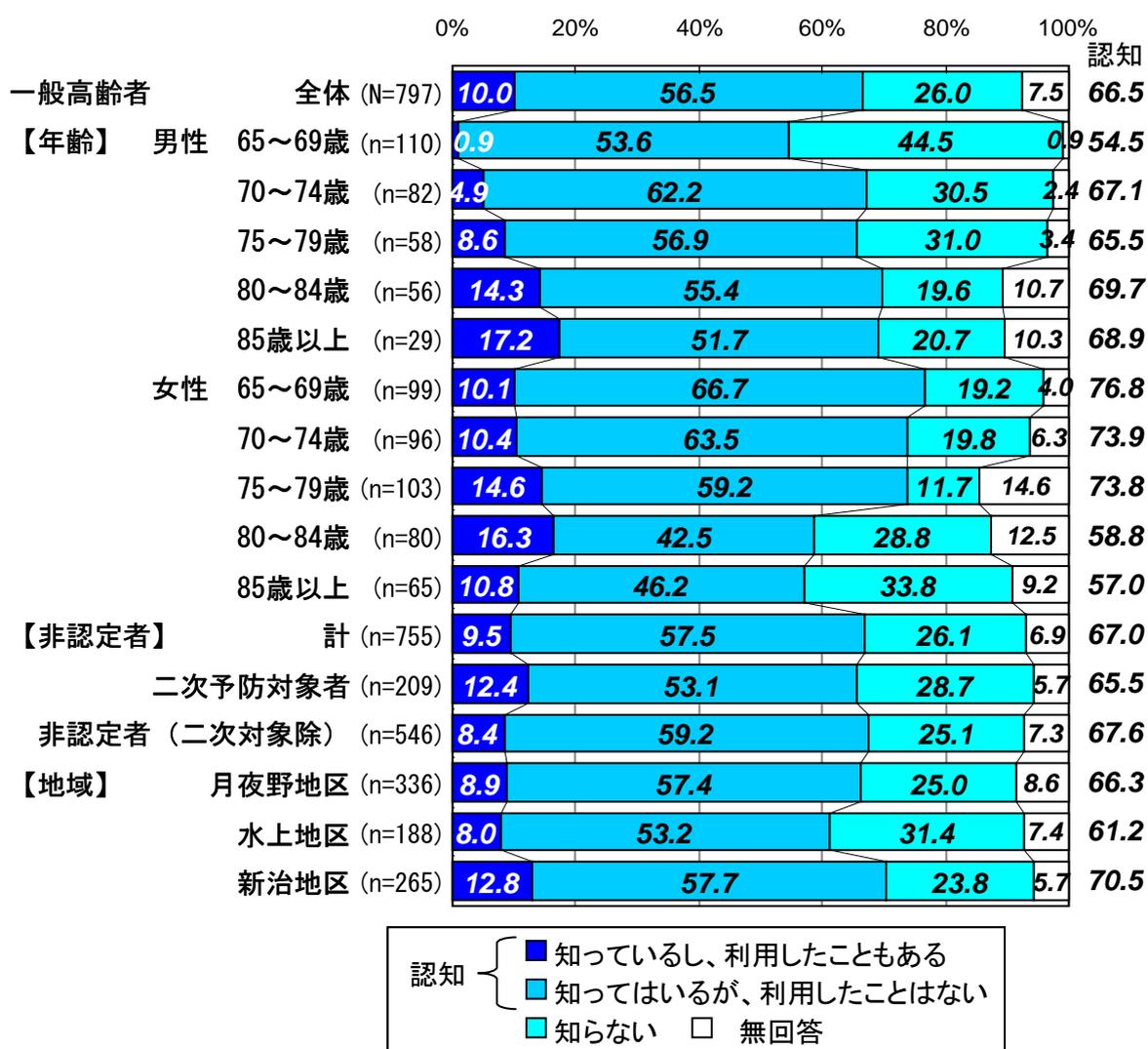
Ⅲ. 高齢者実態調査結果

1. 「地域包括支援センター」について

(1) 「地域包括支援センター」の認知・利用経験

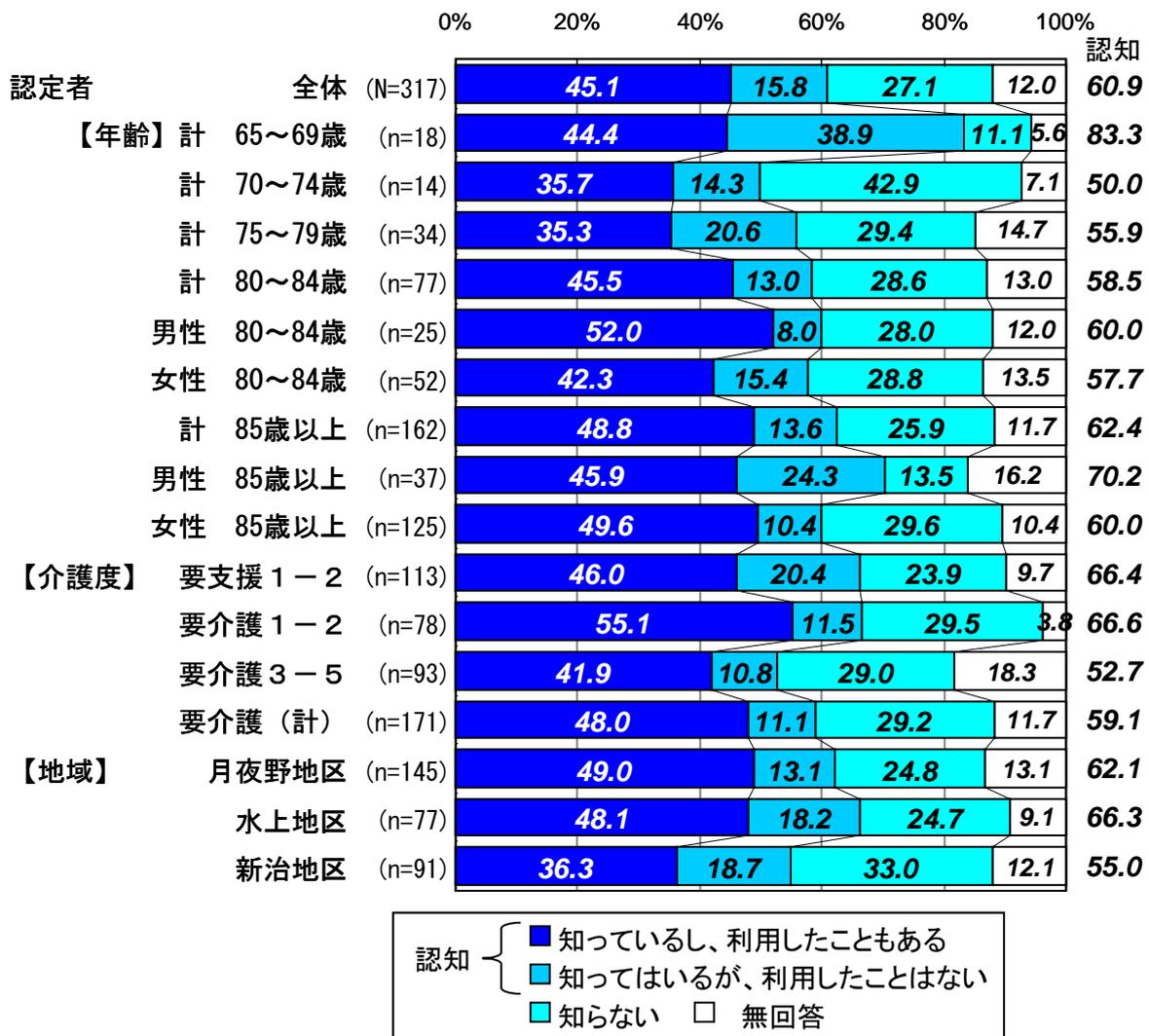
- 一般高齢者の全体では、地域包括支援センターを「利用したこともある」が10.0%、「知っているが、利用したことはない」が56.5%を占め、「知らない」は26.0%。《認知》率は66.5%となる。
- 年齢別に見ると、男女とも概ね高齢者ほど「利用したこともある」が高い傾向。《認知》率が他の年齢層に比べて低いのは、男性の65～69歳、女性の80歳以上。
- 二次予防対象者では、「利用したこともある」が12.4%。一般にあたる非認定者の8.4%を上回る。
- 地域別では、新治地区で「利用したこともある」、《認知》ともに他の2地区より高い。

□ 「地域包括支援センター」の認知・利用経験の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の全体では、「利用したこともある」が45.1%と最も多い。「知っているが、利用したことはない」は15.8%、「知らない」は27.1%。《認知》率は60.9%となる。
- 年齢別に見ると、75歳以上では「利用したこともある」、《認知》率ともに年齢層が高くなるほど高い傾向。
- 介護度別では、要介護1-2で「利用したこともある」が55.1%と最も高い。
- 地域別では、新治地区で「利用したこともある」、《認知》ともに他の2地区より低い。

□ 「地域包括支援センター」の認知・利用経験の回答結果 [認定者]

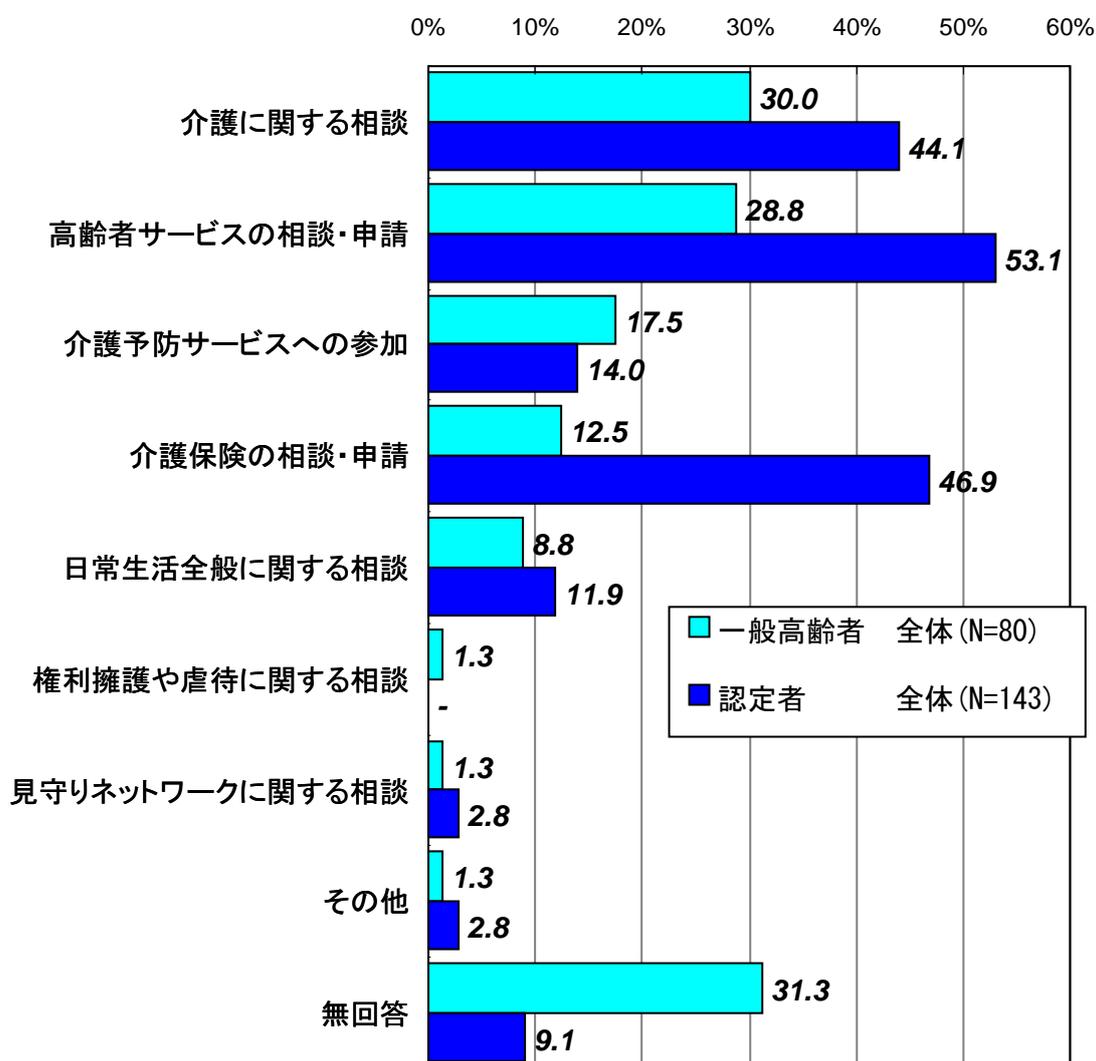


(2) 「地域包括支援センター」の利用目的

- 「地域包括支援センター」の利用目的として、一般高齢者の全体では「介護に関する相談」(30.0%)、「高齢者サービスの相談・申請」(28.8%)がトップ2、次いで「介護予防サービスへの参加」(17.5%)、「介護保険の相談・申請」(12.5%)が続く。
- 認定者の全体で見ると、トップは「高齢者サービスの相談・申請」の53.1%で半数を超える。次いで「介護保険の相談・申請」(46.9%)、「介護に関する相談」(44.1%)。

□ 「地域包括支援センター」の利用目的の回答結果（複数回答、N=「利用経験者」）

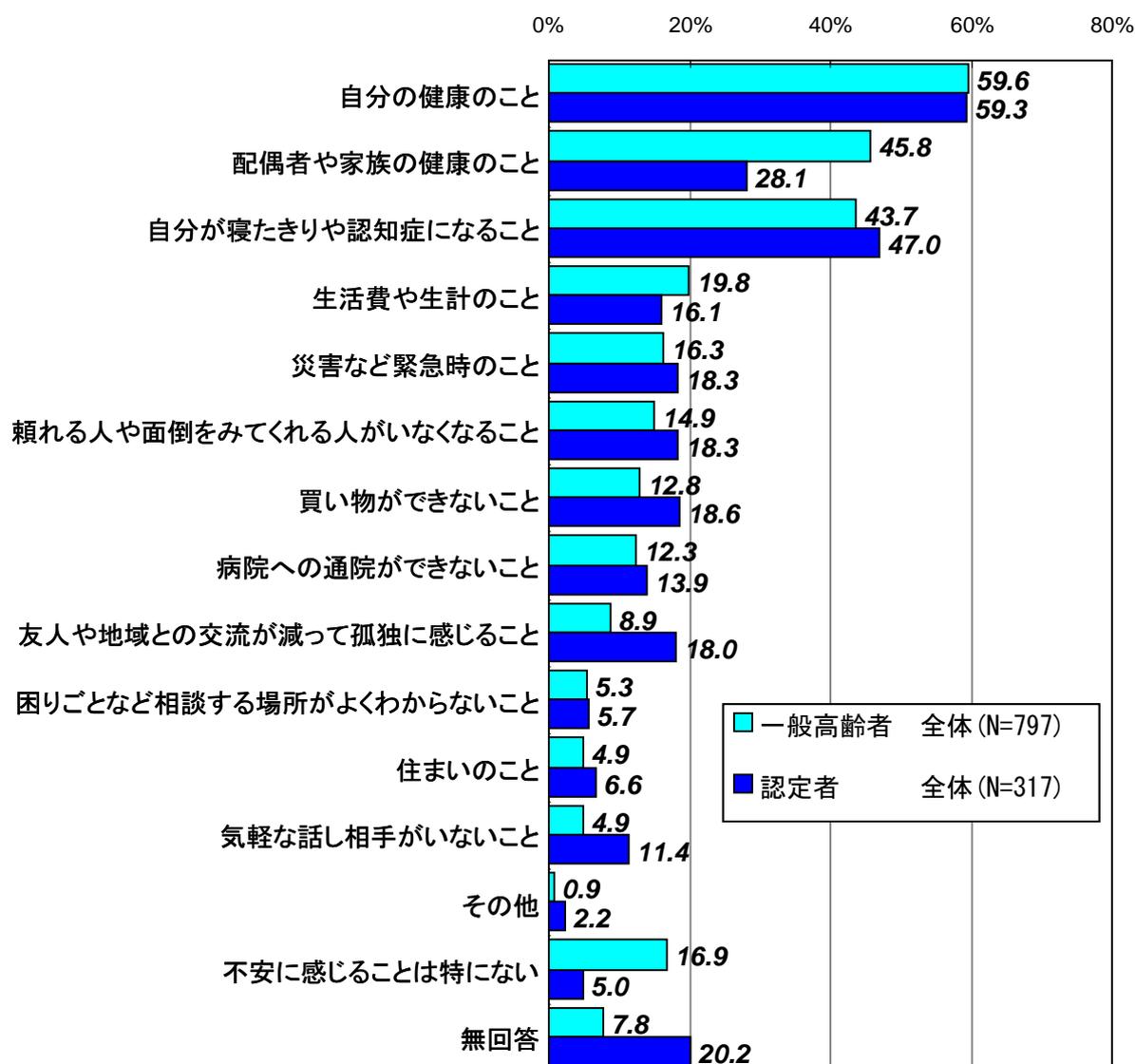
[一般高齢者／認定者]



2. 現在の生活で不安を感じていること

- 一般高齢者、認定者のいずれも全体で見た場合、不安のトップは「自分の健康」で約 6割。これに「配偶者や家族の健康」「自分が寝たきりや認知症になること」を加えたものが、3大不安となっている。
- 「自分の健康」「自分が寝たきりや認知症になること」についての不安の率は、一般高齢者、認定者で際立った差は見られない。
- 一般高齢者に比べて認定者のほうが目立つ不安としては、「友人や地域との交流が減って孤独に感じる事」や「気軽な話し相手がないこと」。

□現在の生活で不安を感じていることの結果（複数回答） [一般高齢者／認定者]

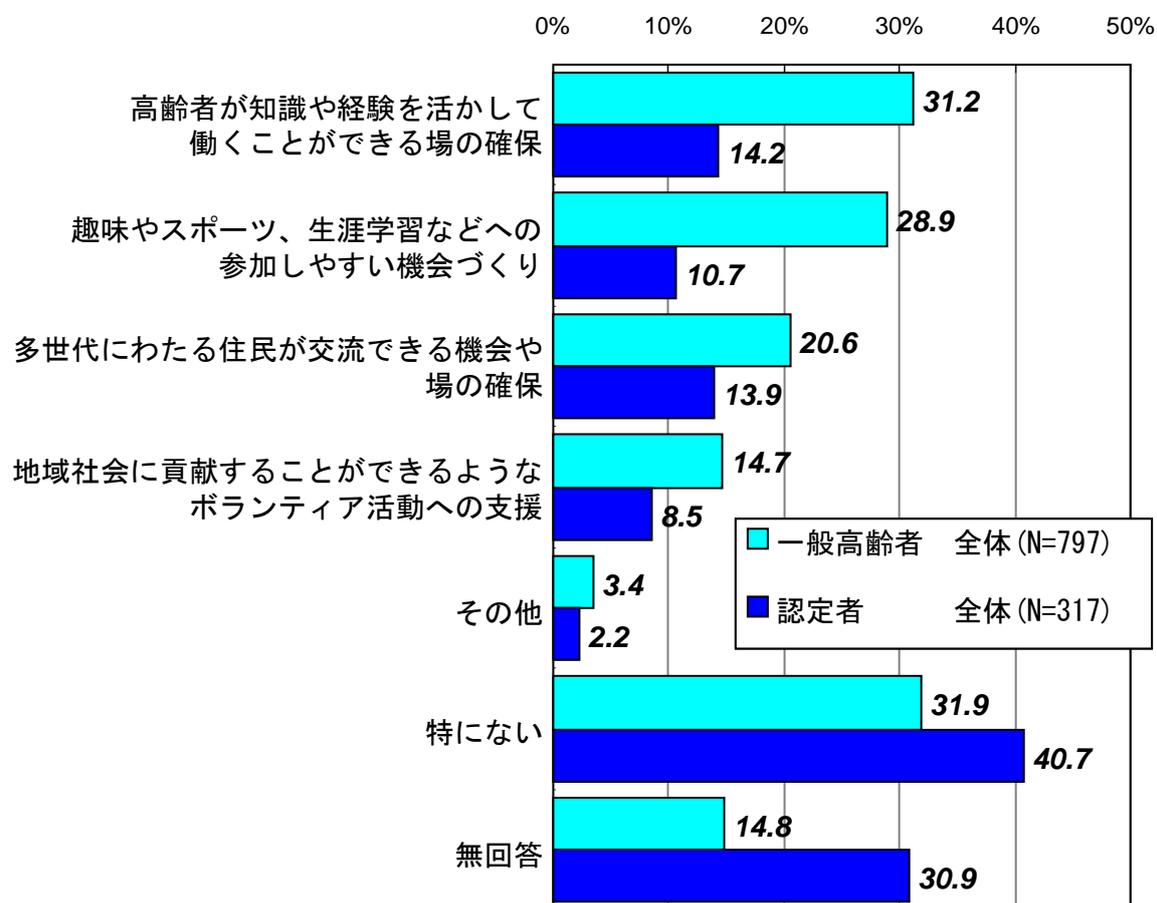


3. 地域で生きがいを持って暮らしていくための希望

- 地域で生きがいを持って暮らしていくために望むこととしては、一般高齢者の全体では「高齢者が知識や経験を活かして働くことができる場の確保」(31.2%)、次いで「趣味やスポーツ、生涯学習などへの参加しやすい機会づくり」(28.9%)がトップ2。「特にない」も31.9%を占める。
- 認定者の全体は、「特にない」が40.7%を占めている。具体的な回答では、「働くことができる場の確保」と「多世代にわたる住民が交流できる機会や場の確保」が比較的多いが、一般高齢者に比べると回答率が全般的に低い。

□地域で生きがいを持って暮らしていくための希望の回答結果（複数回答）

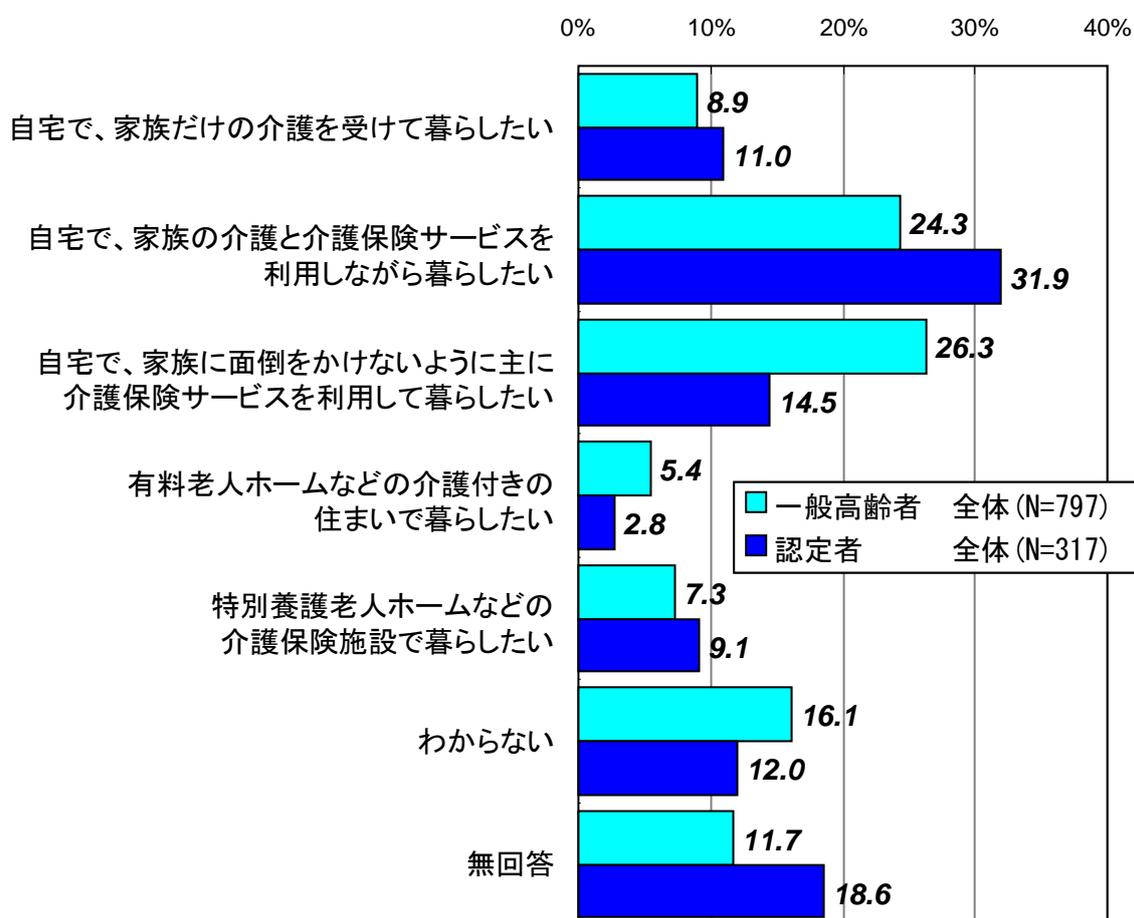
[一般高齢者／認定者]



4. 希望する介護のあり方（在宅／施設）

- 一般高齢者の全体では「自宅で、主に介護保険サービスを利用」（26.3%）、次いで「自宅で、家族の介護と介護保険サービスを利用」（24.3%）が多く、在宅志向は強い。施設の希望は「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」が7.3%、「有料老人ホームなどの介護付きの住まい」が5.4%で合わせても1割強にとどまる。
- 認定者の全体で見ると、最も多いのは「自宅で、家族の介護と介護保険サービスを利用」で31.9%を占める。施設の希望は合わせても約1割強（「介護保険施設」が9.1%、「介護付きの住まい」が2.8%）にとどまるが、一般高齢者に比べると、“家族の介護”の志向は強い傾向（「家族に面倒をかけないように主に介護保険サービスを利用して暮らしたい」は、一般高齢者よりも10ポイント以上低い）。

□希望する介護のあり方（在宅／施設）の回答結果 [一般高齢者／認定者]



- 一般高齢者の属性別に見ると、
「自宅で、家族だけの介護を受けて」は男性 75～79 歳、男性 80～84 歳、女性 85 歳以上で、「自宅で、家族の介護と介護保険サービスを利用」は男性 70～74 歳、男性 85 歳以上で、「自宅で、家族に面倒をかけないように主に介護保険サービスを利用」は女性 70～74 歳、女性 80～84 歳で、それぞれ他の層に比べて高い。

□希望する介護のあり方（在宅／施設）の回答結果 [一般高齢者]

単位:%

		n	自宅で、家族だけの介護を受けて暮らしたい	自宅で、家族の介護と介護保険サービスを利用しながら暮らしたい	自宅で、家族に面倒をかけないように主に介護保険サービスを利用して暮らしたい	有料老人ホームなどの介護付きの住まいで暮らしたい	特別養護老人ホームなどの介護保険施設で暮らしたい
一般高齢者	全体	797	8.9	24.3	26.3	5.4	7.3
【年齢】	男性 65～69歳	110	10.0	26.4	20.0	8.2	8.2
	70～74歳	82	6.1	35.4	24.4	2.4	4.9
	75～79歳	58	13.8	25.9	24.1	5.2	5.2
	80～84歳	56	14.3	25.0	16.1	8.9	1.8
	85歳以上	29	6.9	34.5	20.7	3.4	3.4
女性	65～69歳	99	5.1	24.2	25.3	2.0	12.1
	70～74歳	96	5.2	16.7	38.5	5.2	10.4
	75～79歳	103	8.7	22.3	31.1	4.9	10.7
	80～84歳	80	10.0	22.5	35.0	7.5	1.3
	85歳以上	65	15.4	21.5	18.5	7.7	7.7
【非認定者】	計	755	9.1	24.6	26.5	5.6	7.3
	二次予防対象者	209	11.5	24.4	26.3	6.7	10.5
	非認定者（二次対象除）	546	8.2	24.7	26.6	5.1	6.0
【地域】	月夜野地区	336	7.7	23.5	28.6	4.5	8.3
	水上地区	188	10.1	24.5	20.2	6.9	9.6
	新治地区	265	9.8	26.0	27.9	5.7	4.5

- 認定者の属性別に見ると、

「自宅で、家族の介護と介護保険サービスを利用」は 80～84 歳、月夜野地区で、「自宅で、家族に面倒をかけないように主に介護保険サービスを利用」は男性 85 歳以上、要支援で、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」は要介護 3-5、新治地区で、それぞれ他の層よりも高い。

□希望する介護のあり方（在宅／施設）の回答結果 [認定者]

単位:%

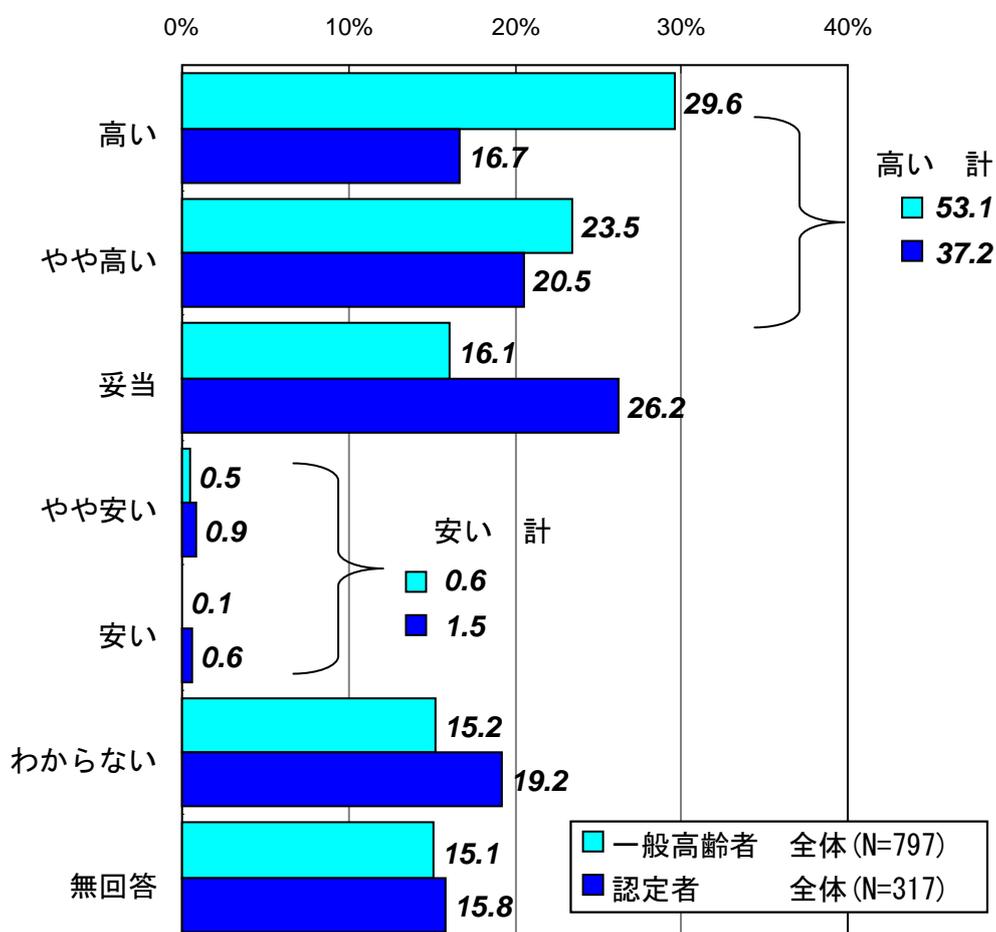
	n	自宅で、家族だけの介護を受けて暮らしたい	自宅で、家族の介護と介護保険サービスを利用しながら暮らしたい	自宅で、家族に面倒をかけないように主に介護保険サービスを利用して暮らしたい	有料老人ホームなどの介護付きの住まいで暮らしたい	特別養護老人ホームなどの介護保険施設で暮らしたい
認定者 全体	317	11.0	31.9	14.5	2.8	9.1
【年齢】 計 65～69歳	18	22.2	16.7	16.7	-	5.6
計 70～74歳	14	14.3	21.4	21.4	-	7.1
計 75～79歳	34	8.8	32.4	14.7	-	8.8
計 80～84歳	77	7.8	40.3	7.8	5.2	9.1
男性 80～84歳	25	8.0	40.0	12.0	4.0	12.0
女性 80～84歳	52	7.7	40.4	5.8	5.8	7.7
計 85歳以上	162	11.1	30.9	17.3	1.9	10.5
男性 85歳以上	37	13.5	24.3	24.3	-	8.1
女性 85歳以上	125	10.4	32.8	15.2	2.4	11.2
【介護度】 要支援 1－2	113	12.4	31.9	21.2	4.4	7.1
要介護 1－2	78	10.3	35.9	14.1	2.6	7.7
要介護 3－5	93	10.8	29.0	4.3	1.1	15.1
要介護（計）	171	10.5	32.2	8.8	1.8	11.7
【地域】 月夜野地区	145	13.1	35.9	15.2	2.8	8.3
水上地区	77	10.4	27.3	11.7	3.9	6.5
新治地区	91	8.8	30.8	15.4	2.2	12.1

5. 介護保険料について

(1) 介護保険料の負担感

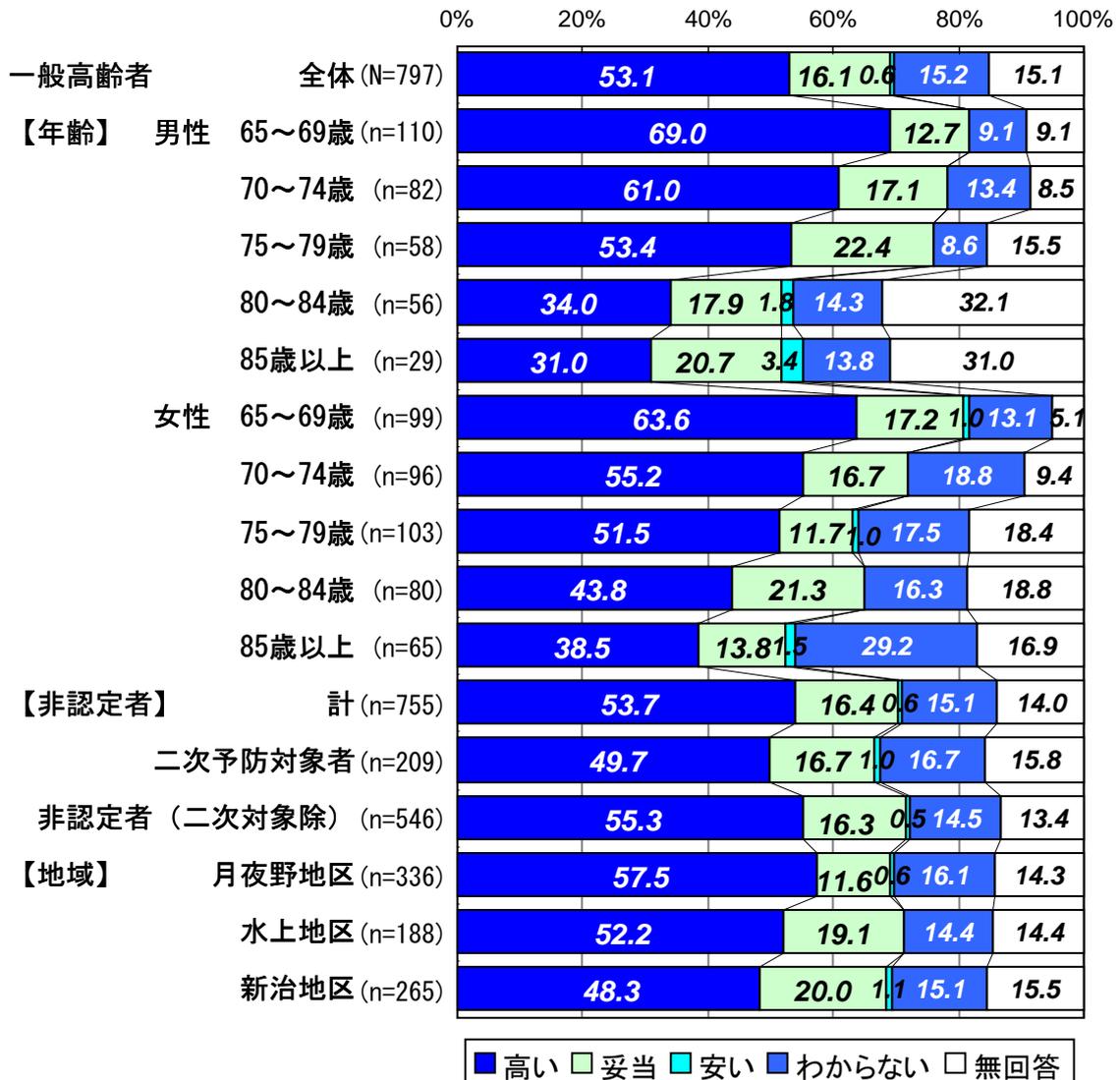
- 一般高齢者の全体では、介護保険料の負担感について「高い」が29.6%と最も多く、「やや高い」(23.5%)とあわせて《高い》は53.1%と半数を超える。「妥当」は16.1%、《安い》は0.6%。
- 認定者の全体では、「妥当」が26.2%で最も多く、認定者のほうが、一般高齢者よりも介護保険料の負担について妥当感を抱いている。《高い》は37.2%（「高い」が16.7%、「やや高い」が20.5%）、《安い》は1.5%。

□介護保険料の負担感の回答結果 [一般高齢者／認定者]



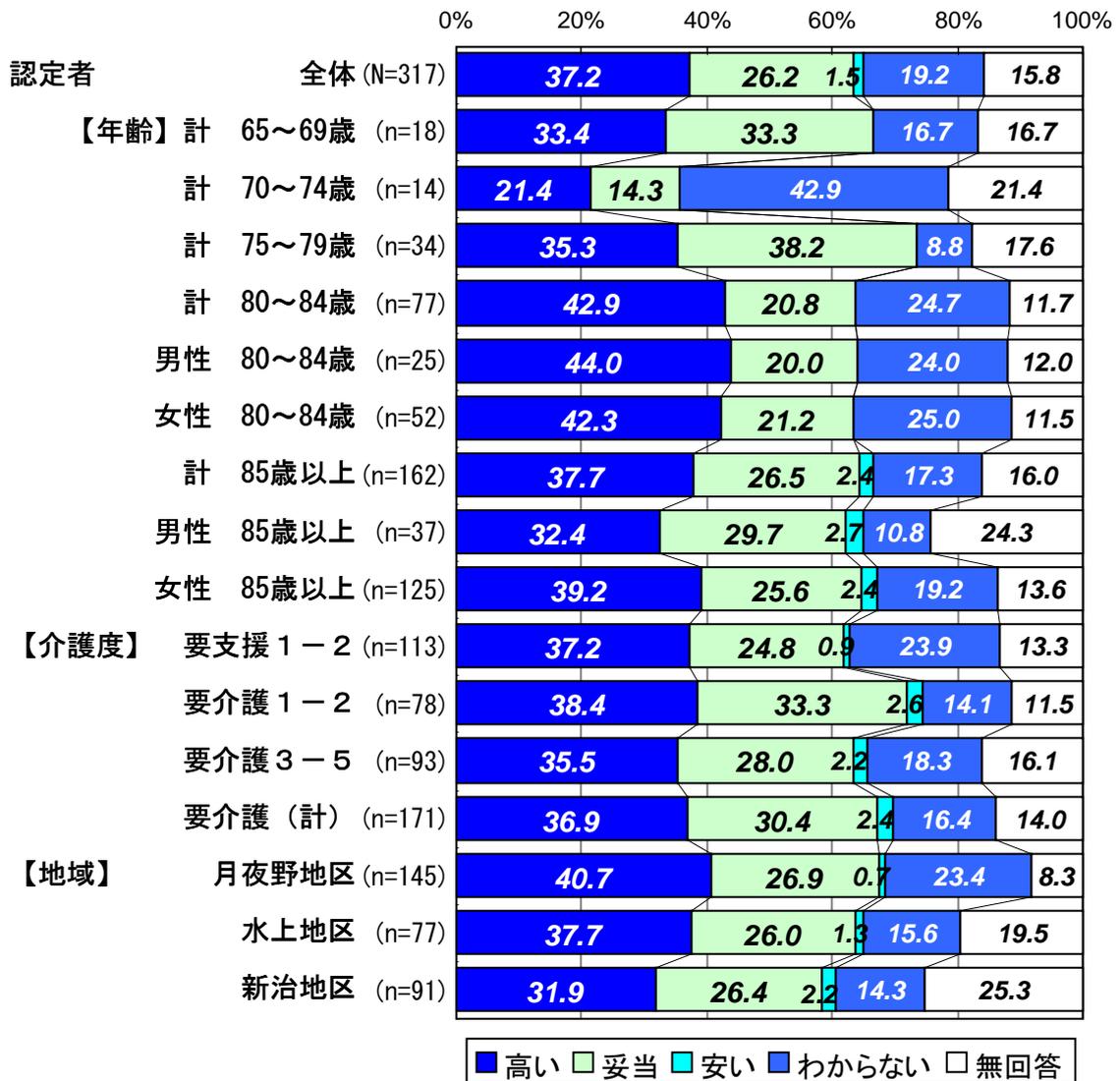
- 一般高齢者の年齢別では、《高い》は男女ともに高年齢層になるほど減少するが、「妥当」感が増すというよりは、「わからない」「無回答」が増加しているためと言える。
- 二次予防対象者では、《高い》が49.7%。一般にあたる非認定者は55.3%。
- 地域別では、月夜野地区で《高い》が比較的高く、「妥当」が低い（他の2地区に比べ、負担感をより強く感じている）。

□介護保険料の負担感の回答結果 [一般高齢者]



- 認定者の年齢別では、「妥当」が75～79歳で38.2%と他の年齢層に比べて高いことが目立つ。同様に、要介護1-2でも、「妥当」が他の層に比べると目立つ。
- 地域別では、新治地区で《高い》の率が、他の2地区に比べて低くなるものの、これは「わからない」「無回答」が多いためと言える。

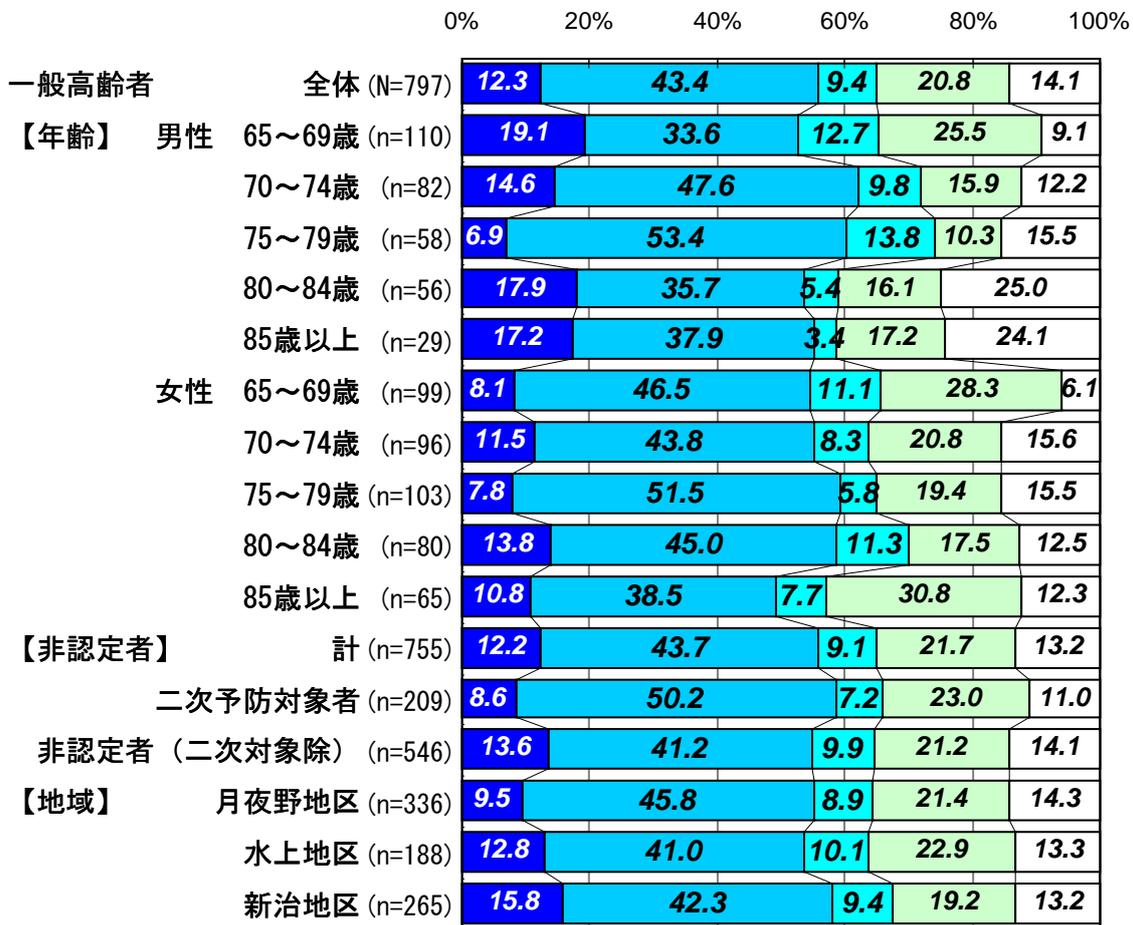
□介護保険料の負担感の回答結果 [認定者]



(2) 介護保険料についての考え

- 介護保険料の増減とサービス提供量などの関係についての考えを、一般高齢者の全体で見ると、「サービスの種類や量は現状のまま／保険料は上げない」が43.4%で最も多い。「サービス充実のため／保険料を上げる」は12.3%、「サービス減少も／保険料を下げる」は9.4%。
- 「サービスの種類や量は現状のまま／保険料は上げない」が他の年齢層より高いのは男女の75～79歳。二次予防対象者でも50.2%と半数に達する。
- 「サービス充実のため／保険料を上げる」は男性65～69歳で比較的高く、地区別で見た場合、月夜野→水上→新治と増加する傾向。

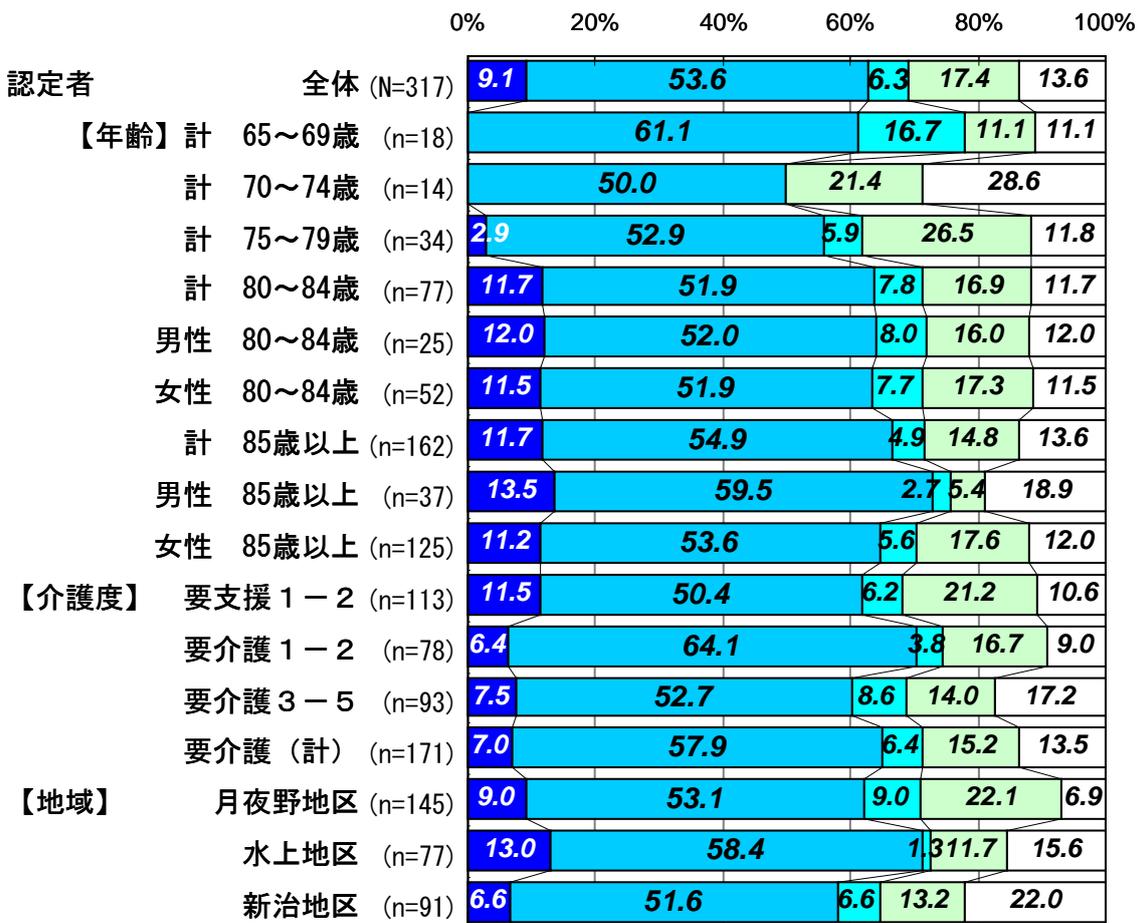
□介護保険料についての考えの回答結果 [一般高齢者]



- 介護保険料が高くなっても、サービスの種類や量を充実させてほしい
- サービスの種類や量は現状のままで良いので、介護保険料は上げないでほしい
- サービスの種類や量は今より減らして良いので、介護保険料を下げてほしい
- わからない □ 無回答

- 認定者の全体で見ると、「サービスの種類や量は現状のまま／保険料は上げない」が53.6%で最も多い。「サービス充実のため／保険料を上げる」は9.1%、「サービス減少も／保険料を下げる」は6.3%。
- 「サービスの種類や量は現状のまま／保険料は上げない」は、要介護1-2で他の介護度に比べて高い。
- 「サービス充実のため／保険料を上げる」は、水上地区で他の2地区よりも高い傾向。

□介護保険料についての考えの回答結果 [認定者]



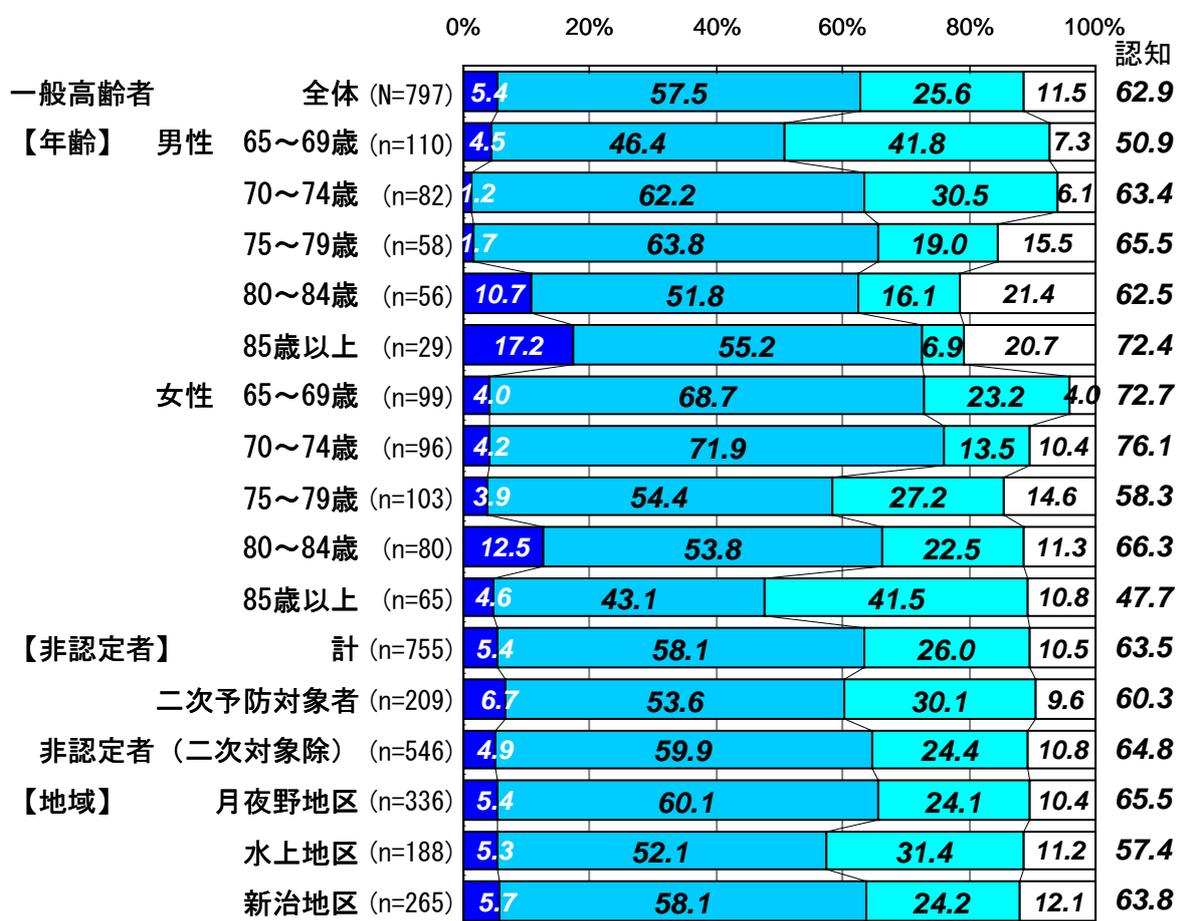
- 介護保険料が高くなっても、サービスの種類や量を充実させてほしい
- サービスの種類や量は現状のまま良いので、介護保険料は上げないでほしい
- サービスの種類や量は今より減らして良いので、介護保険料を下げてほしい
- わからない □ 無回答

6. 「町の登録サポーター支援事業」について

(1) 「町の登録サポーター支援事業」の認知・利用経験

- 一般高齢者の全体では、町の登録サポーター支援事業を「利用したこともある」が 5.4%、「知ってはいるが、利用したことはない」が 57.5%を占め、「知らない」は 25.6%。《認知》率は 62.9%となる。
- 年齢別に見ると、「利用したこともある」は男性で 80 歳以上、女性では 80～84 歳で 1 割超。《認知》率が他の年齢層に比べて低いのは、男性の 65～69 歳、女性の 85 歳以上。
- 二次予防対象者の《認知》率は 60.3%。一般にあたる非認定者の 64.8%を下回る。
- 地域別では、水上地区の《認知》率が、他の 2 地区より低い。

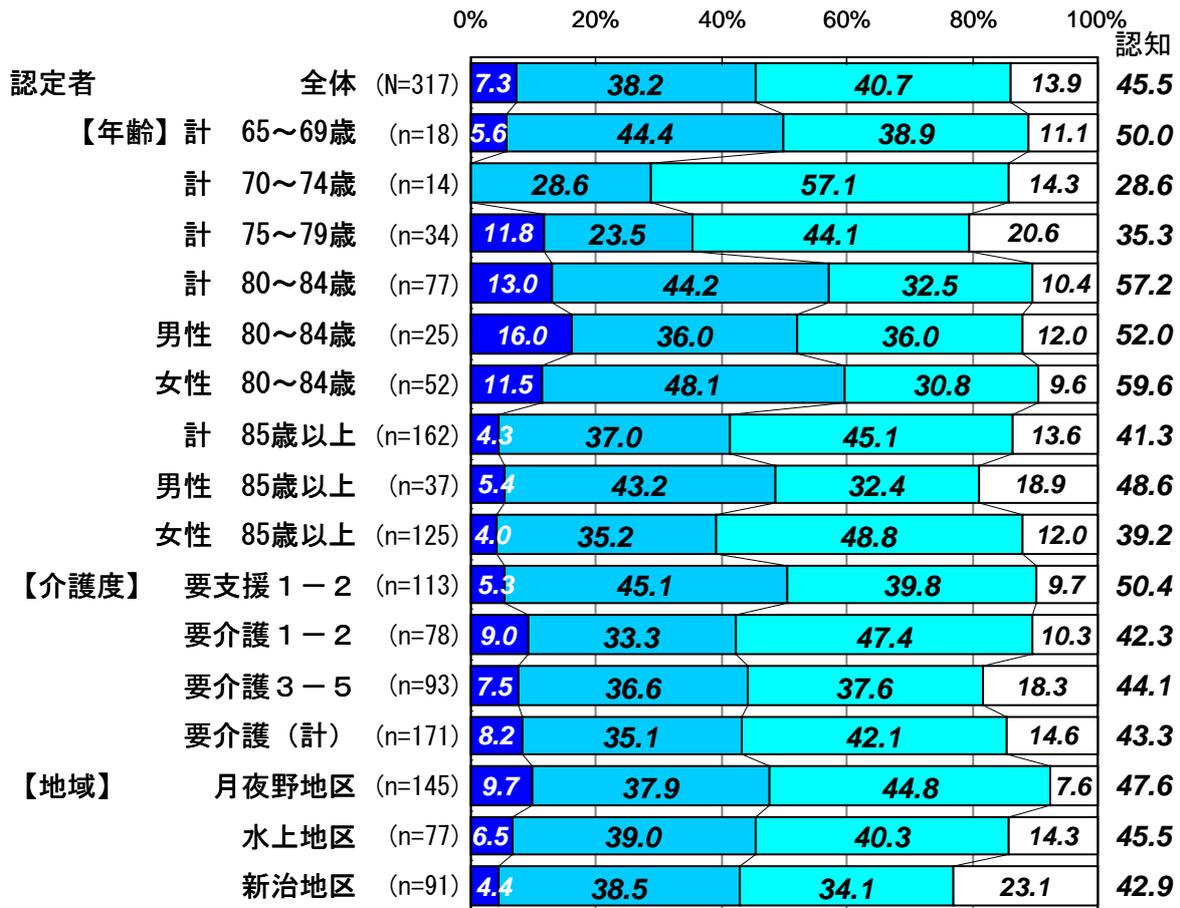
□ 「町の登録サポーター支援事業」の認知・利用経験の回答結果 [一般高齢者]



認知 {
 ■ 知っているし、利用したこともある
 ■ 知ってはいるが、利用したことはない
 ■ 知らない □ 無回答

- 認定者の全体では、「知らない」が40.7%、次いで「知っているが、利用したことはない」が38.2%。「利用したこともある」は7.3%で、《認知》率は45.5%となる。
- 年齢別に見ると、75歳以上では75～84歳までの層で「利用したこともある」が1割超。
- 地域別では、月夜野地区で「利用したこともある」、《認知》ともに他の2地区よりやや高い。

□ 「町の登録サポーター支援事業」の認知・利用経験の回答結果 [認定者]

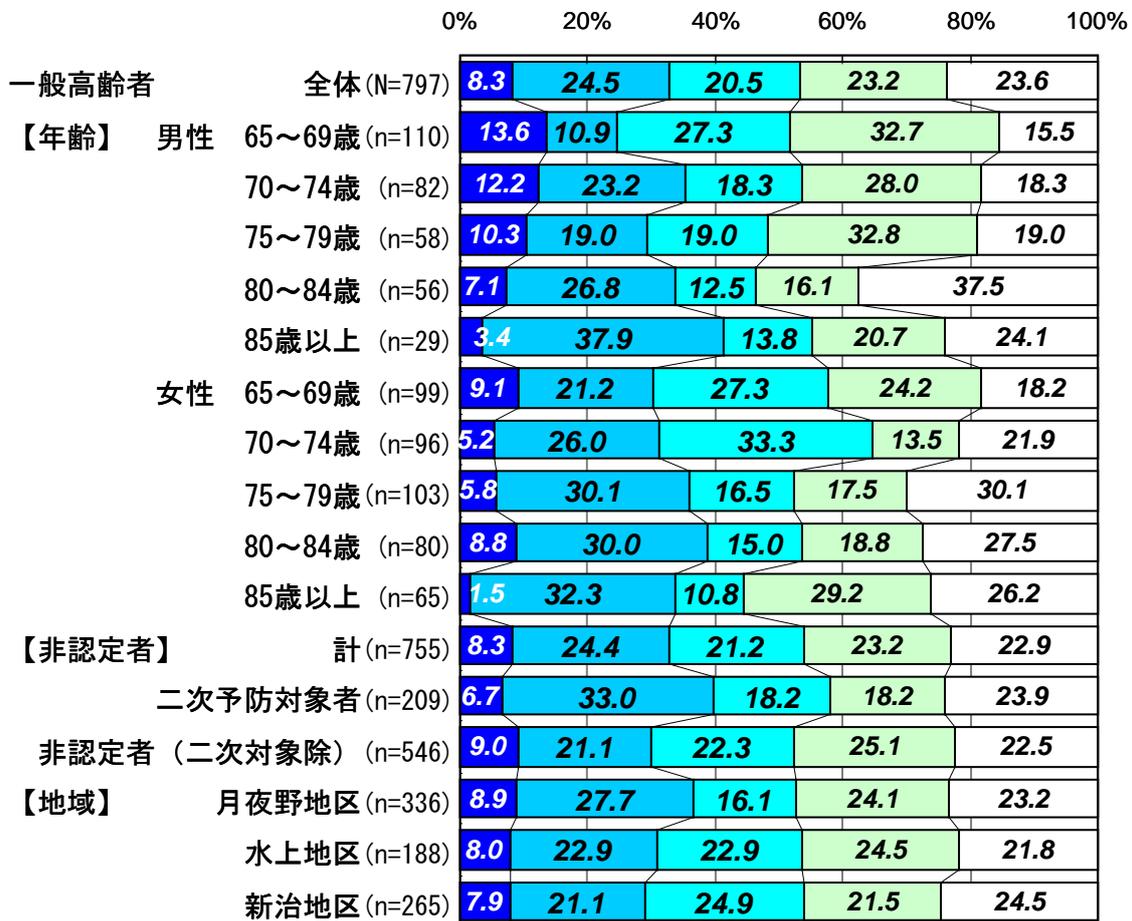


認知 {
 ■ 知っているし、利用したこともある
 ■ 知っているが、利用したことはない
 ■ 知らない □ 無回答

(2) 「町の登録サポーター支援事業」の利用意向

- 一般高齢者の全体では、町の登録サポーター支援事業を「支援してもらおう側として利用」が 24.5%と最も多く、「サポーターとしても支援される側としても利用」が 20.5%。「支援するサポーターとして利用」は 8.3%。
- 年齢別に見ると、男性は「支援してもらおう側として利用」は高年齢層で、「サポーターとして」「両方として」は相対的な若年齢層でより高い。女性も概ね同様の傾向といえる。
- 二次予防対象者では、「支援してもらおう側として利用」が 33.0%で、一般にあたる非認定者の 21.1%を大きく上回る。
- 地域別では、月夜野地区で「支援してもらおう側として利用」が、他の 2 地区よりも高い。

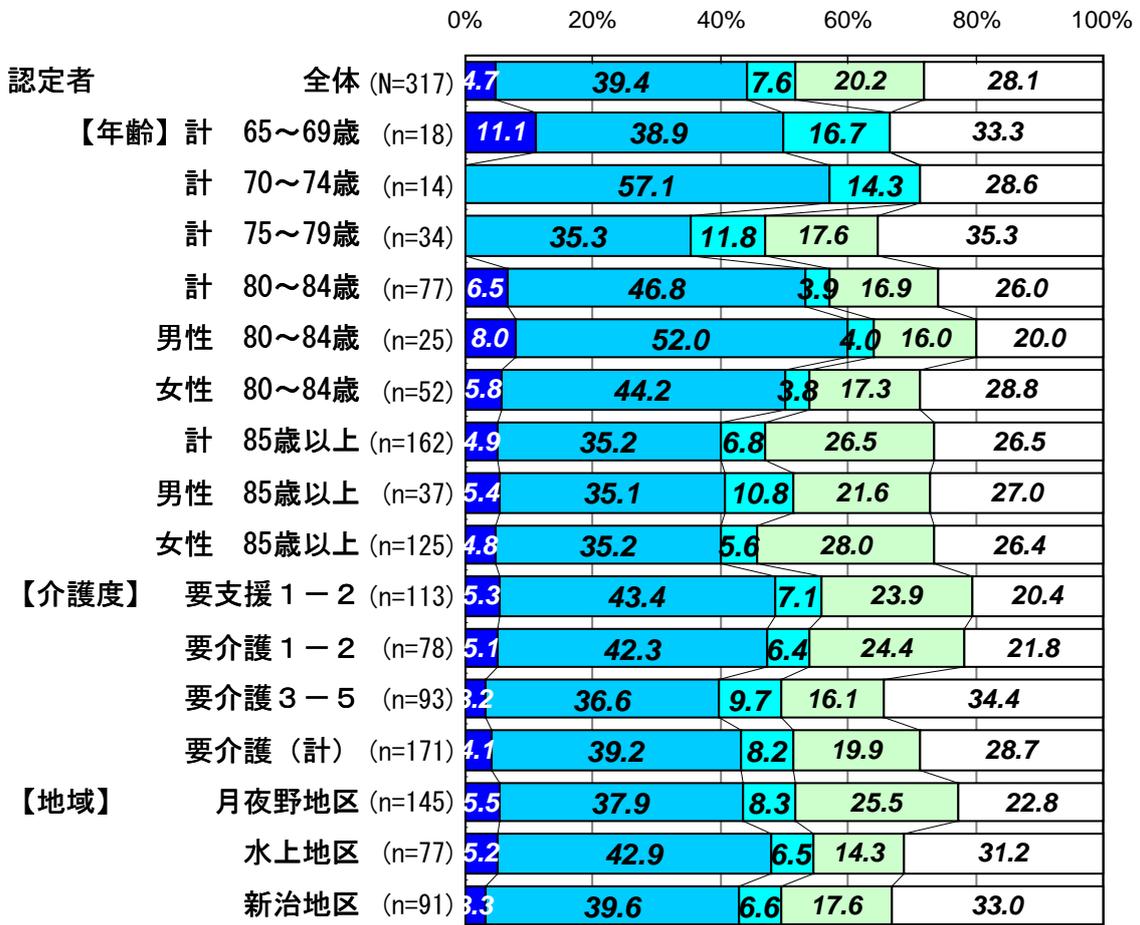
□ 「町の登録サポーター支援事業」の利用意向の回答結果 [一般高齢者]



- 支援するサポーターとして利用したい
- 支援してもらおう側として利用したい
- サポーターとしても支援される側としても利用したい
- 利用したいと思わない □ 無回答

- 認定者の全体では、「支援してもらおう側として利用」が 39.4%と最も多く、「サポーターとしても支援される側としても利用」は 7.6%、「支援するサポーターとして利用」は 4.7%。

□ 「町の登録サポーター支援事業」の利用意向の回答結果 [認定者]

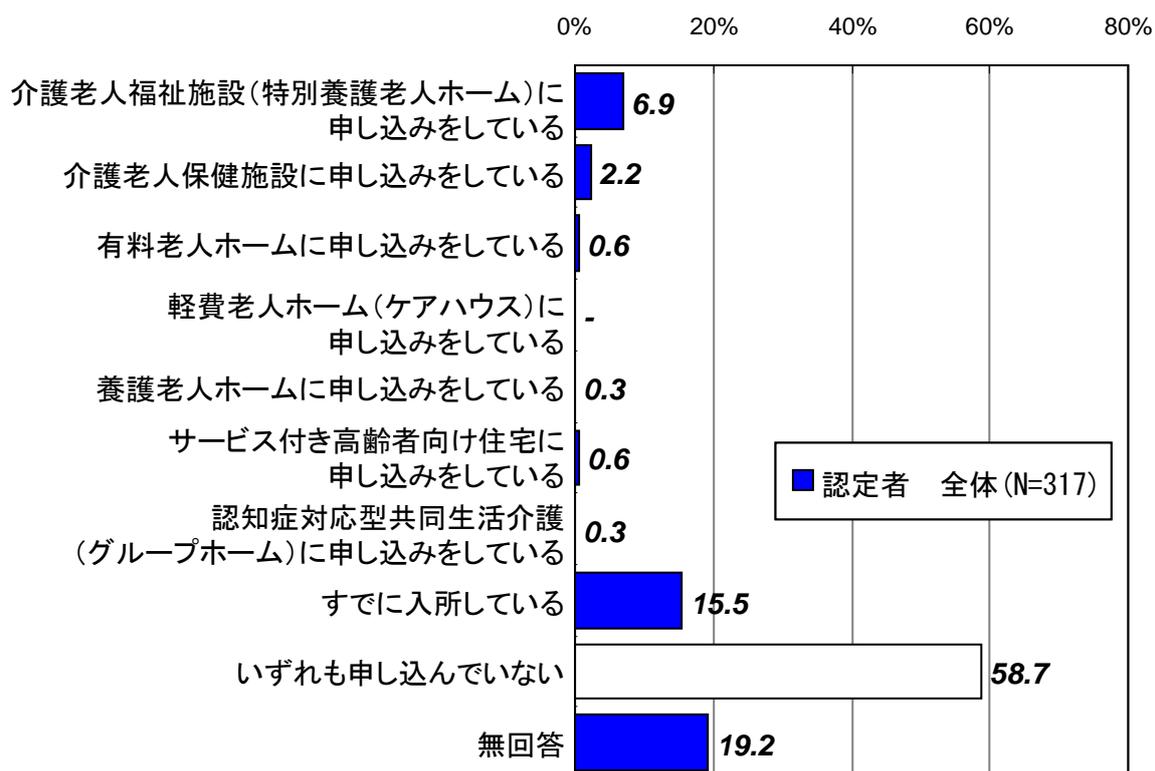


- 支援するサポーターとして利用したい
- 支援してもらおう側として利用したい
- サポーターとしても支援される側としても利用したい
- 利用したいと思わない □ 無回答

7. 介護保険施設等への申込み状況

- 認定者の全体では、「いずれも申し込んでいない」が 58.7%を占める。一方、「すでに入所」は 15.5%。
- 申し込んでいる施設としては、「介護老人福祉施設」が 6.9%でトップ。

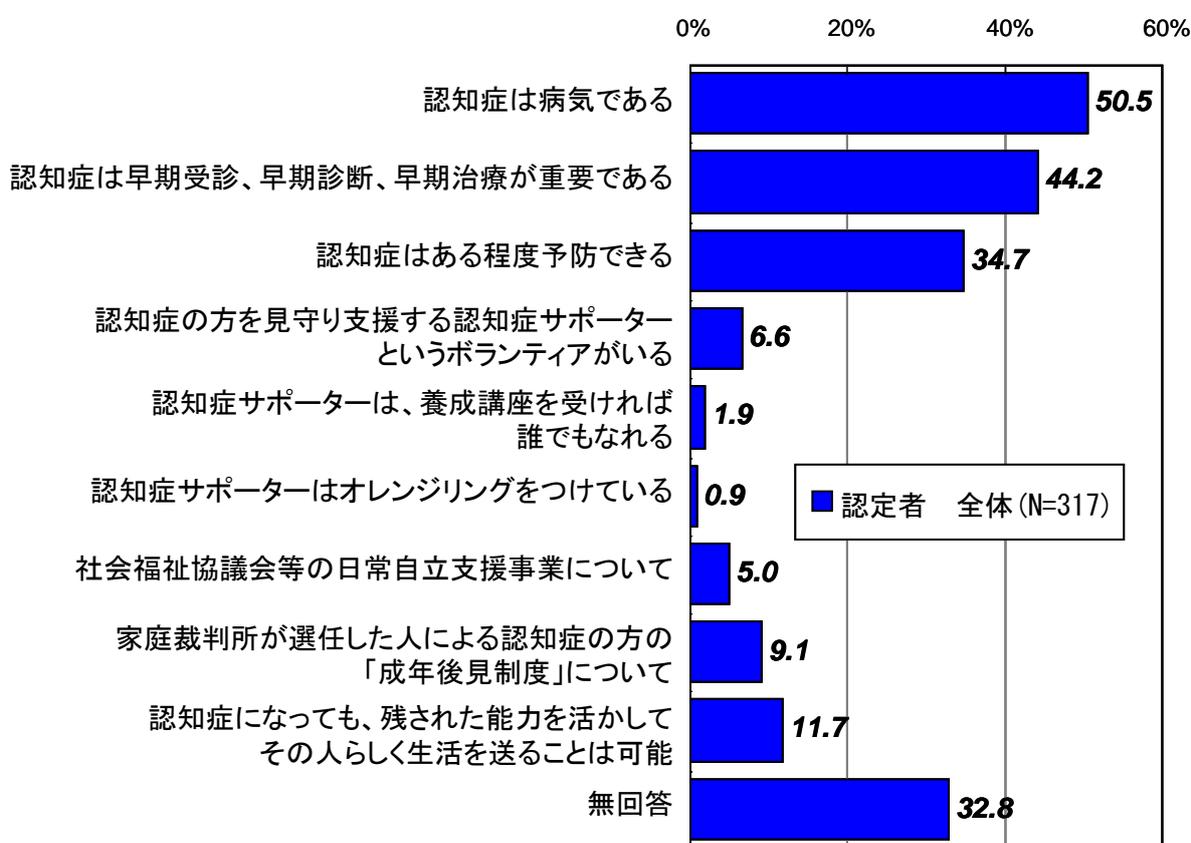
□介護保険施設等への申込み状況の回答結果（複数回答） [認定者]



8. 認知症についての理解内容

- 認定者の全体では、「認知症は病気である」(50.5%)が最も多い。「早期受診、早期診断、早期治療が重要」(44.2%)、「ある程度予防できる」(34.7%)までが3割以上で、理解されている内容のトップ3。
- 「認知症サポーター」については6.6%、「社会福祉協議会等の日常自立支援事業」については5.0%、「成年後見制度」については9.1%と、いずれも認知度は1割未満にとどまる。
- 「認知症になっても、残された能力を活かしてその人らしく生活を送ることは可能」は11.7%。

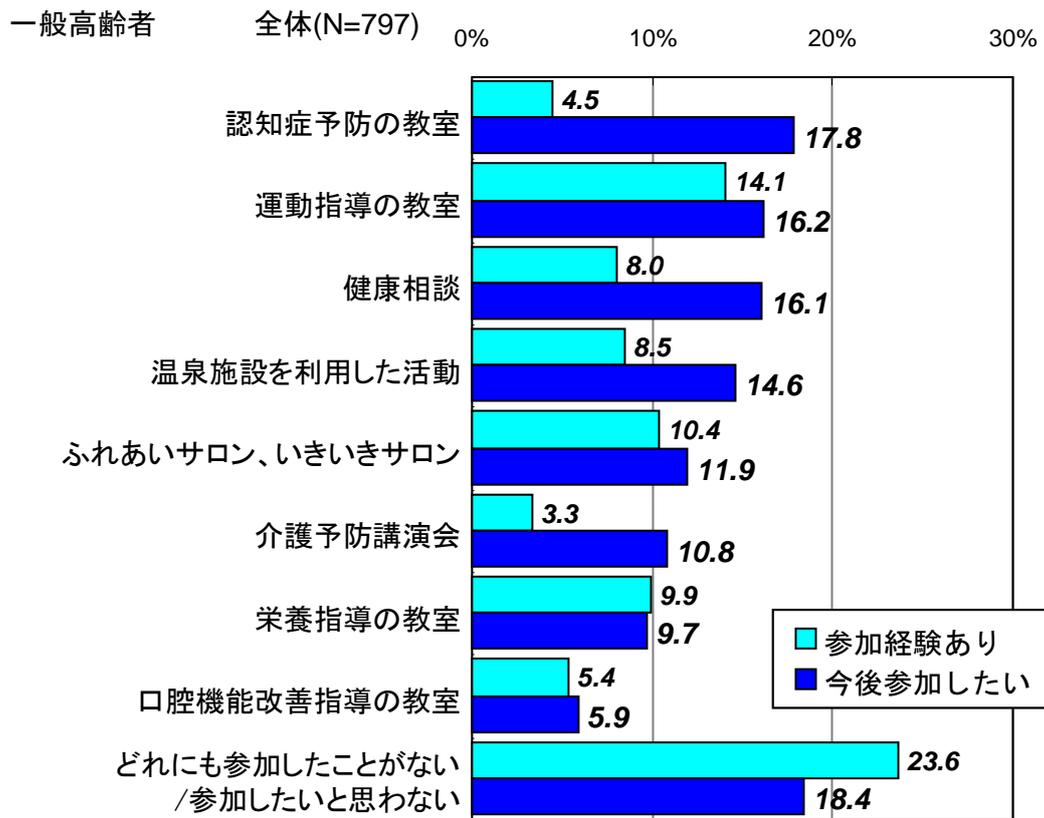
□認知症についての理解内容の回答結果（複数回答） [認定者]



9. 町の「介護予防事業」の参加経験・今後の参加意向

- 一般高齢者の全体では、「介護予防事業」の参加経験のトップは「運動指導の教室」(14.1%)。次いで「ふれあいサロン、いきいきサロン」(10.4%)、「栄養指導の教室」(9.9%)。
- 今後の参加意向が最も多い活動は、「認知症予防の教室」で17.8%、以下、「運動指導の教室」「健康相談」「温泉施設を利用した活動」と続く。「参加したいと思わない」は18.4%。

〇町の「介護予防事業」の参加経験・今後の参加意向の回答結果（複数回答） [一般高齢者]

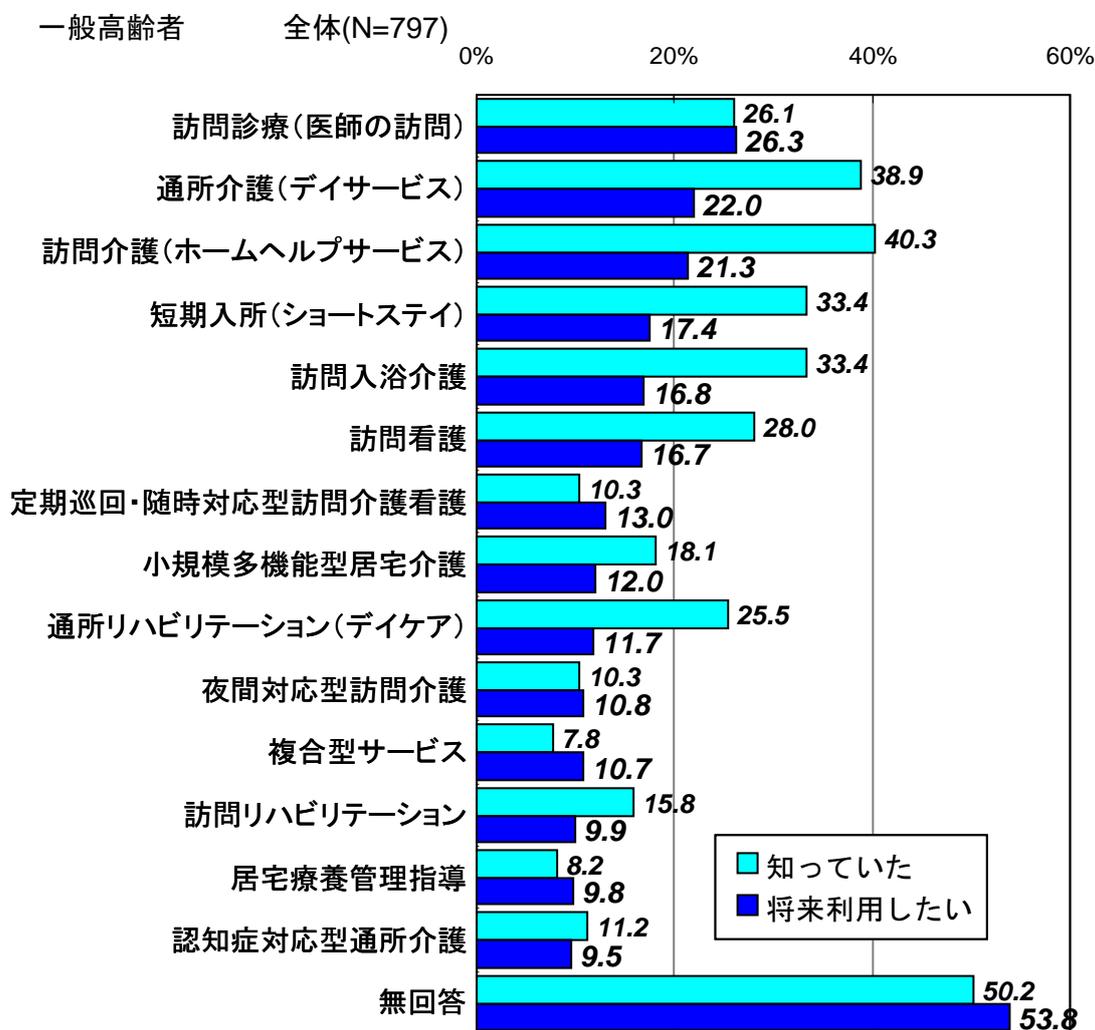


10. 介護保険・在宅サービスの認知および今後の利用意向

- 一般高齢者の全体で認知度が高い在宅サービスとしては、「訪問介護」(40.3%)、「通所介護」(38.9%)が約4割でトップ2。次いで、「短期入所」(33.4%)、「訪問入浴介護」(33.4%)、「訪問看護」(28.0%)、「訪問診療」(26.1%)と続く。
- 将来利用したいサービスは、「訪問診療」の26.3%を筆頭に、「通所介護」(22.0%)、「訪問介護」(21.3%)、「短期入所」(17.4%)、「訪問入浴介護」(16.8%)、「訪問看護」(16.7%)の順。

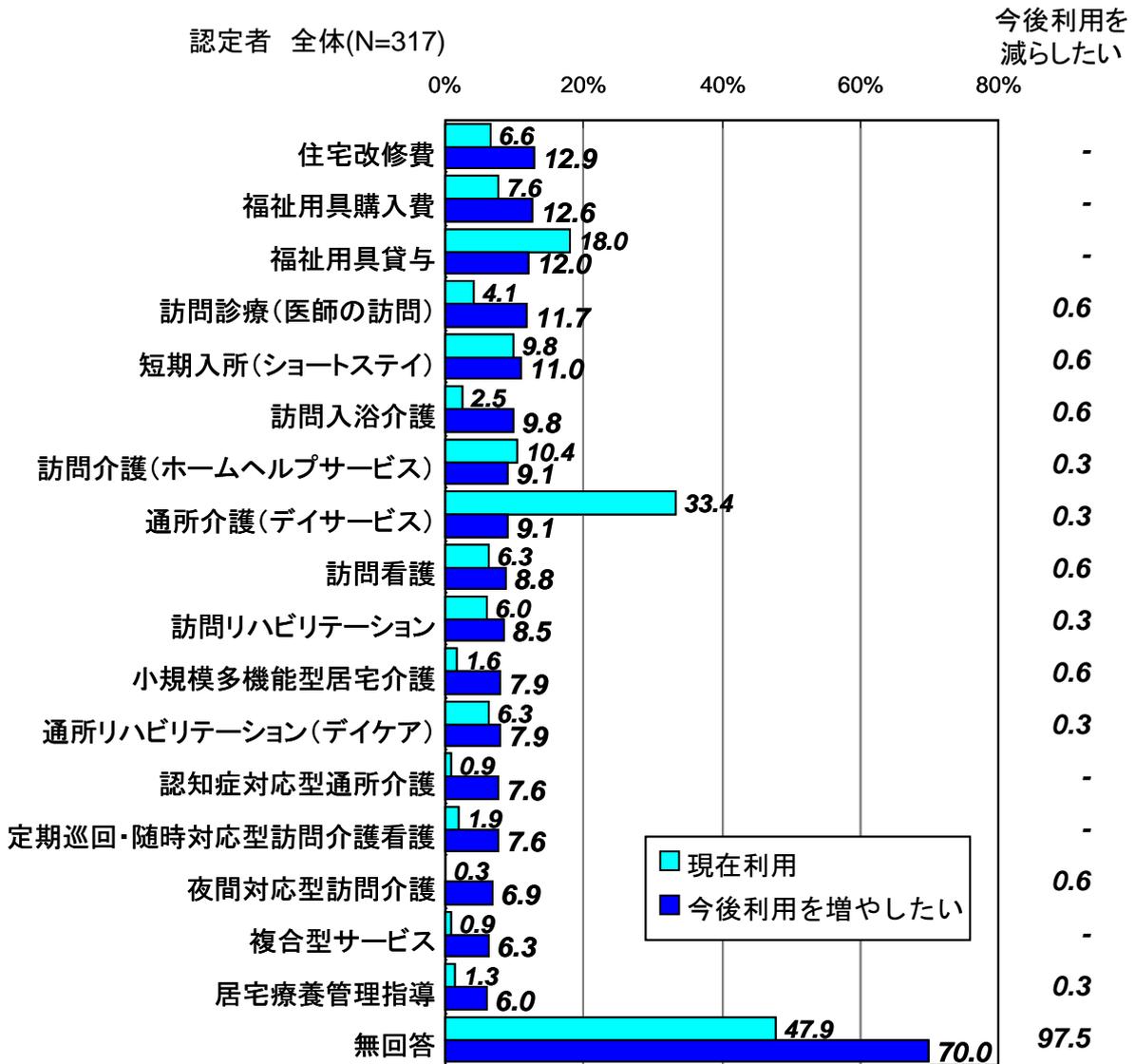
□介護保険・在宅サービスの認知および今後の利用意向の回答結果（複数回答）

[一般高齢者]



- 認定者の全体では、現在利用しているサービスとして「通所介護」(33.4%)を筆頭に、「福祉用具貸与」(18.0%)、「訪問介護」(10.4%)、「短期入所」(9.8%)と続く。
- 今後利用を増やしたいサービスは、順に「住宅改修費」(12.9%)、「福祉用具購入費」(12.6%)、「福祉用具貸与」(12.0%)、「訪問診療」(11.7%)、「短期入所」(11.0%)。

□介護保険・在宅サービスの今後の利用意向の回答結果（複数回答） [認定者]

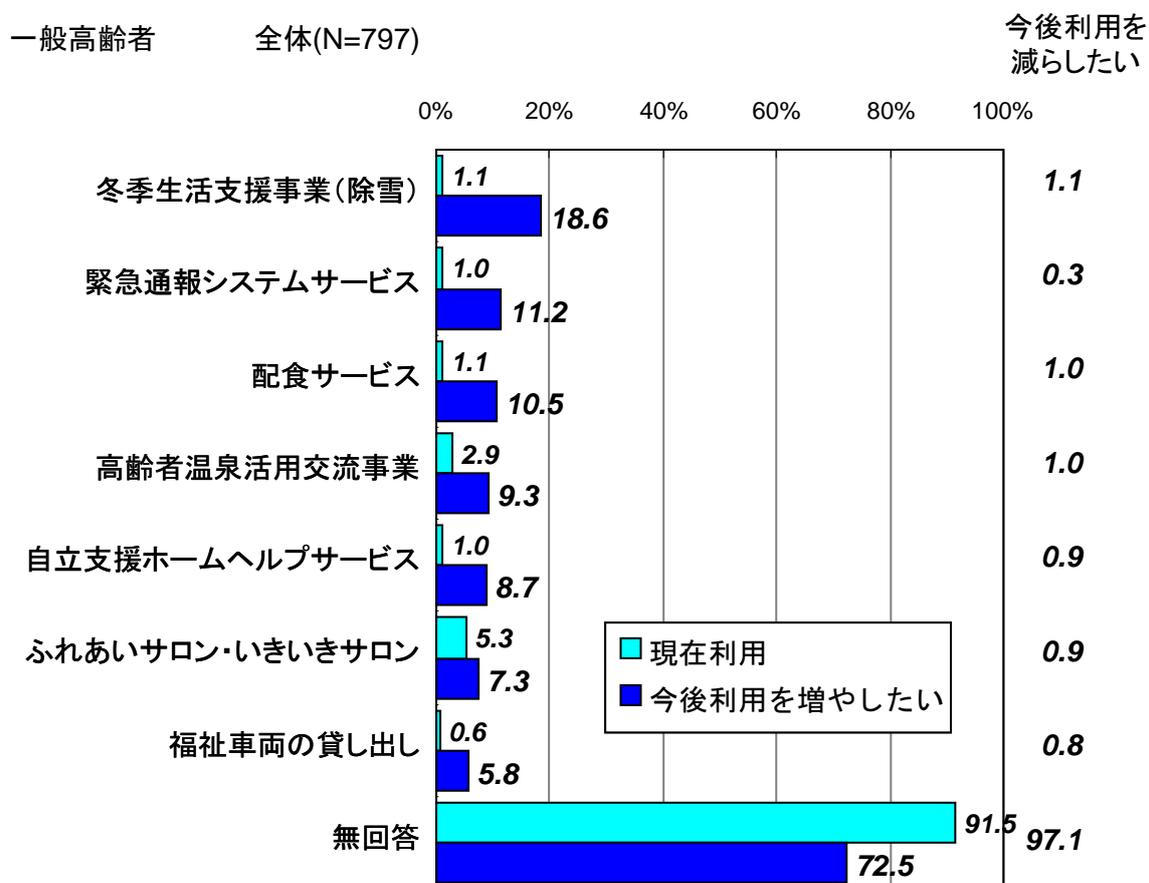


11. 高齢者福祉サービスの利用状況および今後の利用意向

- 一般高齢者の全体で見ると、現在利用している高齢者福祉サービスは「ふれあいサロン、いきいきサロン」5.3%、次いで「高齢者温泉活用交流事業」(2.9%)。
- 今後利用を増やしたいサービスのトップは、「冬季生活支援事業(除雪)」の18.6%。以下、「緊急通報システムサービス」(11.2%)、「配食サービス」(10.5%)、「高齢者温泉活用交流事業」(9.3%)。

□ 高齢者福祉サービスの利用状況および今後の利用意向の回答結果(複数回答)

[一般高齢者]



- 認定者の全体で見ると、現在利用している高齢者福祉サービスは「紙おむつ支給事業」15.8%が最も多く、他に「配食サービス」(3.8%)、「地域福祉有償運送事業」(3.2%)など。
- 今後利用を増やしたいサービスのトップは、「冬季生活支援事業(除雪)」の14.2%。以下、「紙おむつ支給事業」(12.9%)、「緊急通報システムサービス」(11.0%)、「配食サービス」(10.7%)、「高齢者温泉活用交流事業」(8.2%)。

□高齢者福祉サービスの利用状況および今後の利用意向の回答結果(複数回答) [認定者]

認定者 全体(N=317)

今後利用を
減らしたい

